

長岡京市

男女共同参画社会についての市民意識調査

報 告 書

平成22年3月

長岡京市

はじめに

男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現に向けて、平成 18 年度から 5 年計画として策定した「長岡京市男女共同参画計画 第 4 次計画」が平成 22 年度をもって最終年を迎えます。

男女共同参画社会の実現は、平成 11 年に施行された男女共同参画社会基本法に【 21 世紀の我が国社会を決定する最重要課題である】と位置づけられているように、真に豊かで活力のある男女平等社会を形成するために必要不可欠なものです。

長岡京市では、第 4 次計画の成果を踏まえ、男女共同参画の課題の解決や新たな取り組みに向けて「長岡京市男女共同参画計画 第 5 次計画」の策定、そして男女共同参画に関する推進条例の検討にあたり、市民の皆様のお考えや意識、実態を調査いたしました。この報告書は調査結果をまとめたものです。調査結果は、男女共同参画社会の実現に向けて、行政のそれぞれの施策に活かしていきたいと考えています。

また、市民の皆様には男女共同参画への理解を深めるための基礎資料として、ご活用いただきたいと思います。

この調査にご協力いただいた皆様に、心から感謝を申し上げます。

平成 22 年 3 月
長 岡 京 市

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の方法	3
3. 回収状況	3
4. 報告書の見方	4
5. 標本誤差	4
6. 回答者の属性	5
II. 調査結果のまとめ	13
1. 仕事について	15
2. 教育について	16
3. 男女の意識について	17
4. 生活や健康について	18
5. 人権の尊重について	21
6. 男女共同参画社会について	23
III. 調査結果の分析	25
1. 仕事について	27
2. 教育について	41
3. 男女の意識について	50
4. 生活や健康について	61
5. 人権の尊重について	83
6. 男女共同参画社会について	94
IV. 調査結果からみえてくるもの	103
V. 自由意見のまとめ	111
1. 自由意見の要約	113
2. 主な自由意見	117
VI. 調査票	123

I . 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、市民の男女共同参画社会に関する意識と実態を知ることにより、「(仮称)長岡京市男女共同参画計画 ～第5次計画～」の策定、「(仮称)長岡京市男女共同参画推進条例」の制定ならびに、市民と共に市が行う男女共同参画社会の形成に向けた施策を推進するための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の方法

(1) 調査対象

市内在住の満20歳以上の男女

(2) 標本数

2,000人(女性1,032人、男性968人)

(3) 抽出方法

住民基本台帳及び外国人登録原票から無作為抽出(基準日:平成21年7月1日)

(4) 調査方法

郵送による配布及び回収(調査期間前に予告はがきを1回送付)

(5) 調査期間

平成21年7月21日から8月10日まで

(6) 調査内容

- ①回答者の属性
- ②仕事について
- ③教育について
- ④男女の意識について
- ⑤生活や健康について
- ⑥人権の尊重について
- ⑦男女共同参画社会について

3. 回収状況

標本数	回収数	無効数	有効回収数(率)			
2,000 (100.0%)	1,012 (50.6%)	2 (0.1%)	全体	女性	男性	不明 (「答えない」を含む)
			1,010 (50.5%)	506 (49.0%)	497 (51.3%)	7

4. 報告書の見方

- (1) 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数（副設問では設問該当対象数）に対する百分比（%）を表している。1人の対象者に2以上の回答を求める設問では、百分比（%）の合計は100.0%を超える。
- (2) 百分比（%）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しないことがある。
- (3) 分類別の表中の百分比（%）は、すべて各分類項目の該当対象数を100.0%として算出した。
- (4) 図表にある「N」は、集計対象票数（あるいは、分類別の該当対象数）を示し、比率は「N」を100.0%として表した。
- (5) クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目、および「その他」「不明（無回答）」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。
- (6) 表の単位は、2段の場合、上段が実数、下段が構成比（%）、1段の場合、構成比（%）である。
- (7) 固定的性別役割分担意識との関連をみるクロス集計については、問14に基づいており、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人を〈肯定意見〉、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した人を〈否定意見〉としている。
- (8) 表中の網かけは、最も高い割合を示している。

5. 標本誤差

本調査の主な回答率における標本誤差の幅は次のとおりである。

【標本誤差の1/2幅を求める公式】（信頼度95%の場合）

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

ただし

N = 母集団数 女性：30,871

男性：29,840

n = 標本数 女性：506

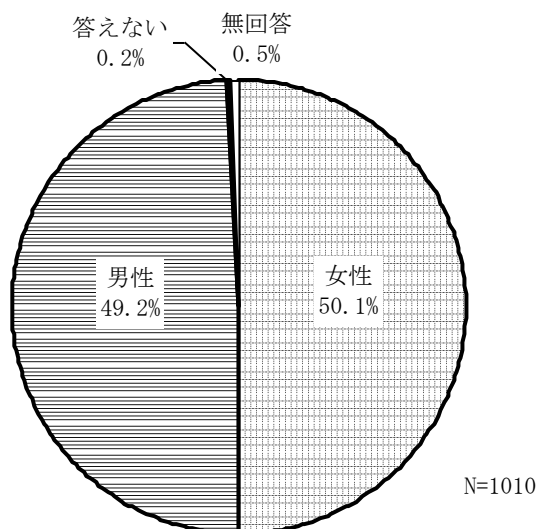
男性：497

P = 標本測定値（回答率：%）

P (%)	標本誤差	
	女性	男性
50%	±4.3	±4.4
45%または55%	±4.3	±4.3
40%または60%	±4.2	±4.3
35%または65%	±4.1	±4.2
30%または70%	±4.0	±4.0
25%または75%	±3.7	±3.8
20%または80%	±3.5	±3.5
15%または85%	±3.1	±3.1
10%または90%	±2.6	±2.6
5%または95%	±1.9	±1.9

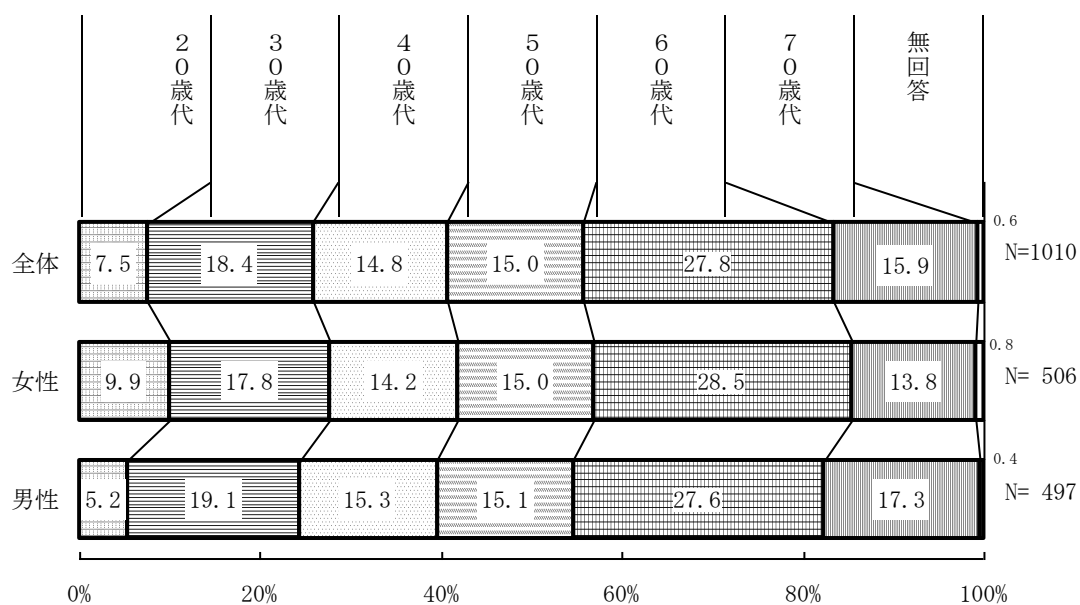
6. 回答者の属性

(1) 性別



「女性」50.1%、「男性」49.2%で、男女ほぼ同率となっている。

(2) 年齢



年代をみると、男女ともに60歳代が最も高く、ともに30%弱である。60歳以上の割合が女性42.3%、男性44.9%であり、50歳代を含めると約60%を占めている。

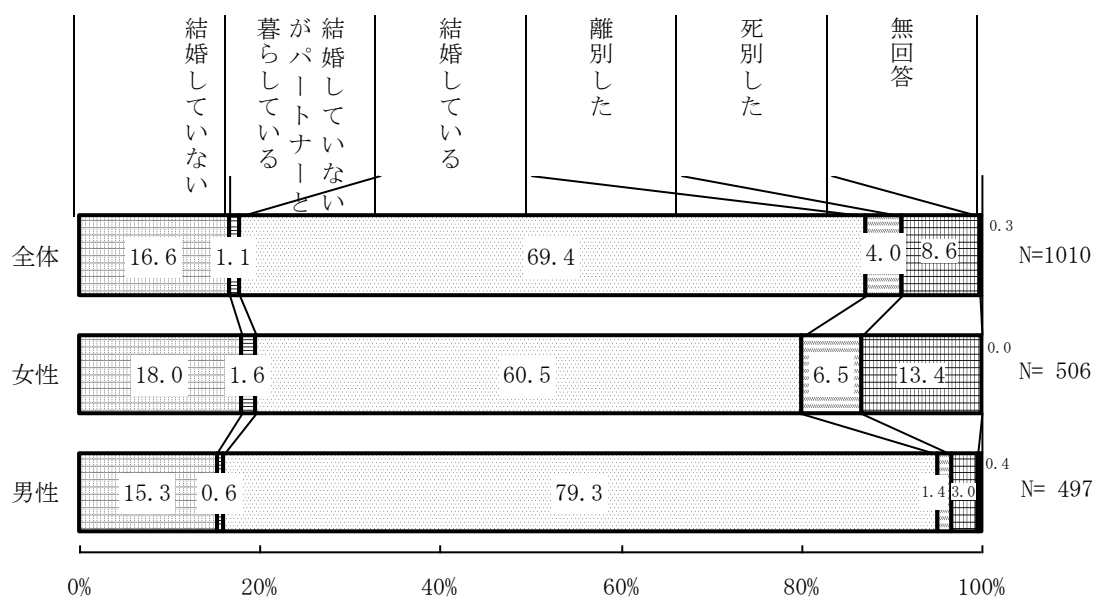
本市の母集団の人口構成比と比較すると、20歳代を筆頭に若年層では母集団と比べて低く、60歳代では母集団と比べて高くなっている。よって、調査の結果をみるとときには、60歳以上の回答をより多く反映していることを考慮する必要がある。

母集団の性別・年齢層別人口構成比（平成 21 年 7 月 2 日現在）

	全体	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代
女性	30,871	14.2	20.9	16.5	16.6	19.7	12.1
男性	29,840	15.2	21.9	17.7	15.5	18.7	11.0

(人、%)

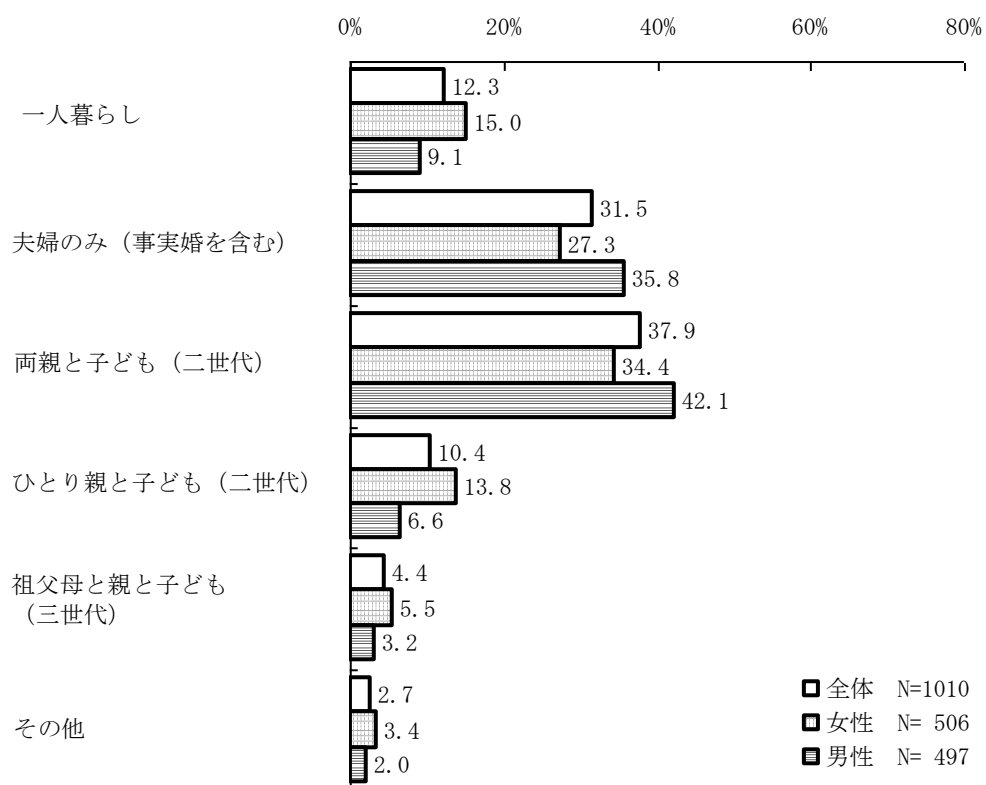
(3) 結婚の状況



男女ともに「結婚している（事実婚を含む）」が最も高く、女性 60.5%・男性 79.3%で、男性の方が高くなっている。

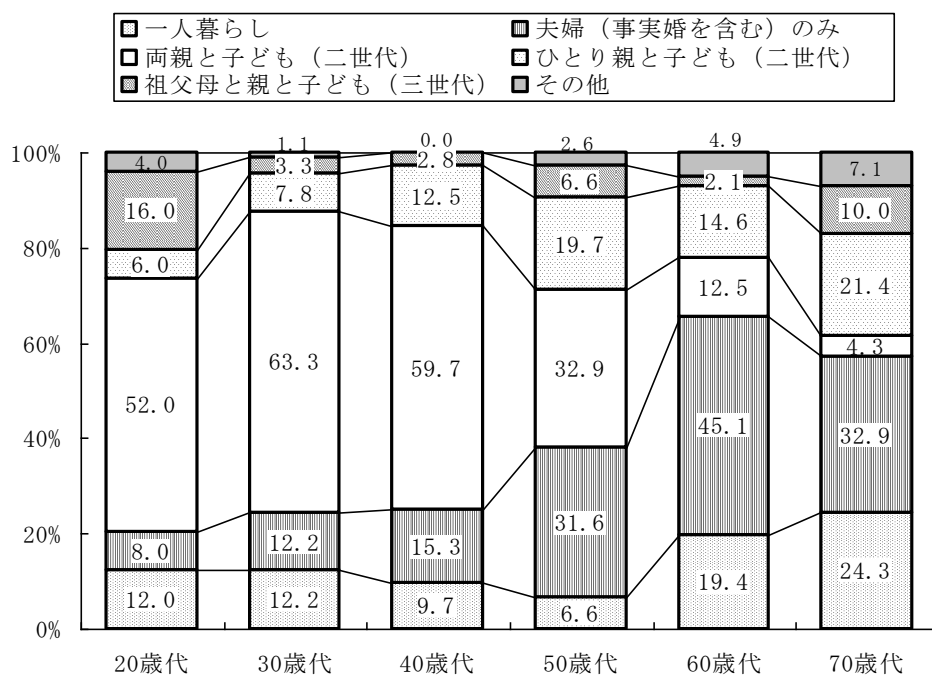
一方、「離別した」の割合は、女性 6.5%・男性 1.4%で、女性の方が高くなっている。

(4) 世帯状況

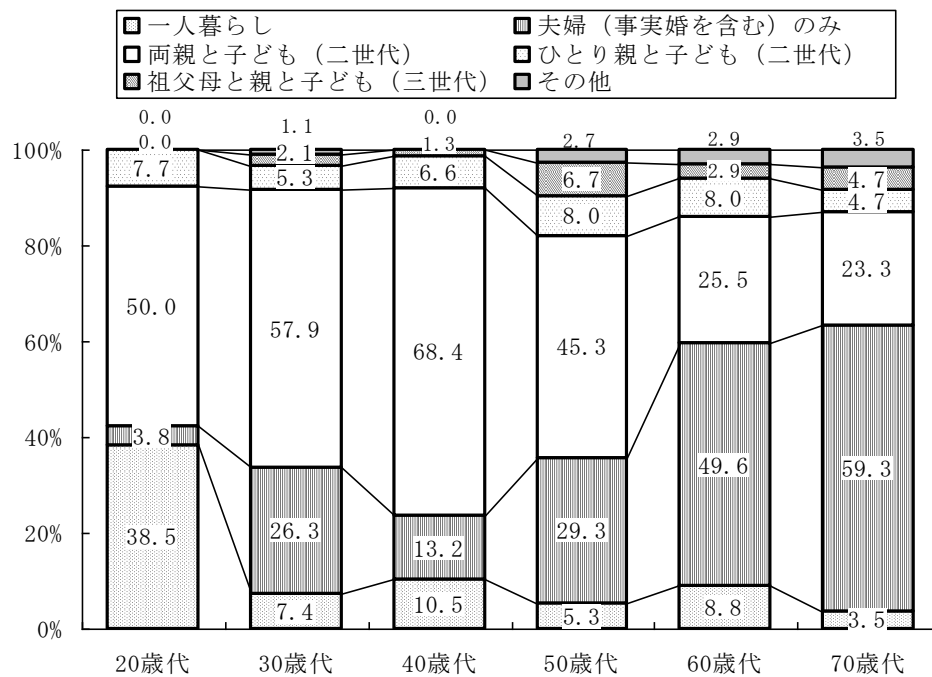


世帯の状況では、「両親と子ども (二世帯)」が最も高く、女性 34.4%・男性 42.1%である。次いで、「夫婦のみ (事実婚を含む)」が女性 27.3%・男性 35.8%となっている。女性の場合は、「ひとり親と子ども (二世帯)」が 13.8%で男性より高くなっている。

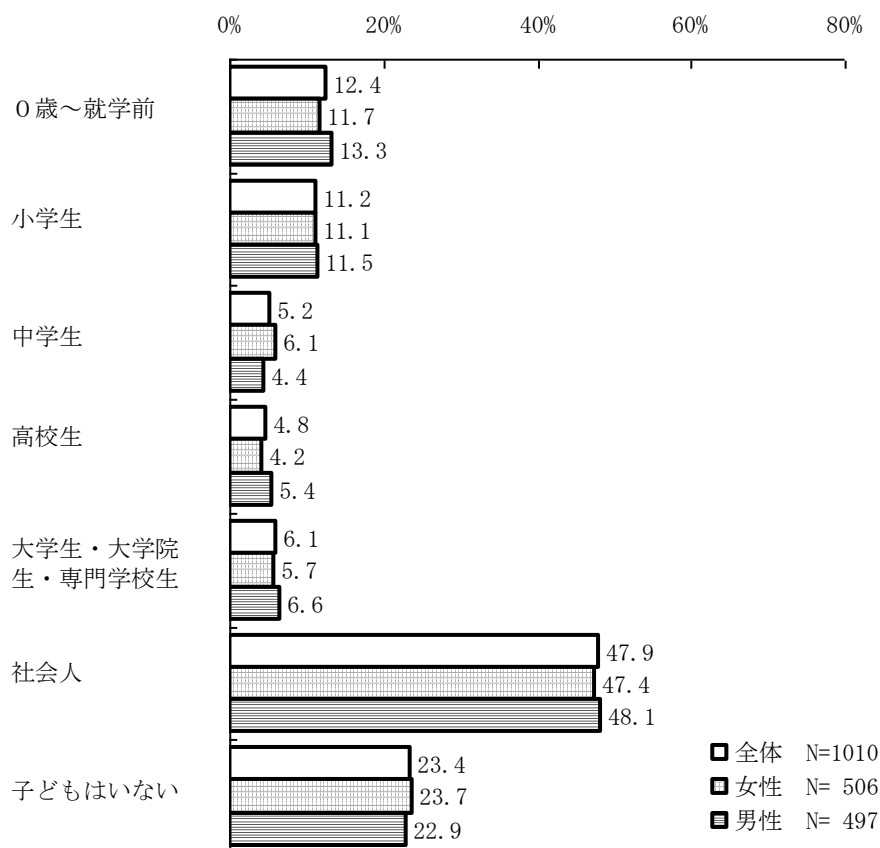
性別・年齢層別 世帯状況 《女性》



性別・年齢層別 世帯状況 《男性》

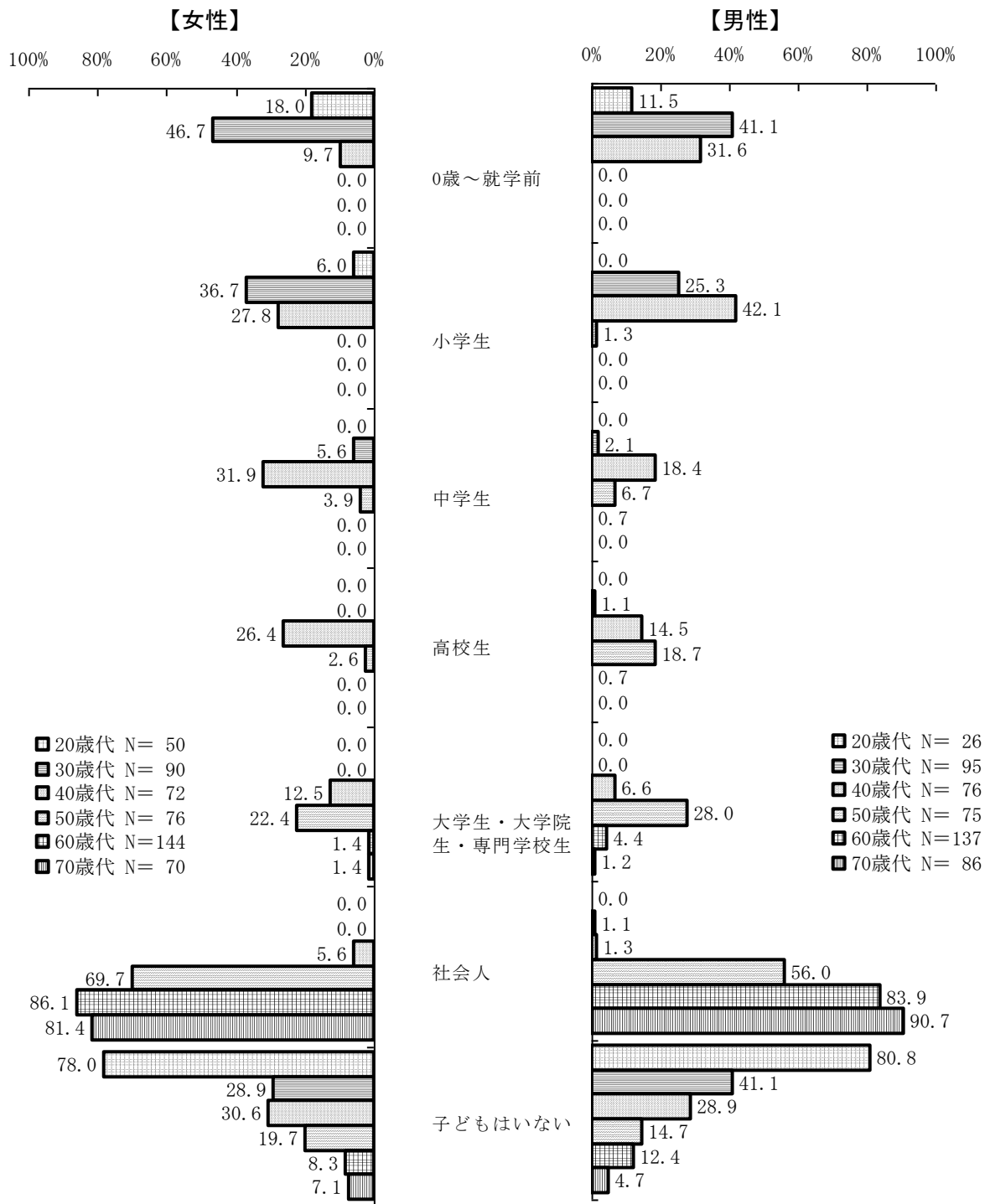


（５）子どもの年齢

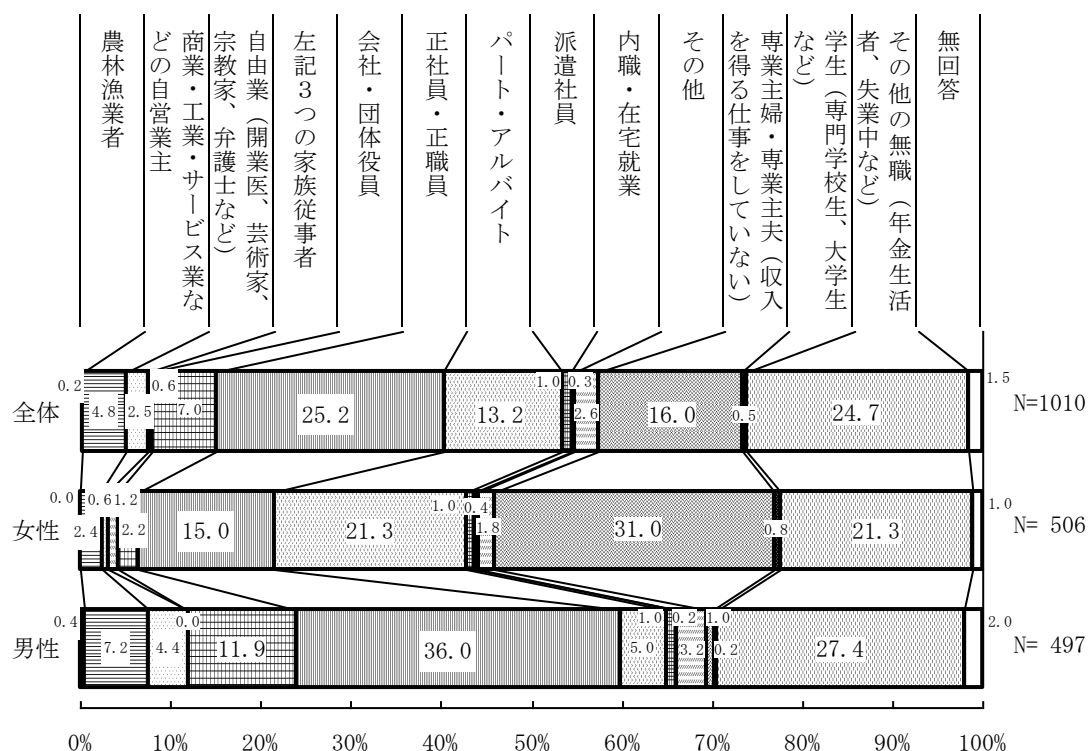


子どもの年齢は、男女ともに「社会人」の割合が最も高く約 50%。ついで、「0歳～就学前」「小学生」の割合は10%強、「子どもはいない」の割合が20%強となっている。

性別・年齢層別 子どもの年齢



(6) 職業



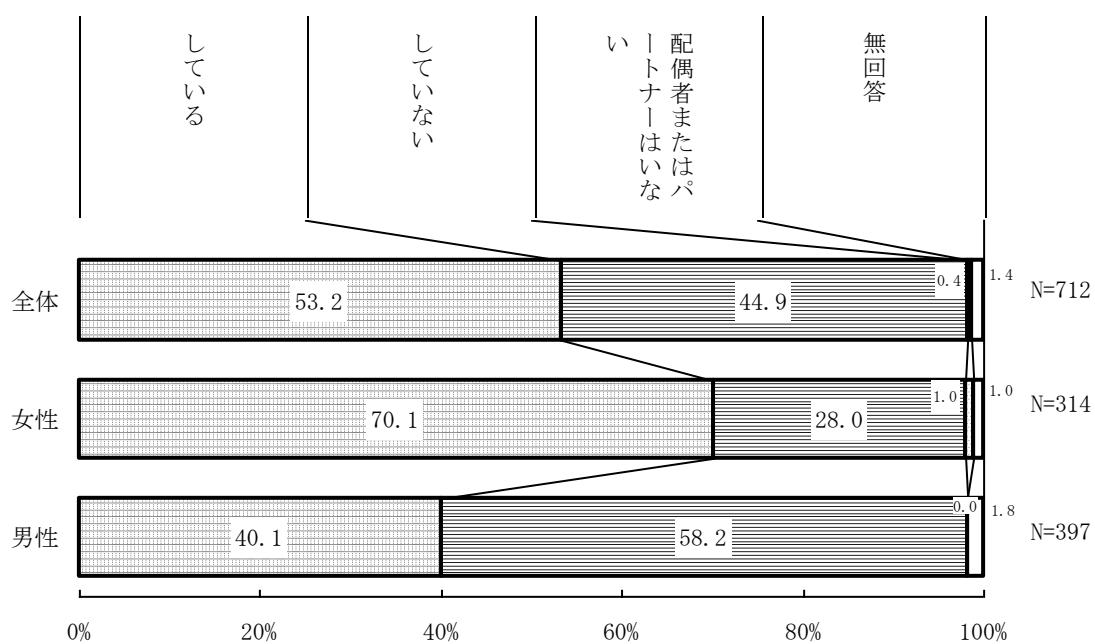
性別にみると、女性は「専業主婦・専業主夫（収入を得る仕事をしていない）」の割合が最も高く 31.0%である。ついで、「パート・アルバイト」「その他の無職（年金生活者、失業中など）」がそれぞれ 21.3%、「正社員・正職員」は 15.0%となっている。

男性は、「正社員・正職員」の割合が 36.0%で最も高く、ついで、「その他の無職（年金生活者、失業中など）」が 27.4%、「会社・団体役員」が 11.9%である。

表 性別・年齢層別 職業

		対象者数（人）	自営・自営業				勤め人				内職・在宅就業	その他	無職・学生			
			農林漁業者	商業・工業・サービス業などの自営業主	自由業（開業医、芸術家、宗教家、弁護士など）	左記3つの家族従事者	会社・団体役員	正社員・正職員	パート・アルバイト	派遣社員			専業主婦・専業主夫（収入を得る仕事をしていない）	大学生（専門学校生、大学生など）	その他の無職（年金生活者、失業中など）	
女性	20歳代	50	-	-	2.0	-	10.0	44.0	18.0	2.0	-	-	8.0	8.0	8.0	
	30歳代	90	-	-	-	1.1	2.2	24.4	24.4	-	1.1	3.3	41.1	-	2.2	
	40歳代	72	-	1.4	2.8	-	1.4	23.6	41.7	2.8	1.4	-	23.6	-	1.4	
	50歳代	76	-	3.9	-	2.6	2.6	13.2	30.3	1.3	-	3.9	31.6	-	10.5	
	60歳代	144	-	5.6	-	1.4	0.7	2.8	14.6	0.7	-	2.1	38.9	-	29.9	
	70歳代	70	-	-	-	1.4	-	-	2.9	-	-	-	25.7	-	70.0	
男性	20歳代	26	-	3.8	-	-	3.8	57.7	19.2	-	-	7.7	-	3.8	3.8	
	30歳代	95	-	6.3	2.1	-	9.5	73.7	1.1	2.1	-	2.1	-	-	1.1	
	40歳代	76	-	3.9	10.5	-	22.4	56.6	1.3	-	-	3.9	-	-	1.3	
	50歳代	75	-	13.3	4.0	-	24.0	41.3	2.7	1.3	-	1.3	1.3	-	9.3	
	60歳代	137	-	8.0	5.1	-	8.8	12.4	8.8	1.5	0.7	5.1	1.5	-	45.3	
	70歳代	86	2.3	5.8	2.3	-	2.3	3.5	4.7	-	-	1.2	2.3	-	72.1	

(7) 配偶者の仕事の状況



男女を比較すると、女性の配偶者の方が 30 ポイント「仕事をしている」割合が高くなっている。

表 性別・年齢層別 配偶者の仕事の状況

		対象者数 (人)	仕事 している	仕事 していない	無 回答
女性	20 歳代	8	100.0	0.0	0.0
	30 歳代	30	100.0	0.0	0.0
	40 歳代	36	94.4	5.6	0.0
	50 歳代	29	96.6	3.4	0.0
	60 歳代	26	53.8	46.2	0.0
	70 歳代	2	0.0	100.0	0.0
男性	20 歳代	4	50.0	50.0	0.0
	30 歳代	70	57.1	42.9	0.0
	40 歳代	59	50.8	49.2	0.0
	50 歳代	57	50.9	47.4	1.8
	60 歳代	57	49.1	45.6	5.3
	70 歳代	17	29.4	64.7	5.9

※対象者数は本人が就業している人の人数

Ⅱ． 調査結果のまとめ

1. 仕事について

1－1. 現在の仕事の状況

現在の仕事の有無をたずねたところ、女性 40.5%・男性 59.6%が仕事をしており、男性の方が 19.1 ポイント高い。

年齢層別にみると、女性の場合は 20 歳代で一番「仕事をしている」割合が高く 66.0%。しかし、30 歳代では 53.3%と低くなり、40 歳代でまた 63.9%と 2 番目のピークとなる。

男性の場合は、20 歳代から 40 歳代にかけて 80%以上が仕事をしており、30 歳代 86.3%、40 歳代 88.2%と高くなっている。

1－2. いまの仕事の不満や悩み

仕事をしている女性 205 人、男性 296 人に、いまの仕事にどんな不満や悩みがあるかについてたずねた。不満や悩みが「特にない」は女性 25.4%・男性 20.9%で、それを除くと女性 74.6%・男性 79.1%が何らかの悩みや不安を持っていることになる。

男女別に「いまの仕事の不満や悩み」の上位 3 位をみると、男女ともに、第 1 位は「収入が少ない」（女性 45.9%・男性 44.9%）。ついで、2 位は「休暇がとりにくい」（女性 28.3%・男性 30.1%）。3 位は、女性の場合は「職場の人間関係がむずかしい」（22.0%）、男性の場合は「労働時間が長い」（25.0%）である。

職業別にみると、自営業では、男女ともに「収入が少ない」が最も高く、女性 54.5%・男性 56.0%である。正社員・正職員では、女性の場合、「休暇がとりにくい」が 50.7%と抜きん出て高い。男性の場合は、「将来が不安（リストラ・解雇）」である（24.4%）、「職場の人間関係がむずかしい」（20.0%）で職業別中一番高い。パート・アルバイトでは、女性において「収入が少ない」の割合が 49.5%である。

1－3. 男女で違う待遇の内容

いまの仕事にどんな不満や悩みがあるかについてたずねた項目の中で、「昇進や昇給などの待遇が男女で違う」と回答した女性 17 人、男性 14 人に、その内容についてたずねた。

標本数が少ないために、おおまかな傾向としてしか語れないものの、男女ともに「昇進・昇給」において『男性』の方が優遇されている」とする割合が 70%を超えている。

女性ではこの他に「給与・賃金」においても『男性』の方が優遇されている」とする割合が 70%を超えている。

男性では、「仕事の内容、仕事の分担」「能力・成果の評価」において 50%を上回るほか、「採用・募集」「給与・賃金」では 40%強である。

相対的にみると男性の方が『男性』の方が優遇されている」とする割合が高くなっているものの、「勤務時間」に関しては、男性の 42.9%が『女性』の方が優遇されている」としている。

1－4. 昨年 1 年間の収入

「現在働いている人」の昨年 1 年間の収入（税込み）をみると、女性の場合は、「103

万円未満」が 32.7%、「103 万円～200 万円未満」が 23.4%で、回答者の 56.1%が「200 万円未満」の収入である。

男性の場合は、「500 万円～700 万円未満」20.3%、「300 万円～400 万円未満」16.9%、「700 万円～1,000 万円未満」が 16.2%。300 万円～1,000 万円の収入枠に 67.9%が入る。女性の 70.2%が 300 万円未満の収入であることと対照的である。

職業別でみると、「自営業」では、女性の 3/4 が 300 万円未満であるのに対して、男性は「200 万円～400 万円未満」を中心に収入にばらつきがある。

「正社員・正職員」では、男女とも各金額層にちらばっているものの、そのピークは女性が「300 万円～400 万円未満」(27.6%)に対して、男性は「500 万円～700 万円未満」(25.1%)である。

「パート・アルバイト」では、女性の場合「103 万円未満」で 57.4%、「103 万円～200 万円未満」で 30.6%と、200 万円未満が 90%弱であるのに対して、男性は「103 万円未満」36.0%、「103 万円～200 万円未満」20.0%、「300 万円～400 万円未満」24.0%である。

1－5. 今後の就労希望

現在「仕事はしていない」と答えた女性 240 人・男性 124 人に、今後の就労希望をたずねた。「ぜひ、仕事につきたい」と「できれば、仕事につきたい」をあわせた割合（以下、「仕事につきたい」という）は、女性 30.0%・男性 35.5%である。

年齢層別にみると、女性の 20 歳代は 100%、30 歳代では 77.5%が「仕事につきたい」しているが、40 歳代では 50.0%であり、年齢の高い層ほど「仕事につきたいと思わない」割合は高くなっている。

男性の場合は、60 歳代で「仕事につきたい」と「仕事につきたいと思わない」の割合が拮抗しているものの、70 歳代では、「仕事につきたい」割合は 20%を割っている。（男性の 20～40 歳代については標本数が少ないために省略）。

1－6. 仕事につきたいと思う上で困ったことや不安の内容

女性の場合は、「勤務時間や雇用形態、賃金などの労働条件が自分の希望と合わない」が第 1 位で 48.6%。ついで、「仕事の募集が少ない」41.7%、「これといったキャリアや資格がない」37.5%である。

男性の場合は、「自分の能力や適性にあった仕事が少ない（ない）」が第 1 位で 34.1%。ついで「これといったキャリアや資格がない」が 31.8%である。女性では 27.8%が選んでいる「乳幼児の子どもがいる」は、男性は 0%である。

2. 教育について

2－1. 小学校・中学校において重要な男女平等の取り組み

選択率の高い順にみると、女性では、第 1 位は「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」(70.0%)、2 位は「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」(63.0%)、3 位は「男

女平等の意識を育てる授業をする」(39.7%)である。

男性では、第1位は「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」(58.1%)、2・3位「男女平等の意識を育てる授業をする」「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」がそれぞれ46.7%である。

この結果は、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

性別役割分担意識別でみると、女性の場合は、性別役割分担意識に＜賛成グループ＞より＜反対グループ＞の方がすべての項目を重要とする割合が高くなっている。

2-2. 性教育の時期・場所

からだや性に関する教育をどの時期にどこで教えるのがよいかについては、男女で同じような結果となっている。

時期では、『からだ（性器を含む）の名前、男女のからだのちがい』『妊娠・出産のしくみ』は、「小学校高学年から」の割合が最も高く、『セックス、避妊に関する知識』『性感染症に関する知識』は「中学校から」が最も高い。

場所については、すべての項目で「学校と家庭両方で」の割合が最も高く、ほぼ60%台。ついで、「学校で」が20%台。『からだ（性器を含む）の名前、男女のからだのちがい』だけは、「家庭で」の割合が約10%である。

2-3. 子どもに望む能力

子どもにどのような能力を身につけてほしいかをたずねた。

全体的には、女子・男子の区別なく、さまざまな能力を身につけてほしいとする割合が男女ともに高くなっている。しかし、その中で、「たくましさ」「リーダーシップ」は「主に男子に」、「家事能力」は「主に女子に」の割合が他の項目より高くなっている。

特に男性は女性に比べて、「主に男子に」あるいは「主に女子に」を選択する割合が高い傾向にあり、性別役割分担意識が根強いことがうかがえる。

固定的な性別役割分担意識別でみると、「家事能力」「リーダーシップ」「たくましさ」において、固定的な性別役割分担意識に賛成するグループの方が、「主に女子に」あるいは「主に男子に」を選ぶ率が高くなっている。

3. 男女の意識について

3-1. 固定的な性別役割分担意識についての考え

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方についてたずねたところ、女性の場合は、＜賛成グループ＞（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が44.0%、＜反対グループ＞（「反対」＋「どちらかといえば反対」）が42.7%で拮抗している。

男性の場合は、＜賛成グループ＞（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が52.5%、＜反対グループ＞（「反対」＋「どちらかといえば反対」）が35.4%で、賛成グループの方が17.1ポイント高い。

前回調査では、女性では＜賛成グループ＞29.9%、＜反対グループ＞64.2%。男性では＜賛成グループ＞46.4%、＜反対グループ＞48.7%であった。今回調査では、＜反対グループ＞の割合が低くなり、特に女性においては21.5ポイント減っている。

3-2. 男女それぞれにとって望ましい「仕事とその他の生活のあり方」

男女それぞれにとって望ましいワーク・ライフ・バランスについての考え方を問うたところ、男女の考え方が似通った結果となった。

「女性にとって望ましいワーク・ライフ・バランス」については、「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる」（女性 38.7%・男性 34.0%）、「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」（女性 34.2%・男性 28.2%）で、60%以上を占めている。

一方、「男性にとって望ましいワーク・ライフ・バランス」については、「家庭生活または地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」（女性 54.3%・男性 51.5%）、「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」（女性 27.5%・男性 28.2%）である。

以上の結果から、性別によって望ましいライフスタイルに大きな違いがあることがわかる。

3-3. 男女の地位の平等感

社会におけるさまざまな分野で男女は平等になっているかを問うた設問では、「平等になっている」の割合が50%を超えている分野は、女性の場合『学校教育の場では』（64.2%）のみ。男性の場合は、『学校教育の場では』（75.7%）、『法律や制度の上では』（53.7%）、『地域では』（50.9%）である。

〈男性優遇〉（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の割合が高いのは、女性では『職場では』（78.4%）、『社会通念・慣習・しきたりでは』（77.6%）、『政治・行政の場では』（74.3%）、男性では『社会通念・慣習・しきたりでは』（72.8%）である。

また、すべての項目において女性の方が男性よりも〈男性優遇〉とする割合が高い。

これは、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

年齢層別でみると、女性の40歳代において〈男性優遇〉とする割合が最も高い項目が多い。

4. 生活や健康について

4-1. 平日の生活時間

平日の24時間をどのように過ごすかについてたずねたところ、男女で違いの大きいのは、「仕事あるいは学業」（女性 6時間36分・男性 9時間06分）、「家事」（女性 3時間48分・男性 1時間48分）である。

年齢層別にみると、男性の30歳代、40歳代では「仕事あるいは学業」時間が10時間を超えている。

女性の20歳代、30歳代では「子どもの世話」時間が、20歳代で6時間12分、30歳代で5時間06分である。30、40歳代の男性の「家事」時間は、「仕事あるいは学業」時間の長さが影響してか、30歳代で1時間、40歳代で1時間24分である。

「高齢者の世話」時間は、男女ともに70歳代が長く、女性は6時間42分、男性は5時間18分である。

4-2. 地域活動への参加状況

地域活動への参加の状況の中で、「参加した、している・今後も参加したい」と「参加したことがない・今後は参加したい」を合わせた＜今後の参加意向＞の高い順にみると、第1位「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」（女性57.6%・男性54.5%）、第2位「自治会・町内会の活動」（女性50.0%・男性50.5%）、第3位「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」（女性48.2%・男性46.7%）である。

「民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動」については、男女ともに60%以上が「参加したことがない・今後は参加したくない」としている。

年齢層別でみると、男女ともに20歳代での「参加した、している・今後も参加したい」割合は年齢層中最も低いものの、「参加したことがない・今後は参加したい」割合は最も高く、＜今後の参加意向＞では他の年齢層と同様か若干高めになる。

一般的に、男性の30、40歳代で＜今後の参加意向＞が低い傾向がみられる。

4-3. 地域活動に参加したくない理由

「今後は(も)地域活動に参加したくない」と答えた女性399人・男性394人に、その理由をたずねた。

女性の場合は、「あまり関心がないから」（33.1%）、「参加するきっかけがないから」（27.1%）、「人間関係がわずらわしいから」（25.8%）、男性の場合は、「あまり関心がないから」（39.3%）、「仕事が忙しいから」（33.2%）、「人間関係がわずらわしいから」（27.2%）がその理由である。

年齢層別でみると、女性の20歳代の理由は「参加するきっかけがないから」（48.8%）、「あまり関心がないから」（46.3%）、「仕事が忙しいから」（43.9%）、「人間関係がわずらわしいから」（34.1%）、「活動に魅力がないから」（26.8%）、「活動の情報が得られないから」（26.8%）など多岐にわたる。

30歳代では、「家事・育児・介護で忙しいから」（45.5%）。

70歳代では、「健康状態がおもわしくないから」（49.0%）と、低い年齢層で高い割合となっている。

男性の場合は、30、40歳代で「仕事が忙しいから」の選択率が高く50%を超えている。

30歳代では、その他に「あまり関心がないから」（54.3%）、「活動に魅力がないから」（37.0%）。40歳代では、「人間関係がわずらわしいから」（40.4%）。

50歳代では「活動の情報が得られないから」（24.6%）と、年齢層によって理由の違いがある。

4-4. 高齢期の生活に関する悩みや不安

高齢期の悩みや不安をたずねたところ、「特にない」の割合は女性 4.5%・男性 7.8%であることから、ほとんどの人が何らかの悩み・不安をもっていることがうかがえる。

また、男女で似通った結果となっている。

悩みや不安を選択率の高い順にみると、第1位は「健康で過ごせるか」（女性 76.9%・男性 70.0%）、第2位「経済的にやっていけるか」（女性 58.3%・男性 49.9%）、第3位「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」（女性 52.4%・男性 43.5%）。

「終のすみかをどこに決めるか」（女性 22.5%・男性 12.1%）では女性の方が 10.4 ポイント高くなっている。

年齢層別にみると、男女ともに、「経済的にやっていけるか」で、年齢層が低いほど選択率は高く、最も高い 20 歳代（女性 82.0%・男性 73.1%）と最も低い 70 歳代（女性 30.0%・男性 27.9%）では大きな開きがある。

「健康で過ごせるか」「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」「1 人になったときの身の回りのこと」という健康に関する項目は、60、70 歳代で若干高くなっている。

4-5. 高齢期にやってみたいこと

高齢期にやってみたいことをたずねた項目でも、男女でほぼ同様の結果となった。

「特にない」の割合は女性 3.4%・男性 5.0%で、ほぼ全員がやってみたいことを有していることがわかる。

選択率が目立って高いのは、「趣味の活動」（女性 65.6%・男性 62.0%）、「旅行」（女性 62.5%・男性 52.5%）である。「家族との団らん」「夫婦の団らん」は各 30%台。

男女ともに、「ボランティア活動」「老人クラブ活動」「自治会・町内会の活動」は、他の活動に比べて割合が低い。

4-6. 「男もつらい」と感じることの有無

男性に対して「男もつらい」と感じるかどうかをたずねたところ、「ある」とする男性は 42.5%、「ない」とする男性は 45.3%。

年齢層別にみると、若年層ほど「ある」とする割合が高く、20 歳代では 61.5%で、20～40 歳代は 60%前後の高率であり、50 歳代においても 2 人に 1 人は「ある」と回答している。

4-7. 「男もつらい」と感じる内容

「男もつらい」と感じるという男性 211 人にその理由をたずねた。理由の最も高いものは「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前と言われる」で 38.9%。「妻子を養うのは男の責任と言われる」「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」「男だから頑張れと言われる」も 30%台で選ばれている。

年齢層別にみると、20 歳代では、「男だから頑張れと言われる」（56.3%）、「男なのに酒が飲めないのかとからかわれる」（25.0%）が他の年齢層に比べて高くなっている。

30～50 歳代では、「仕事の責任が大きい、仕事ができても当たり前だと言われる」「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」と、仕事に関する項目で他の年齢層より高い。

40～60 歳代では、「妻子を養うのは男の責任だと言われる」が約 40%で他の年齢層より高い。

4－8. 女性の心とからだの健康を保つために長岡京市が取組むべき施策

女性回答者に、女性の心とからだの健康を保つために必要な施策をたずねところ、「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」(53.6%)が第1位に挙げられている。ついで、「リフレッシュできるような場を提供する」(45.1%)、「悩みや不安をカウンセラーなどに相談できる体制を充実する」(42.9%)、「安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する」(42.7%)。

年齢層別にみると、20 歳代では、「安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する」(80.0%)が抜きん出て高いほか、「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」(66.0%)、「暴力の被害者に対するケア体制を充実する」(36.0%)も年齢層中一番高くなっている。

20～40 歳代では「リフレッシュできるような場を提供する」、40～70 歳代では、「悩みや不安をカウンセラーなどに相談できる体制を充実する」の割合が高い。

60、70 歳代では、「食生活や健康づくりに関する情報を提供する」(60 歳代 47.2% 70 歳代 57.1%)、「生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会をつくる」(60 歳代 50.0% 70 歳代 41.4%)が高い。

5. 人権の尊重について

5－1. 女性の人権が侵害されていると思うこと

女性に対する人権侵害の事柄を列举し、人権侵害にあたると思うものを選択してもらったところ、60%を超える項目は1つもなかった。

最も選択された「ドメスティック・バイオレンス（夫婦・パートナー間の暴力、DV）やデートDV（恋人からの暴力）」においても女性54.0%・男性47.9%である。

結果を男女で比較すると、すべての項目で女性の方が男性より選択率が高く、特に「テレビ、雑誌、インターネット（携帯電話を含む）などのわいせつな性情報の氾濫」「アダルト向けのビデオやゲーム（児童ポルノを含む）」で約15ポイントの差となっている。

5－2. セクシュアル・ハラスメントなどの被害の経験

「職場」「学校」「地域」「家庭」「その他」の場面でのセクシュアル・ハラスメントなどの被害の経験をたずねた。

職場では、女性の場合は 28.5%が何らかのセクシュアル・ハラスメントなどの行為を経

験している。中でも、「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」(19.6%)、「宴会などでお酌やデュエットを強要される」(13.2%)、「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」(11.1%)の順に高い。

男性の場合は、11.1%が何らかのセクシュアル・ハラスメントなどの行為を経験しており、「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」は7.8%である。

学校での状況は、女性の8.9%、男性の5.4%に「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」経験がある。

地域では、女性の10.9%が何らかのセクシュアル・ハラスメントなどの行為を経験している。

家庭では、他の場面よりは少なくなっているものの、女性の場合、「性的な行為を強要される」(1.6%)、「命の危険を感じるくらいの暴行をうける」(1.2%)、「携帯電話を勝手にチェックされたり、すぐに返信しなければどなったりされる」(0.8%)が他の場面より多い。

その他の場面では、女性の場合、14.9%が何らかのセクシュアル・ハラスメントなどの行為を経験している。具体的には、「身体をじろじろ見られたり、触られたりする」(6.7%)、「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」(5.9%)、「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」(4.3%)、「しつこくつきまとわれる(ストーカー行為)」(3.0%)が多く、また他のすべての項目が選択されている。

男性の場合は、すべての項目で1%台の選択率となっている。

5-3. 相談機関や相談窓口の認知度

長岡京市、京都府、京都府警の13箇所の相談機関および相談窓口を列举して、その認知の度合いをたずねた。全体的に認知度は低く、一番高いところでも全体でみると40.8%である。

女性で高い順は、第1位は「市民法律相談、人権相談(情報管理課)」(43.3%)、2位「乳幼児育児相談(地域子育て支援センター)」(35.8%)、3位「発達相談・ことばの相談、親と子の健康相談(健康推進課)」(35.6%)である。

男性では、第1位「市民法律相談、人権相談(情報管理課)」(38.0%)、2位「警察安全相談(警察総合相談所)」(22.5%)、3位「家庭児童相談(家庭児童相談室)」(18.5%)。

年齢層でみると、女性の場合、30歳代では「乳幼児育児相談(地域子育て支援センター)」(52.2%)が高い。

女性の40歳代では、「発達相談・ことばの相談、親と子の健康相談(健康推進課)」(45.8%)、「女性の総合相談、女性のための法律相談(女性交流支援センター)」(37.5%)が高い。

男性の場合は、40歳代が「乳幼児育児相談(地域子育て支援センター)」が25.0%で高い。

6. 男女共同参画社会について

6-1. 法律や言葉の周知度

男女共同参画に関係する法律や言葉の認知度合いをたずねたところ、「よく知っている」の割合が最も高いのは、男女ともに「男女雇用機会均等法」で女性 18.4%・男性 23.5%。「少しは中身を知っている」を加える（以下、『知っている』）と女性 59.9%・男性 62.5%で、『知っている』が 50%を超えるのは「男女雇用機会均等法」のみである。

長岡京市の男女共同参画社会の実現の指針となる「長岡京市男女共同参画第4次計画」は、『知っている』の割合が女性 3.2%・男性 3.4%である。

自由意見の中には、「言葉にカタカナ語、難しい漢字の言葉が多過ぎる」という指摘がある。

6-2. 男女共同参画社会をつくるために一人ひとりができること

男女共同参画社会をつくるために、回答者自身ができることをたずねた。

選択率の高い順にみると、第1位は男女ともに「相手の立場に立って物事を理解するよう努める」（女性74.7%・男性64.6%）。女性では、2位「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」（59.1%）、3位「仕事、家事、育児を夫婦・パートナーと共同で担う」（56.1%）、4位「家庭における子どものしつけや教育は、男女の分け隔てをしない」（55.5%）、5位「夫婦・パートナーとのコミュニケーションを深めるために会話を増やす」（50.6%）。

男性の場合は、2位「仕事、家事、育児を夫婦・パートナーと共同で担う」（54.1%）、3位「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」（53.7%）、4位「夫婦・パートナーとのコミュニケーションを深めるために会話を増やす」（48.3%）、5位「家庭における子どものしつけや教育は、男女の分け隔てをしない」（38.6%）である。

男女ともに夫婦や家族を含めて生活の中から男女共同参画を実現していくことならでき、と考えているようだ。

年齢層別にみると、女性の場合は年齢層の低い層で「仕事、家事、育児を夫婦・パートナーと共同で担う」「経済的に自立する」「家庭における子どものしつけや教育は、男女の分け隔てをしない」「夫婦・パートナーとのコミュニケーションを深めるために会話を増やす」「自分の意思を相手に伝える技術を身につける」「男女の人権、男女平等について理解を深めるよう学習する」において、選択率が高くなっている。

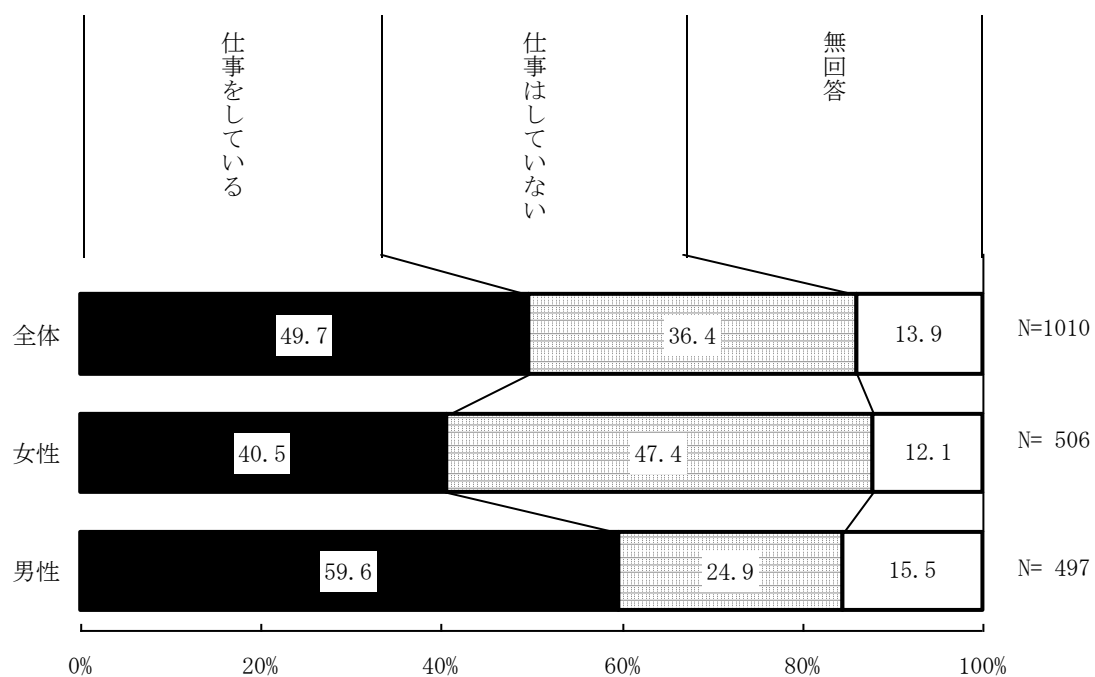
男性の場合は、女性ほど顕著な差はない。

Ⅲ. 調査結果の分析

1. 仕事について

問8 あなたは、現在収入を得る仕事をしていますか。(○は1つ)

図1-1 現在の仕事の状況



■男性の約60%、女性の約40%が収入を得る仕事をしている

現在の仕事の状況をみると、女性40.5%・男性59.6%が「仕事をしている」と回答し、男性の方が19.1ポイント高くなっている。

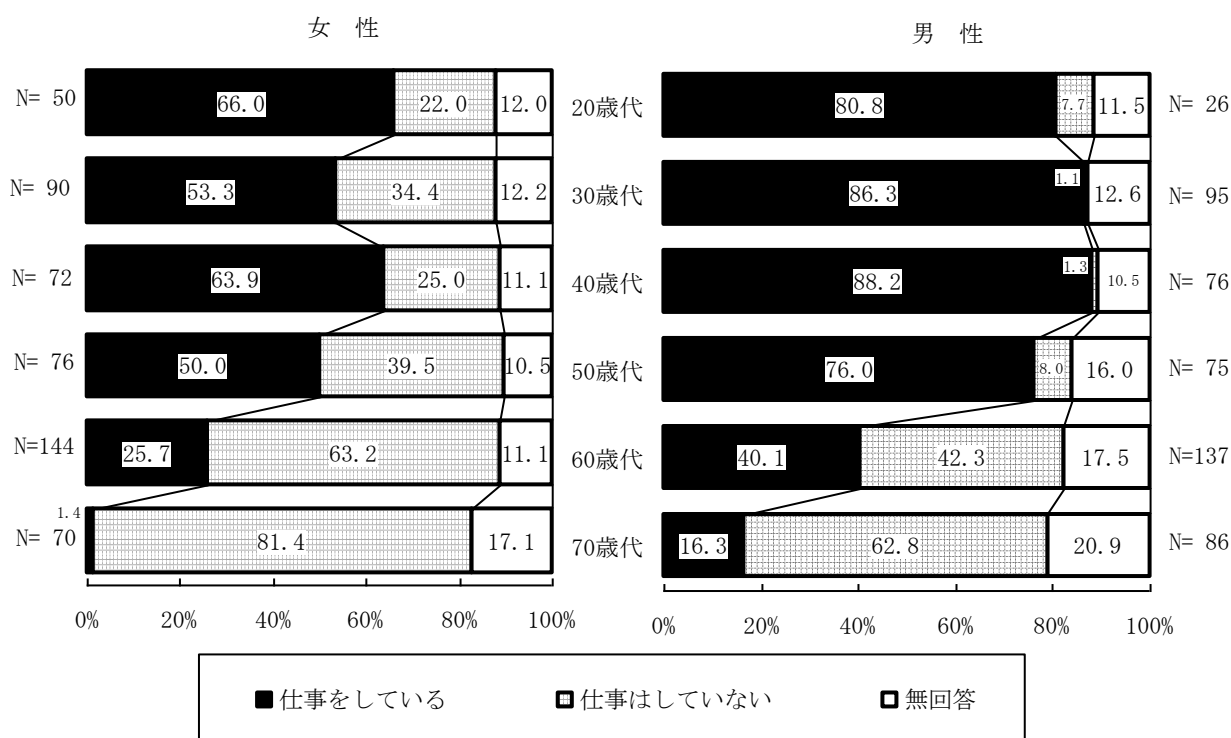
なお、男女ともに10%以上の割合で「無回答」となっている。

性別・年齢層別

女性の場合、20歳代で「仕事をしている」割合が一番高く、66.0%。30歳代では53.3%とやや割合が低くなり、40歳代では63.9%と2番目に高い割合である。その後は年齢層が高いほど、その割合は低くなっている。

男性の場合は、20歳代から40歳代にかけて「仕事をしている」割合は80%以上であり、30歳代86.3%、40歳代88.2%と高い割合を示しているが、40歳代をピークにその割合は低くなっている。

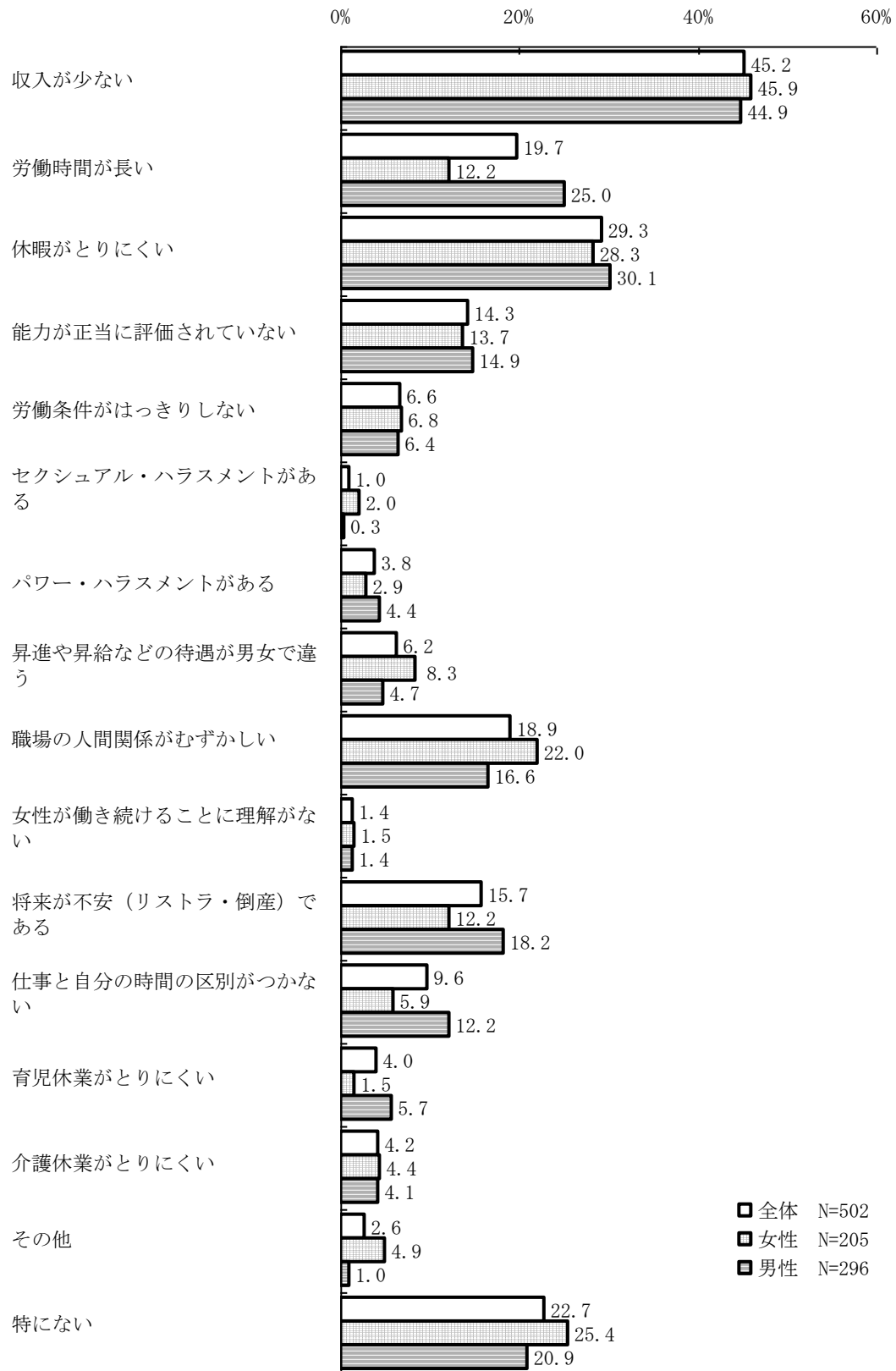
図1-2 性別・年齢層別 現在の仕事の状況



「1. 仕事をしている」と答えられた方におたずねします。

問8－1 あなたは、いまの仕事にどんな不満や悩みがありますか。(〇はいくつでも)

図1－3 いまの仕事の不満や悩み



■仕事の不満や悩みは、男女ともに「収入が少ない」と「休暇がとりにくい」

不満や悩みが「特にない」とするものを除くと、女性 74.6%・男性 79.1%が何らかの悩みや不安を持っていることになる。

「いまの仕事の不満や悩み」の上位3位をみると、男女ともに、第1位は「収入が少ない」（女性 45.9%・男性 44.9%）で、2人に1人弱が選んでいる。ついで、2位は「休暇がとりにくい」（女性 28.3%・男性 30.1%）。3位は、女性の場合は「職場の人間関係がむずかしい」（22.0%）、男性の場合は「労働時間が長い」（25.0%）である。

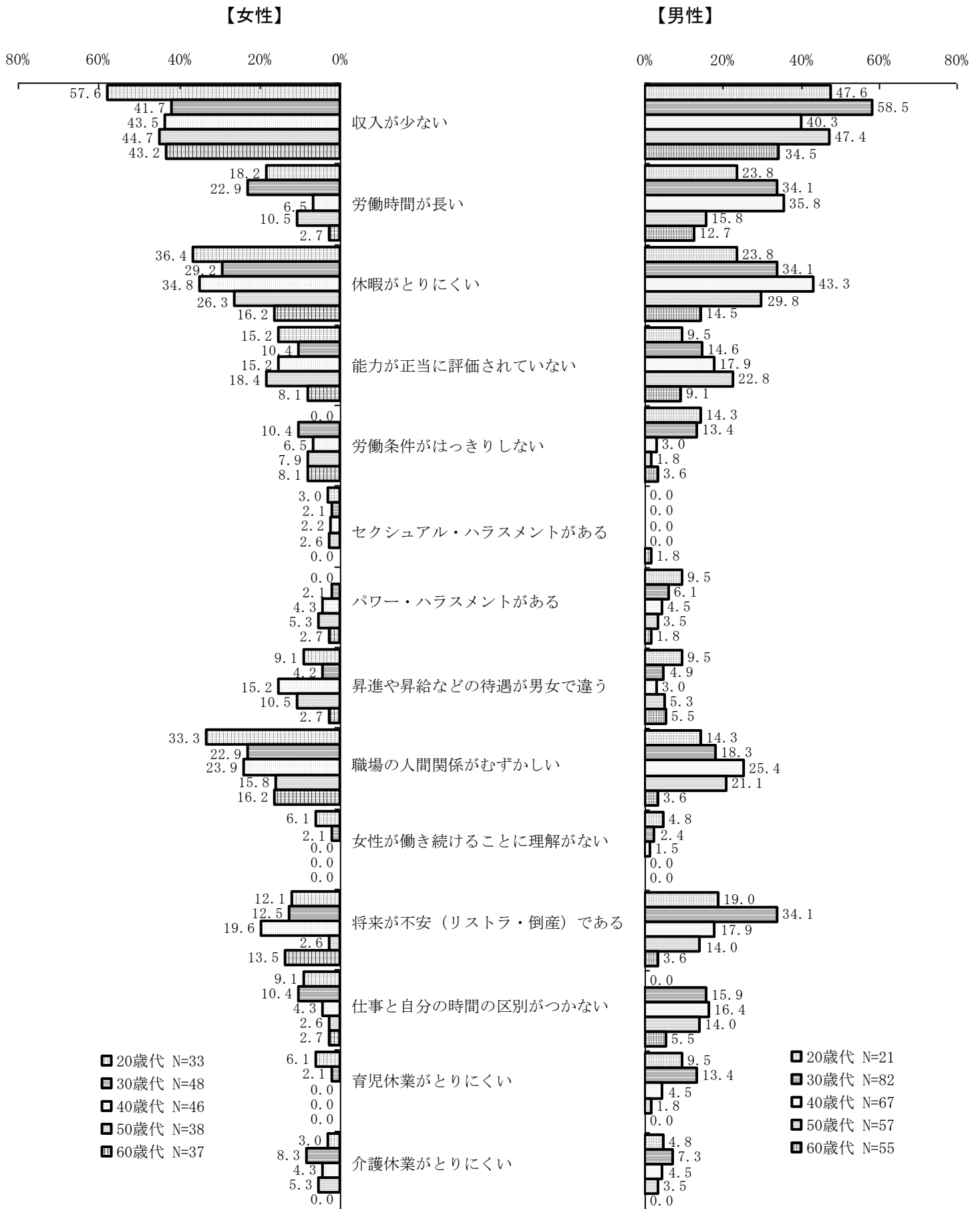
また、「昇進や昇給などの待遇が男女で違う」は、女性 8.3%・男性 4.7%であり、「育児休業がとりにくい」については、女性 1.5%に対して男性は 5.7%となっている。

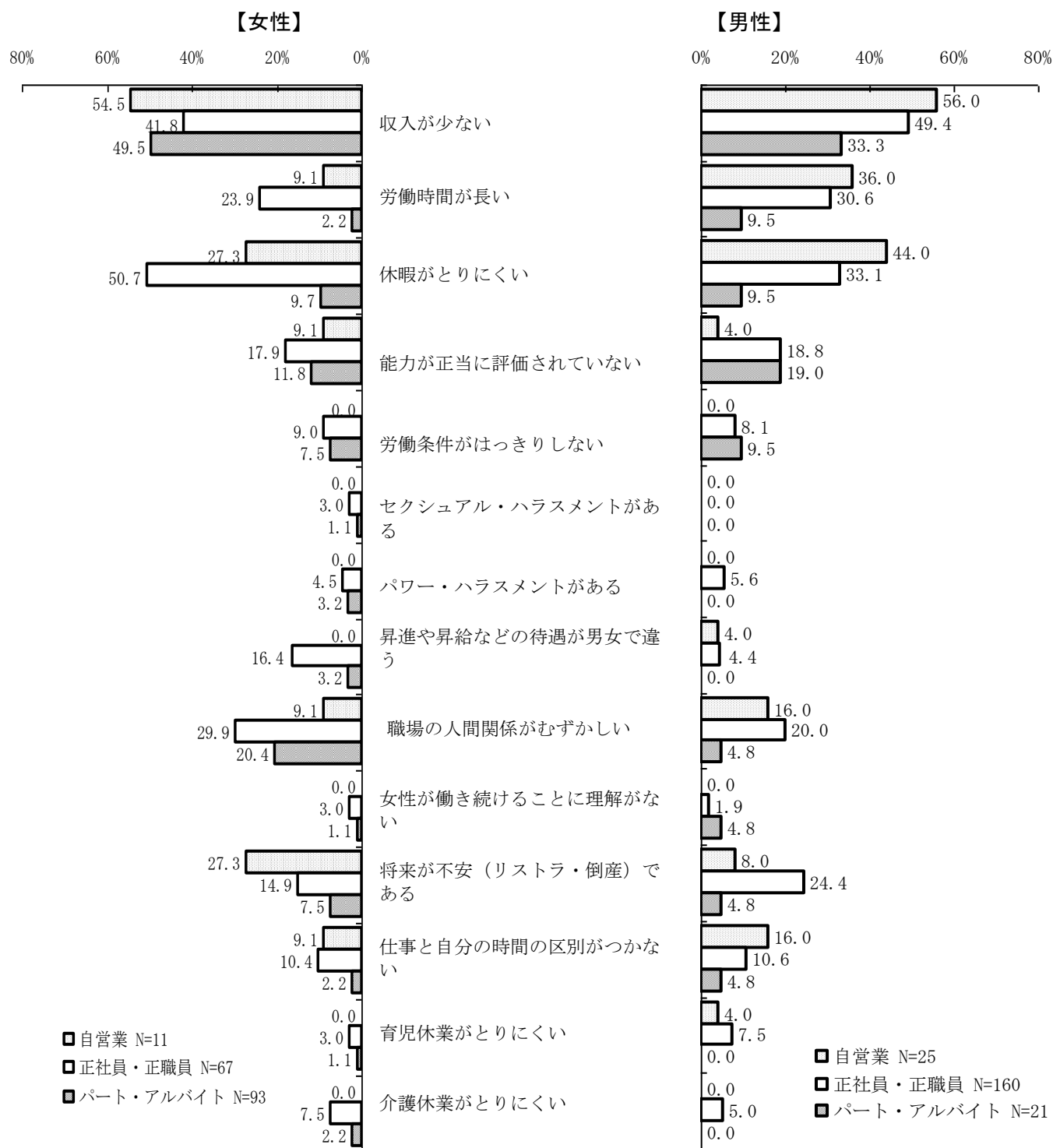
性別・年齢層別

女性の20歳代では、「収入が少ない」（57.6%）、「休暇がとりにくい」（36.4%）、「職場の人間関係がむずかしい」（33.3%）において、年齢層間で最も高い割合になっている。20歳代、30歳代では「労働時間が長い」がそれぞれ 18.2%、22.9%であるが、40、60歳代では低くなっている。

男性の30歳代では、「収入が少ない」（58.5%）、「将来が不安（リストラ・倒産）である」（34.1%）「育児休業がとりにくい」（13.4%）において、年齢層間で最も高い割合になっている。30歳代、40歳代では、「労働時間が長い」（34.1%、35.8%）で他の年齢層より選択率が高い。40歳代では、「休暇がとりにくい」が他の年齢層より高く、43.3%である。

図1-4 性別・年齢層別 いまの仕事の不満や悩み





自営業では、「収入が少ない」が職業別中最も高く、女性 54.5%・男性 56.0%である。

正社員・正職員では、女性の場合、「休暇がとりにくい」が職業別中抜きん出て高く 50.7%。「職場の人間関係がむずかしい」(29.9%)、「労働時間が長い」(23.9%)、「昇進や昇給などの待遇が男女で違う」(16.4%)でも職業別中で一番高くなっている。男性の場合は、「将来が不安（リストラ・解雇）である」(24.4%)、「職場の人間関係がむずかしい」(20.0%)で職業別中一番高い。

パート・アルバイトでは、女性において「収入が少ない」が 49.5%である。

性別・男性にとって望ましい生き方別

表1-1 性別・男性にとって望ましい生き方別 いまの仕事の不満や悩み

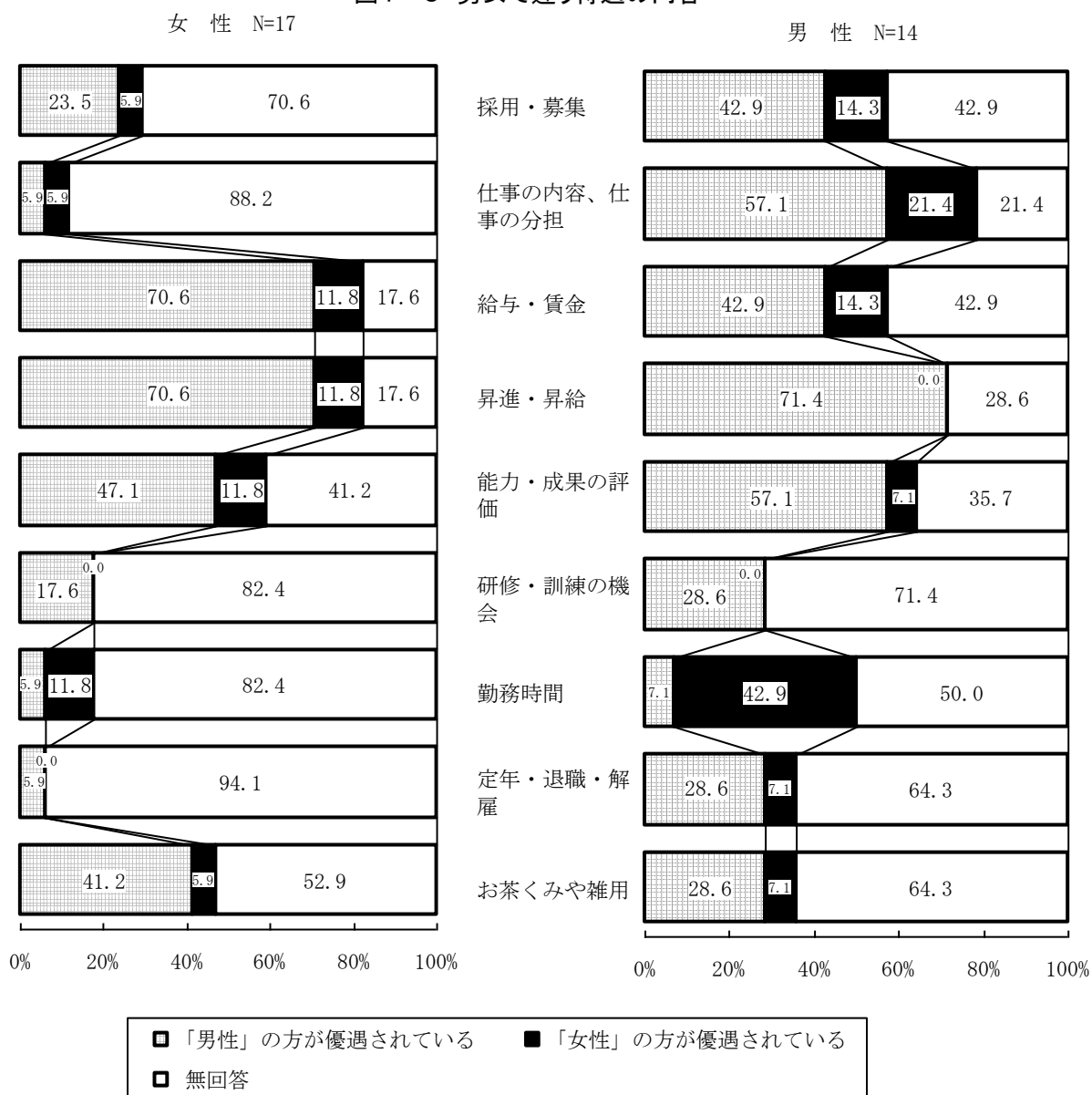
		収入が少ない	労働時間が長い	休暇がとりにくい	能力が正当に評価されていない	労働条件がはつきりしない	セクシユアル・ハラスメントがある	パワー・ハラスメントがある	昇進や昇給などの待遇が男女で違う	職場の人間関係がむずかしい	理解がない	女性が働き続けることに不安（リストラ・倒産）である	仕事と自分の時間の区別がつかない	育児休業がとりにくい	介護休業がとりにくい
男性	<仕事優先型> 家庭生活または地域活動にも携わるが、仕事を優先（N=153）	70	34	46	25	11	1	7	8	29	-	25	13	3	4
		45.8	22.2	30.1	16.3	7.2	0.7	4.6	5.2	19.0	-	16.3	8.5	2.0	2.6
	<両立型> 家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立（N=92）	39	29	30	9	5	-	4	4	14	3	21	17	9	5
		42.4	31.5	32.6	9.8	5.4	-	4.3	4.3	15.2	3.3	22.8	18.5	9.8	5.4

（上段＝実数、下段＝割合％）

いまの仕事の不満や悩みについて、「望ましい生き方」別にみると、＜両立型＞の方が「労働時間が長い」「将来が不安（リストラ・倒産）である」「仕事と自分の時間の区別がつかない」「育児休業がとりにくい」の割合が高くなっている。

「8. 昇進や昇給などの待遇が男女で違う」と答えられた方におたずねします。
問8-2 それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

図1-6 男女で違う待遇の内容



■「昇進・昇給」で最も「男性優遇」を感じている

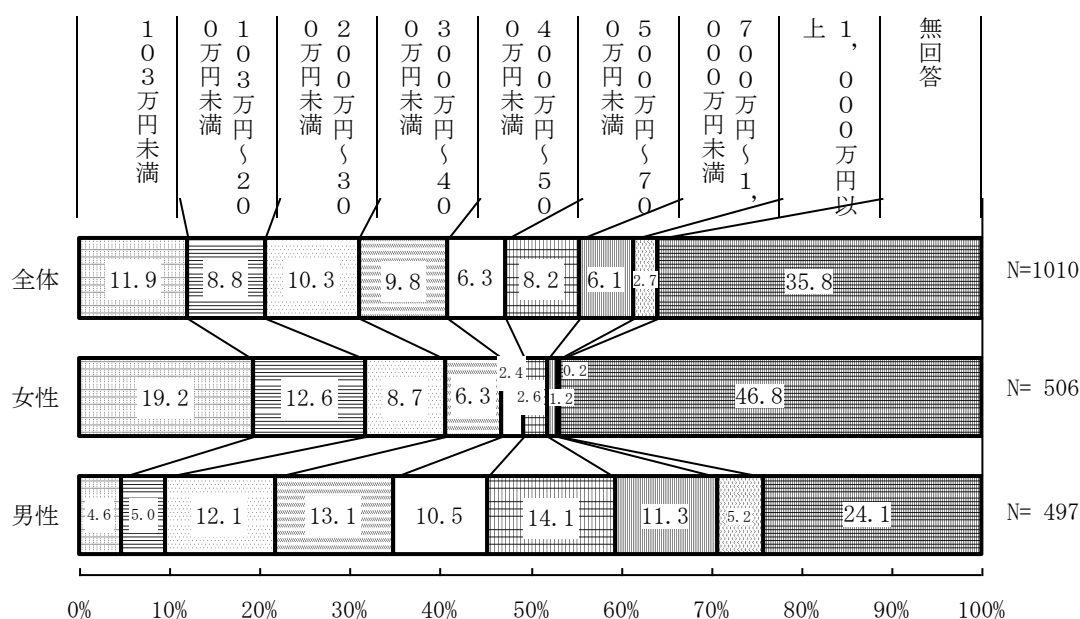
標本数が少ないために、おおまかな傾向としてしか語れないものの、男女ともに「昇進・昇給」において『男性』の方が優遇されている」とする割合が70%を超えている。

女性においては、「給与・賃金」においても『男性』の方が優遇されている」とする割合が70%を超えているほか、「能力・成果の評価」「お茶くみや雑用」においては『男性』の方が優遇されている」とする割合が40%を超えている。

また、男性では、「仕事の内容、仕事の分担」「能力・成果の評価」において50%を上回るほか、「採用・募集」「給与・賃金」では40%強となっており、相対的に男性の方が『男性』の方が優遇されている」とする割合が高くなっている。一方、「勤務時間」では、男性の42.9%が『女性』の方が優遇されている」としている。

問9 あなたの昨年1年間の収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。（○は1つ）

図1-7 昨年1年間の収入(税込み)

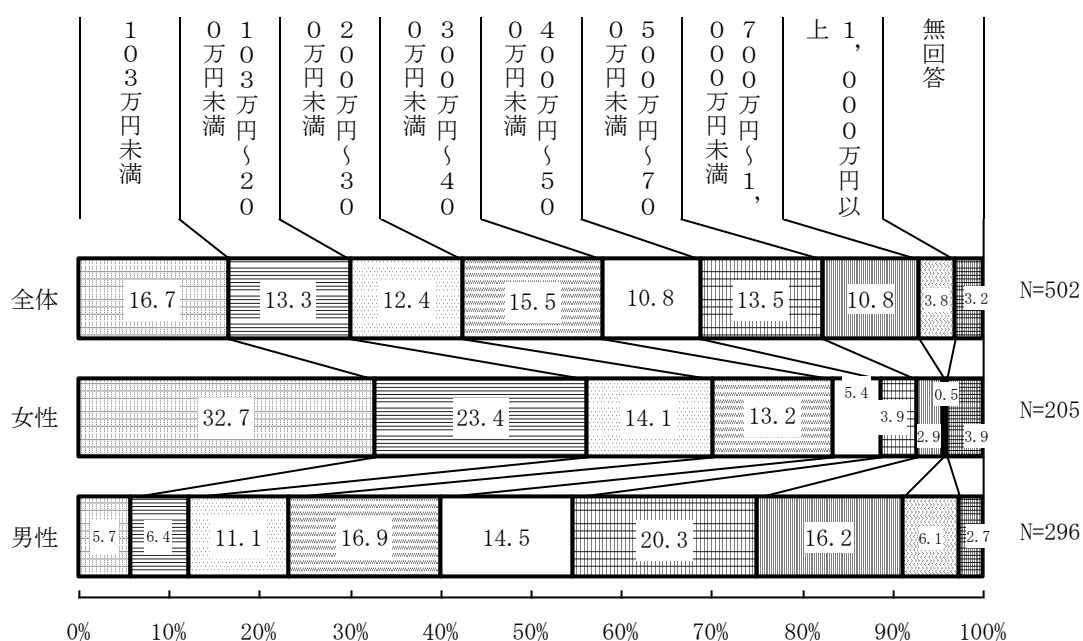


■女性の30%強は年収200万円未満

昨年1年間の収入(税込み)をみると、女性の場合、無回答が約半数を占めるものの、回答のあったうちの19.2%は「103万円未満」、ついで12.6%が「103万円～200万円未満」であり、無回答を除くと半数以上が200万円未満ということになる。

男性の場合は、「500万円～700万円未満」の割合が14.1%で一番高いものの、「200万円～300万円未満」～「400万円～500万円未満」、「700万円～1,000万円未満」がそれぞれ10%強の割合で並んでいる。

図1-8 昨年1年間の収入(税込み)－《現在働いている人》

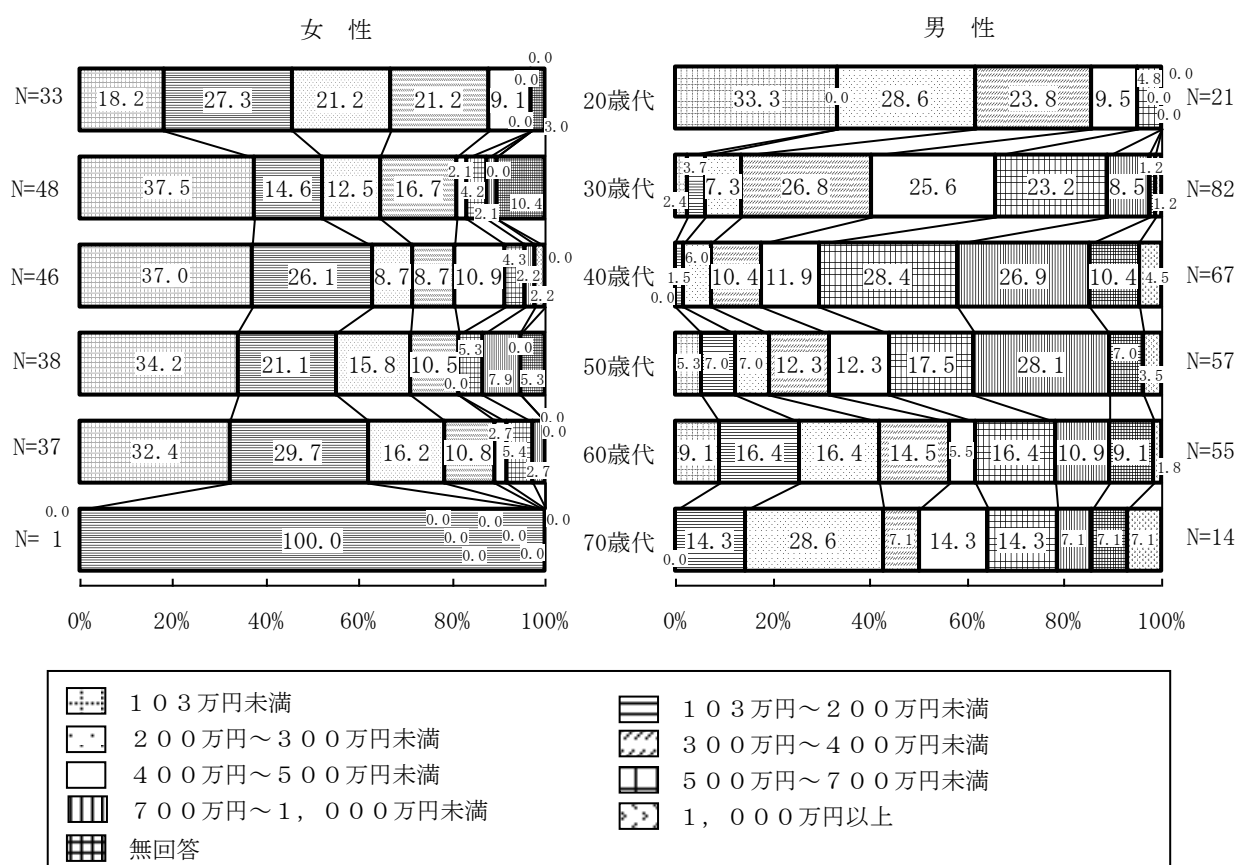


「現在働いている人」の昨年1年間の収入（税込み）をみると、女性の場合は、「103万円未満」の割合が32.7%で最も高く、ついで「103万円～200万円未満」が23.4%であり、回答者の56.1%が「200万円未満」の収入ということになる。

男性の場合は、「500万円～700万円未満」の割合が20.3%で一番高く、ついで「300万円～400万円未満」16.9%、「700万円～1,000万円未満」が16.2%である。男性の場合は、「200万円未満」の割合は12.1%であり、女性とは44ポイントの開きがある。

性別・年齢層別

図1-9 性別・年齢層別 昨年1年間の収入(税込み)―《現在働いている人》

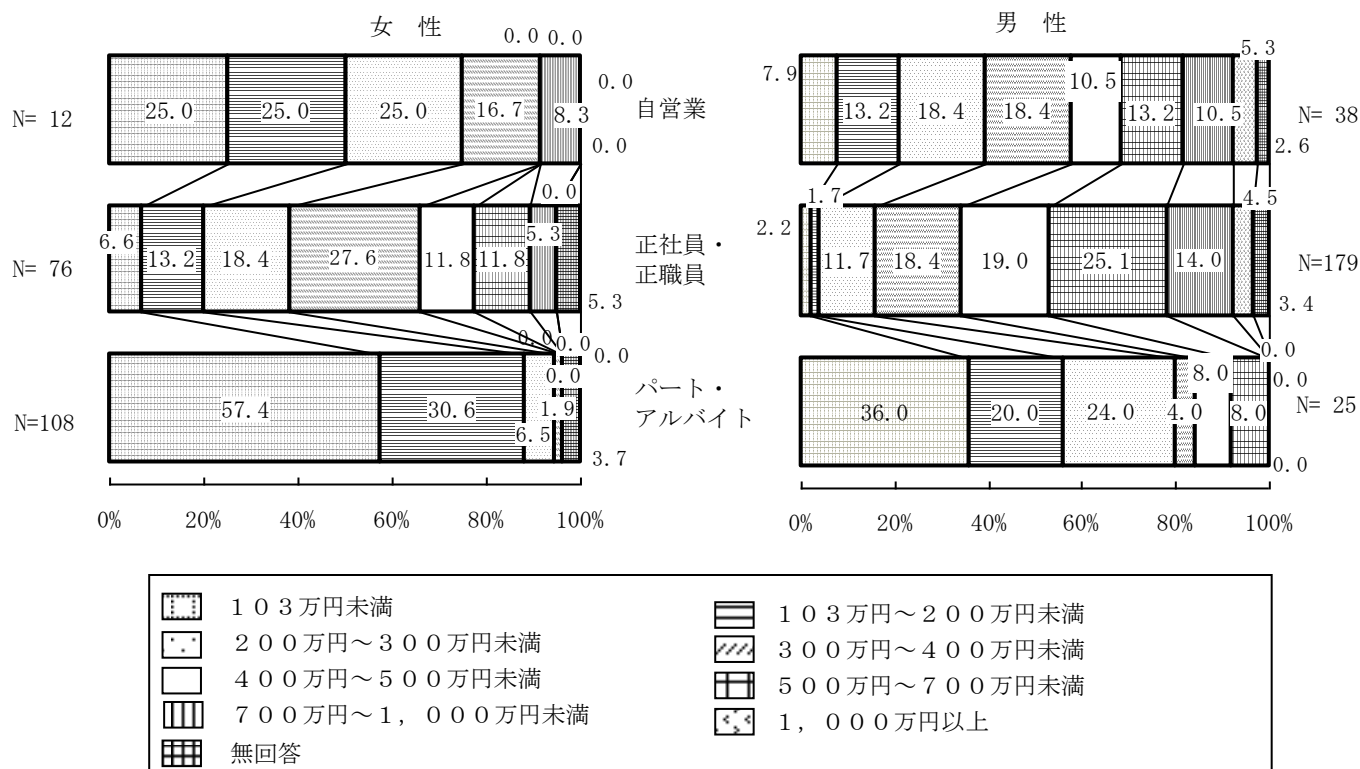


女性の20歳代では、「103万円未満」の割合が年齢層中最も低く、18.2%である。「200万円～300万円未満」の割合は年齢層中最も高く21.2%である。30歳代から60歳代で「103万円未満」の割合はほぼ同率で30%台となっている。

男性の場合は、20歳代で「103万円未満」の割合が年齢層中最も高く、33.3%である。40歳代では「500万円～700万円未満」の割合が28.4%で年齢層中一番高く、50歳代では「700万円～1,000万円未満」の割合が28.1%で年齢層中一番高くなっている。

性別・職業別

図1-10 性別・職業別 昨年1年間の収入(税込み)



女性の場合、「自営業」では、「103万円未満」「103万円～200万円未満」「200万円～300万円未満」が各25.0%で全体の3/4を占めている。

「正社員・正職員」では、「300万円～400万円未満」が27.6%で最も高く、その前後の金額層は10%台となっている。「700万円～1,000万円未満」は5.3%、「1,000万円以上」はいない。

「パート・アルバイト」では、「103万円未満」が57.4%と半数を超えている。ついで「103万円～200万円未満」は30.6%で、90%弱が200万円未満の収入となっている。

男性の場合は、職業別の傾向はおおむね女性と似ているものの、金額的には女性より収入が多くなっている。「自営業」では、「200万円～300万円未満」「300万円～400万円未満」が各18.4%で他の金額層よりも高い割合になっているものの、「103万円未満」「1,000万円以上」を除けばすべての金額層で10%台であり、収入にばらつきがある。

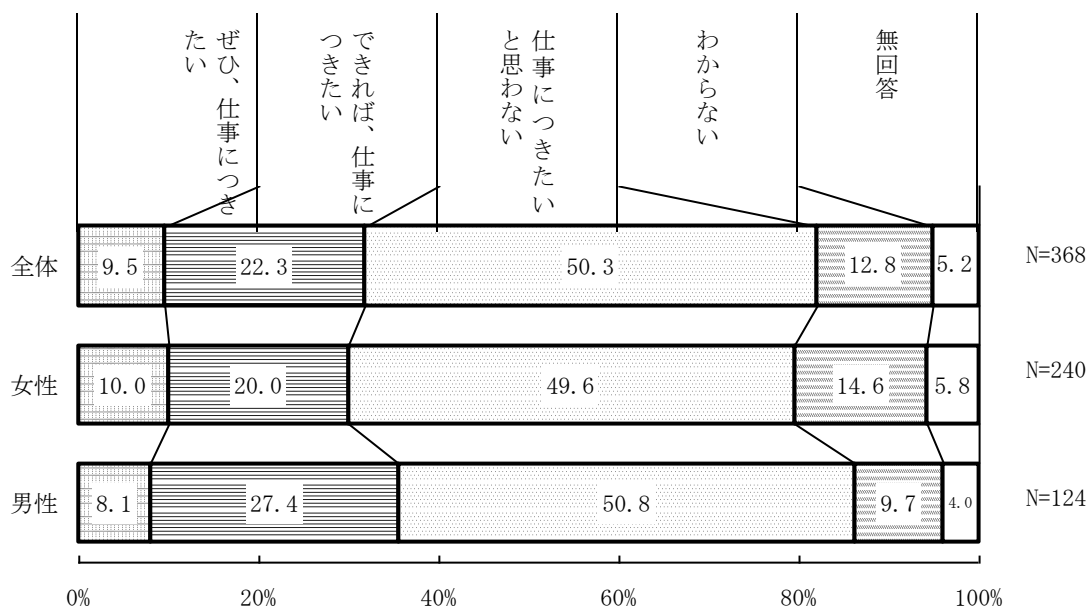
「正社員・正職員」では、「500万円～700万円未満」が25.1%で最も高く、その前後の金額は10%台となっている。「700万円～1,000万円未満」は14.0%、「1,000万円以上」は4.5%で女性と比べて割合が高くなっている。

「パート・アルバイト」では、「103万円未満」36.0%、「103万円～200万円未満」20.0%で、半数を超えているものの、「200万円～300万円未満」の割合は24.0%である。女性と同様にパート・アルバイトの収入は他の職業に比べて低くなっている。

問8で「2. 仕事はしていない」と答えられた方におたずねします。

問10 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○は1つ)

図1-11 今後の就労希望



■今後「ぜひ、仕事につきたい」のは、女性 10.0%・男性 8.1%

今後の就労希望をたずねたところ、「ぜひ、仕事につきたい」と「できれば、仕事につきたい」をあわせた割合は、女性 30.0%・男性 35.5%である。

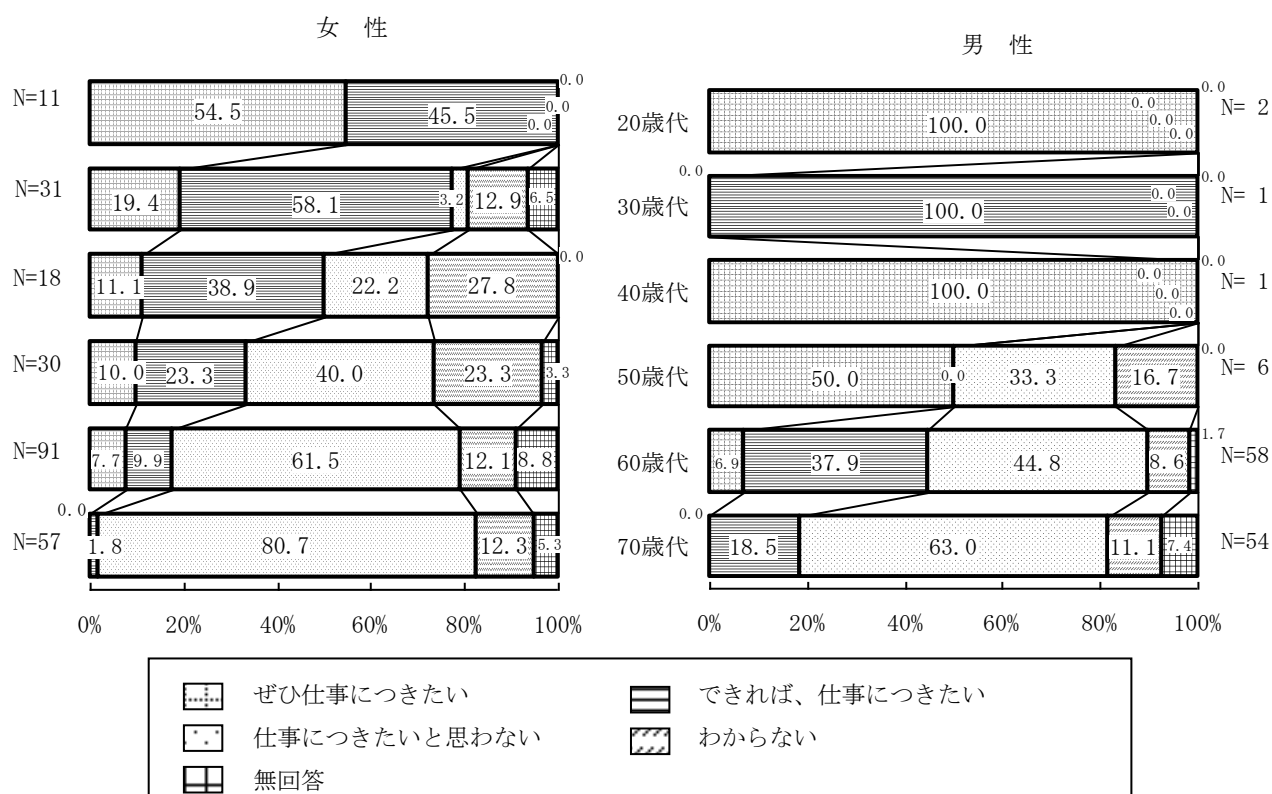
これを前回調査（平成 16 年）と比較すると、「ぜひ、仕事につきたい」と「すぐにでも仕事をしたい」を類似の項目とした場合、今回調査での男性の選択率が非常に低くなっている。また、男女ともに「仕事をするつもりはない」（今回調査では「仕事につきたいと思わない」）割合が 10 ポイント以上高くなっている。

【参考 前回調査】

表 今後の就労希望

(%)	すぐにでも仕事をしたい	将来仕事をしたい	仕事をするつもりはない	わからない	無回答
女性 (N=271)	12.5	24.7	38.0	18.5	6.3
男性 (N=130)	25.4	13.8	39.2	17.7	3.8

図1-12 性別・年齢層別今後の就労希望

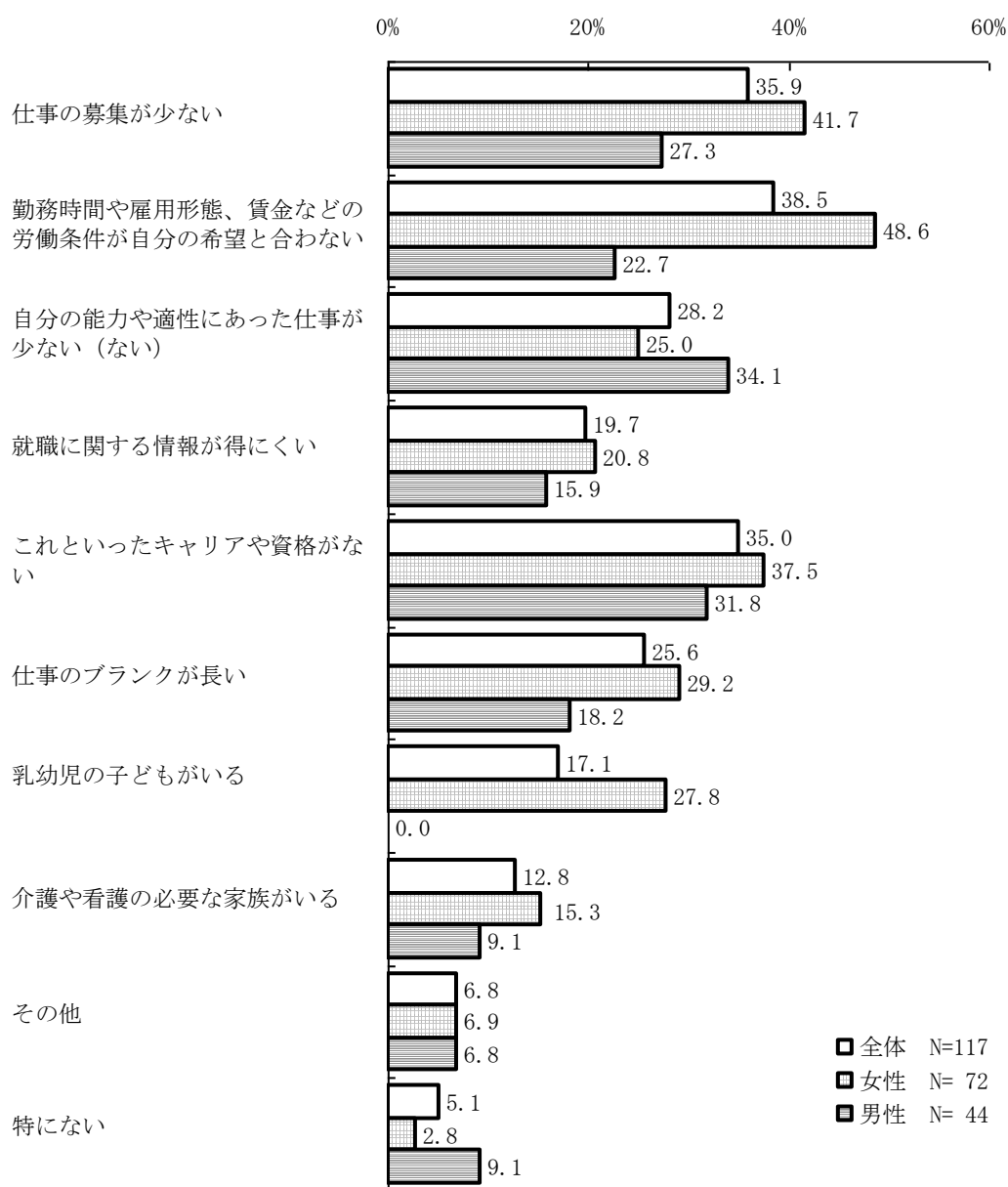


女性の20歳代は「仕事につきたい」（「ぜひ、仕事につきたい」＋「できれば、仕事につきたい」）の割合が100%、30歳代では77.5%であるが、40歳代では50.0%である。年齢層が高いほど「仕事につきたいと思わない」割合は高くなっている。40歳代、50歳代では「わからない」の割合が20%を超えている。

男性の場合は、60歳代で「仕事につきたい」と「仕事につきたいと思わない」の割合が拮抗しているものの、70歳代では、「仕事につきたいと思わない」の割合が63.0%である。なお、20～40歳代については標本数が少ないために省略する。

問 10－ 1 あなたは、仕事につきたいと思う上で何か困ったことや不安がありますか。
(○はいくつでも)

図 1－13 仕事につきたいと思う上で困ったことや不安の内容



■女性に多い、「仕事につきたいときの困ったことや不安」

「困ったことや不安」の選択率の高いものをみると、女性の場合は、「勤務時間や雇用形態、賃金などの労働条件が自分の希望と合わない」が第1位で48.6%、2人に1人が選んでいる。ついで、「仕事の募集が少ない」が41.7%、「これといったキャリアや資格がない」が37.5%。

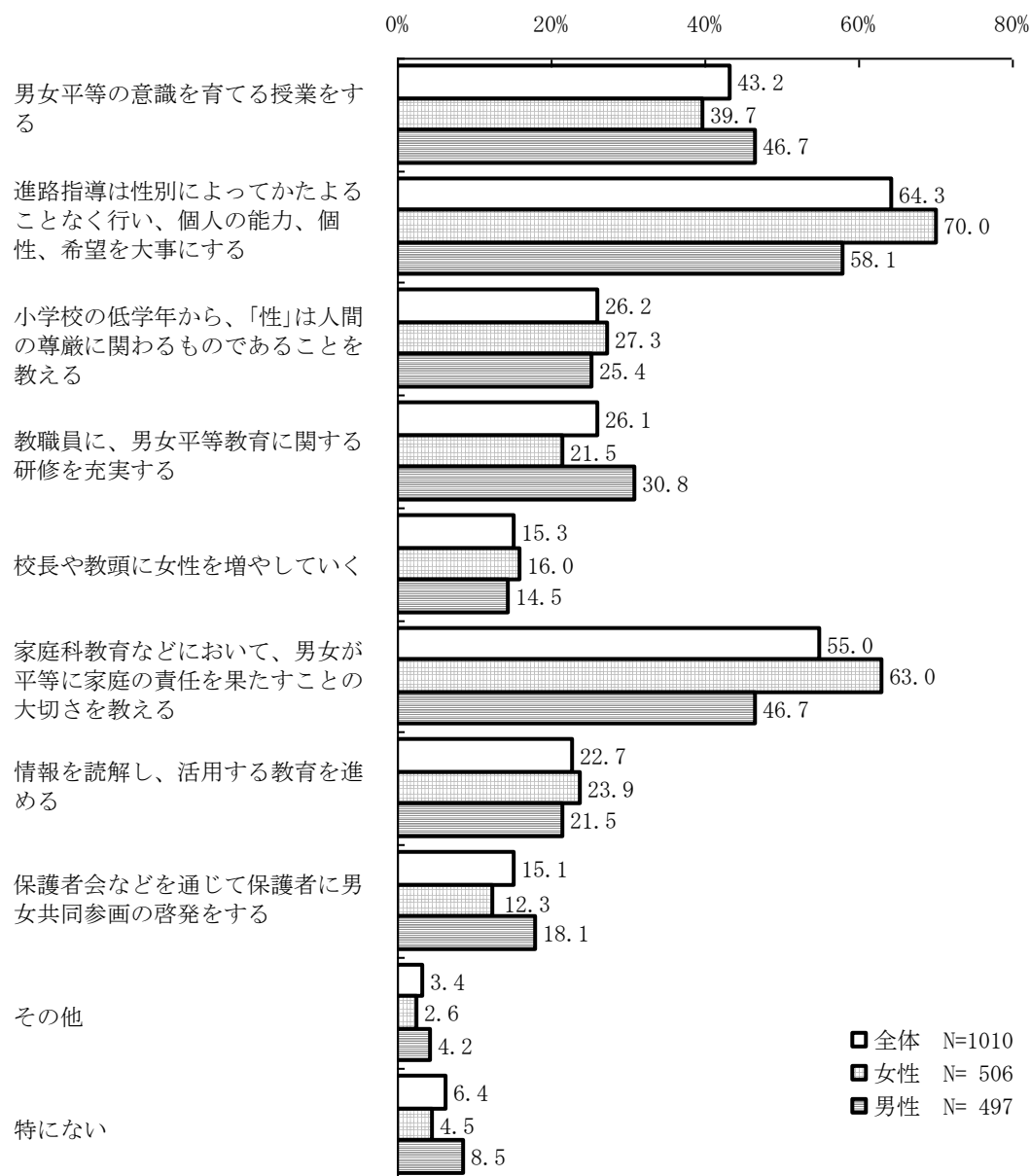
男性の場合は、「自分の能力や適性にあった仕事が少ない (ない)」が34.1%で最も高く、ついで「これといったキャリアや資格がない」が31.8%である。女性では27.8%が選んでいる「乳幼児の子どもがいる」は、男性は0%である。

男性の割合の方が高くなっているのは「自分の能力や適性にあった仕事が少ない (ない)」のみで、他の項目はすべて女性の割合の方が高い。

2. 教育について

問 11 男女平等を進めるために、小学校・中学校でどのような取り組みが重要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

図2-1 小学校・中学校において重要な男女平等の取り組み



■「男女平等の進路指導」が重要だとする割合が高い

男女平等を進めるために小学校・中学校で取り組むことを選択率の高い順にみると、女性では、第1位は「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」で70.0%が選んでいる。ついで、2位は「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」が63.0%、3位は「男女平等の意識を育てる授業をする」で39.7%である。

男性では、第1位は「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」で58.1%、ついで「男女平等の意識を育てる授業をする」「家庭科教育などにおい

て、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」がそれぞれ 46.7%である。

「男女平等の意識を育てる授業をする」「教職員に、男女平等教育に関する研修を充実する」「保護者会などを通じて男女共同参画の啓発をする」では男性の選択率の方が高いが、それ以外の項目では女性の方が高くなっている。特に、「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」では、16.3 ポイントの差がある。

前回調査の結果と比較すると、ほぼ同様の結果となっている。

【参考 前回調査】

図 小学校・中学校において重要な男女平等の取り組み

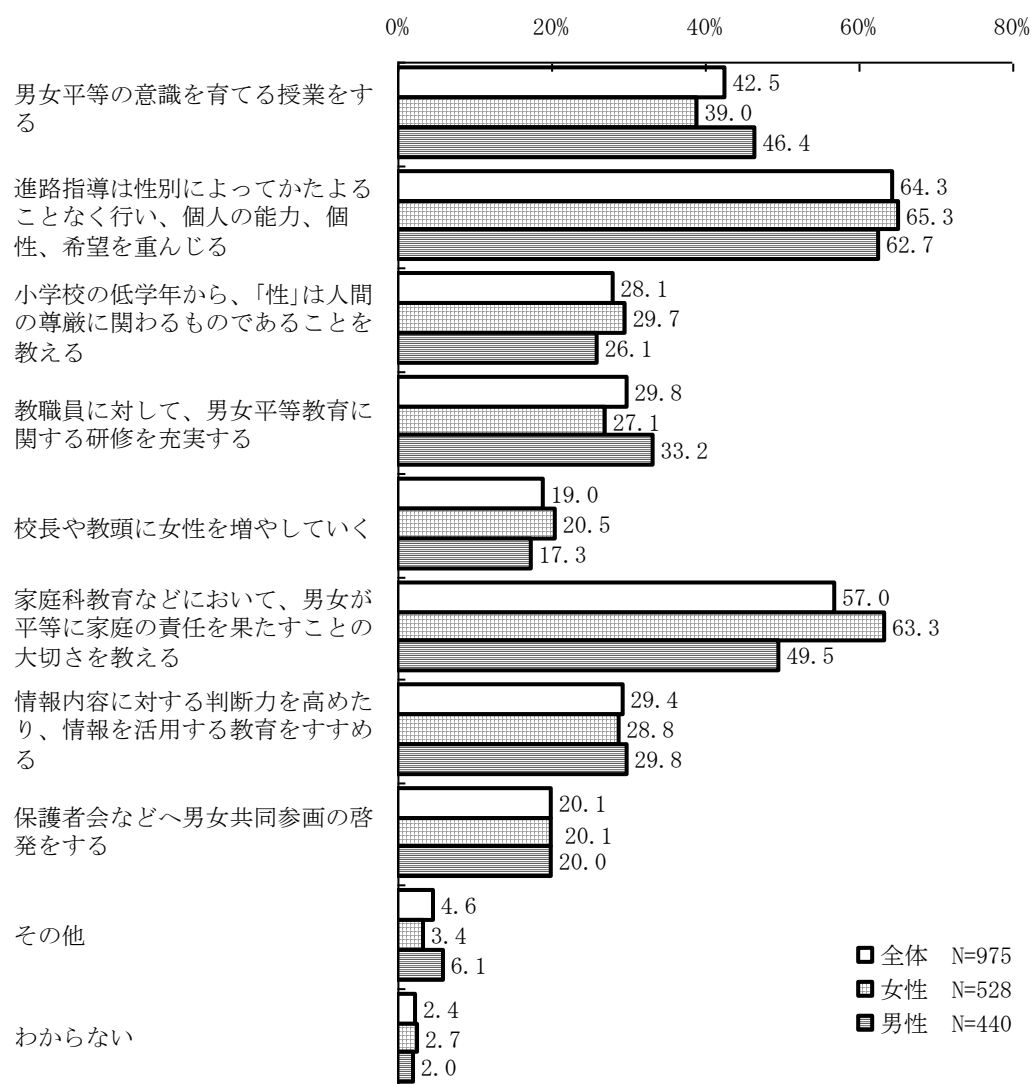
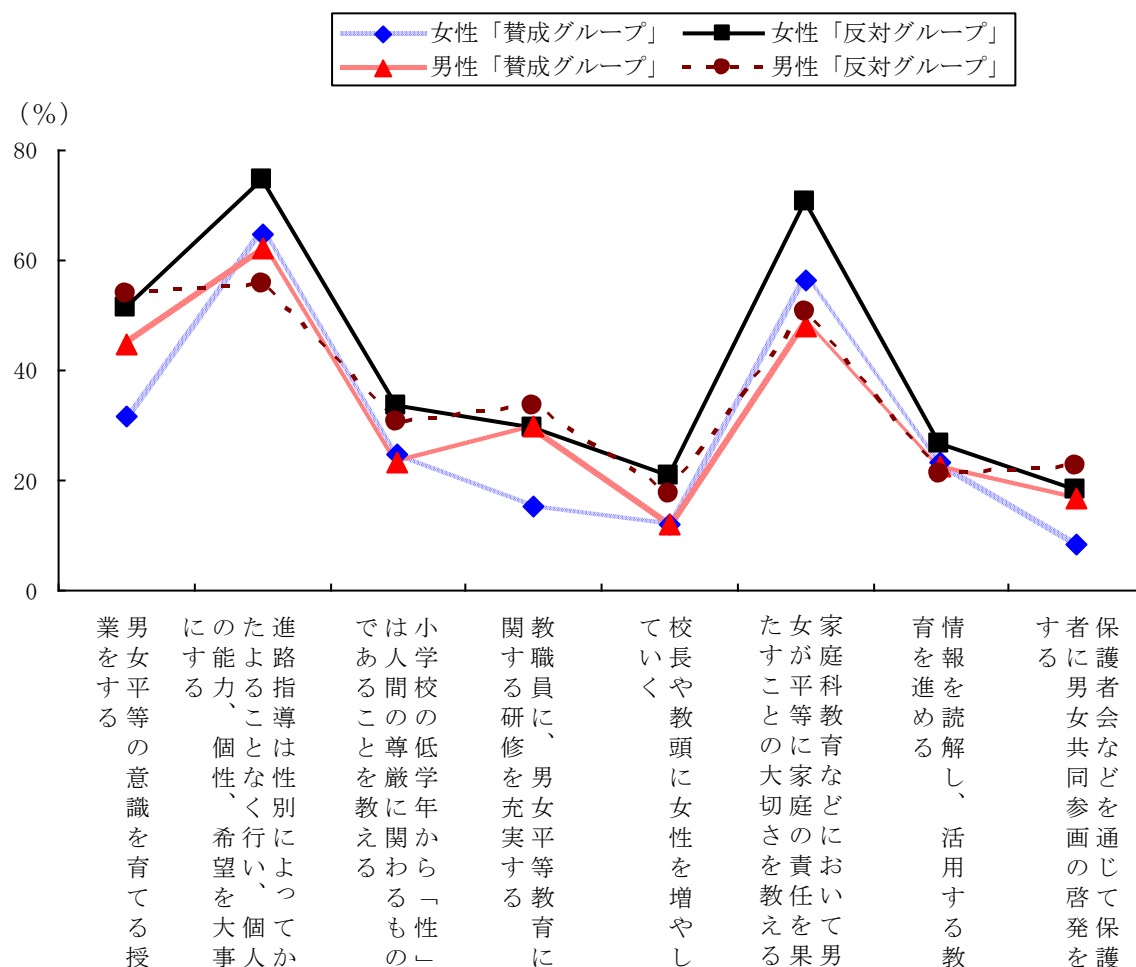


図2-2 性別・性別役割分担意識別 小学校・中学校において重要な男女平等の取り組み



性別役割分担意識別でみると、女性の場合は、性別役割分担意識に＜賛成グループ＞より＜反対グループ＞の方がすべての項目を重要とする割合が高くなっている。

男性の場合は、「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」「情報を読解し、活用する教育を進める」では＜反対グループ＞より＜賛成グループ＞の方が重要とする割合が高くなっているが、他の項目については＜賛成グループ＞より＜反対グループ＞の方が重要とする割合が高くなっている。

性別・子どもの年齢別

表2-1 性別・子どもの年齢別 小学校・中学校において重要な男女平等の取り組み

		対象者数（人）	男女平等の意識を育てる授業をする	進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする	小学校の低学年から、「性」は人間の尊厳に関わるものであることを教える	教職員に、男女平等教育に関する研修を充実する	校長や教頭に女性を増やしていく	家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える	情報を読解し、活用する教育を進める	保護者会などを通じて保護者に男女共同参画の啓発をする
女性	0歳～就学前	59	35.6	66.1	16.9	13.6	18.6	55.9	18.6	6.8
	小学生	56	39.3	66.1	14.3	10.7	17.9	57.1	23.2	3.6
	中学生・高校生	42	28.6	61.9	19.0	11.9	9.5	71.4	16.7	7.1
	大学生～社会人	253	39.1	72.7	34.4	21.3	11.5	65.6	25.3	15.4
	子どもはいない	120	42.5	68.3	24.2	30.0	27.5	65.0	25.8	15.0
男性	0歳～就学前	66	48.5	56.1	10.6	22.7	15.2	36.4	15.2	10.6
	小学生	57	49.1	56.1	8.8	17.5	8.8	31.6	19.3	8.8
	中学生・高校生	43	46.5	48.8	16.3	14.0	16.3	51.2	20.9	11.6
	大学生～社会人	254	48.8	59.1	30.3	33.9	12.6	53.5	23.2	21.7
	子どもはいない	114	44.7	58.8	27.2	35.1	19.3	43.9	22.8	20.2

男女ともに「大学生～社会人」のいる回答者の割合が比較的高く、女性では、「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」、「小学校の低学年から、『性』は人間の尊厳に関わるものであることを教える」、「保護者会などを通じて保護者に男女共同参画の啓発をする」で高く、男性では、上記に加えて「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」、「情報を読解し、活用する教育を進める」でも高くなっている。

また、男女ともに、「子どもがいらない」回答者の割合が比較的高く、男性では、「教職員に、男女平等教育に関する研修を充実する」、「校長や教頭に女性を増やしていく」が高く、女性では、上記に加えて「情報を読解し、活用する教育を進める」でも高くなっている。

問 12 次の項目について、子どもにどの段階から教えるのがよいと思いますか。また、その場所はどこがよいと思いますか。(○は各項目にそれぞれ1つ)

図2-3 性教育の時期

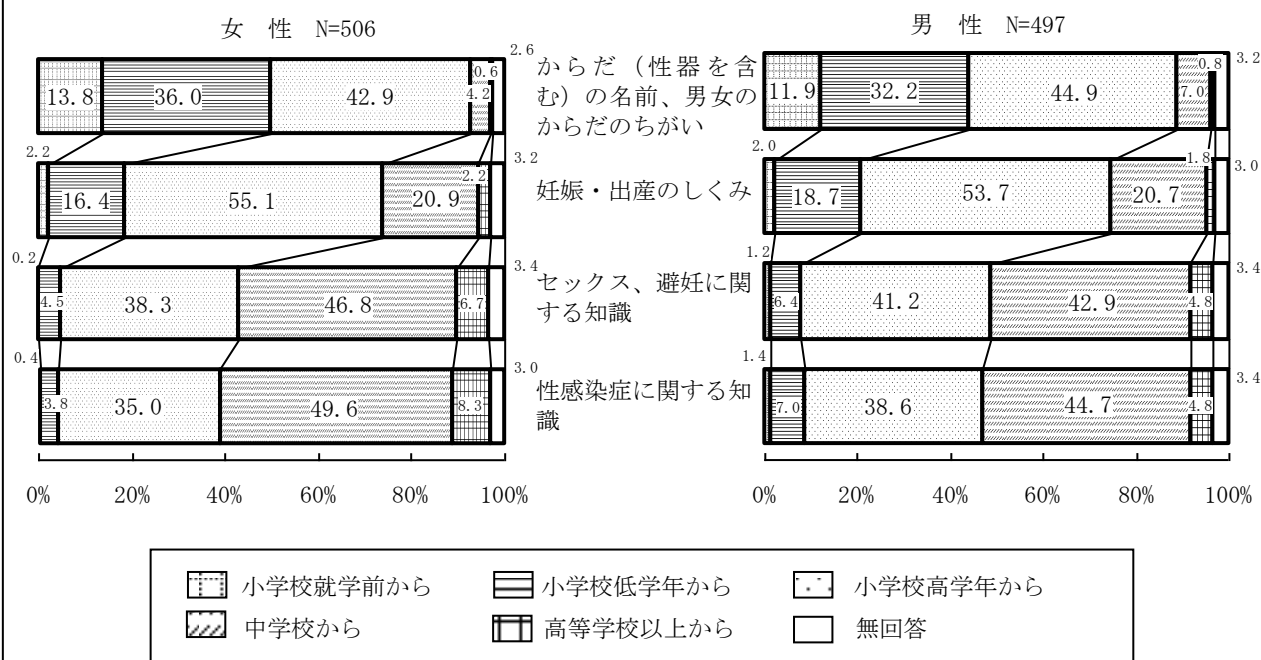
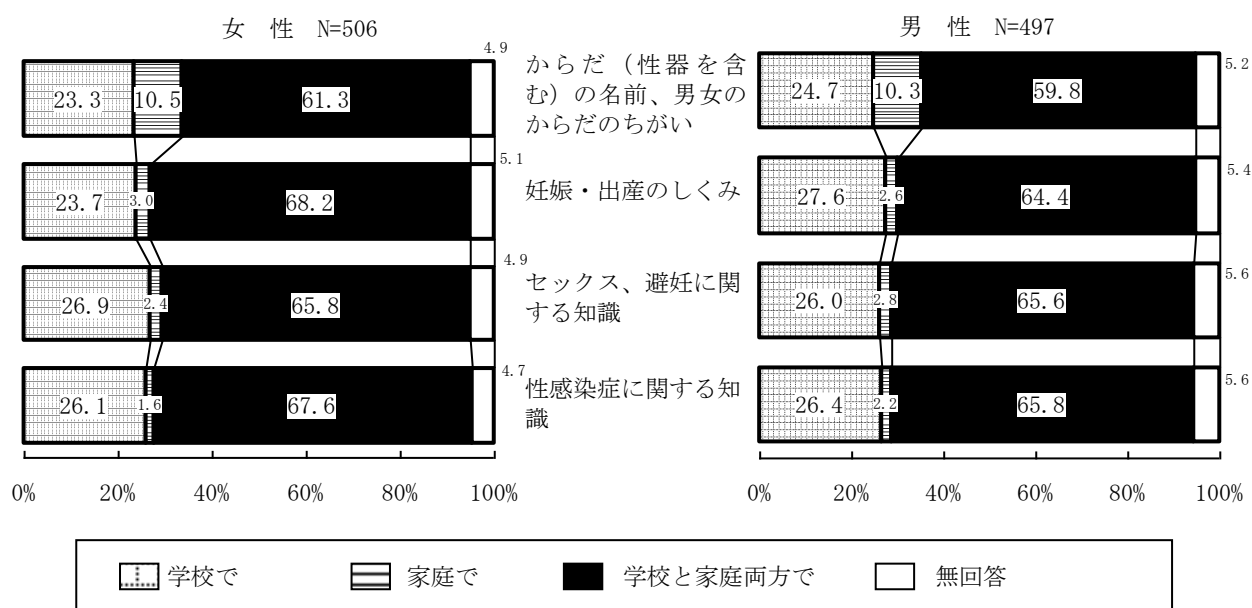


図2-4 性教育の場所



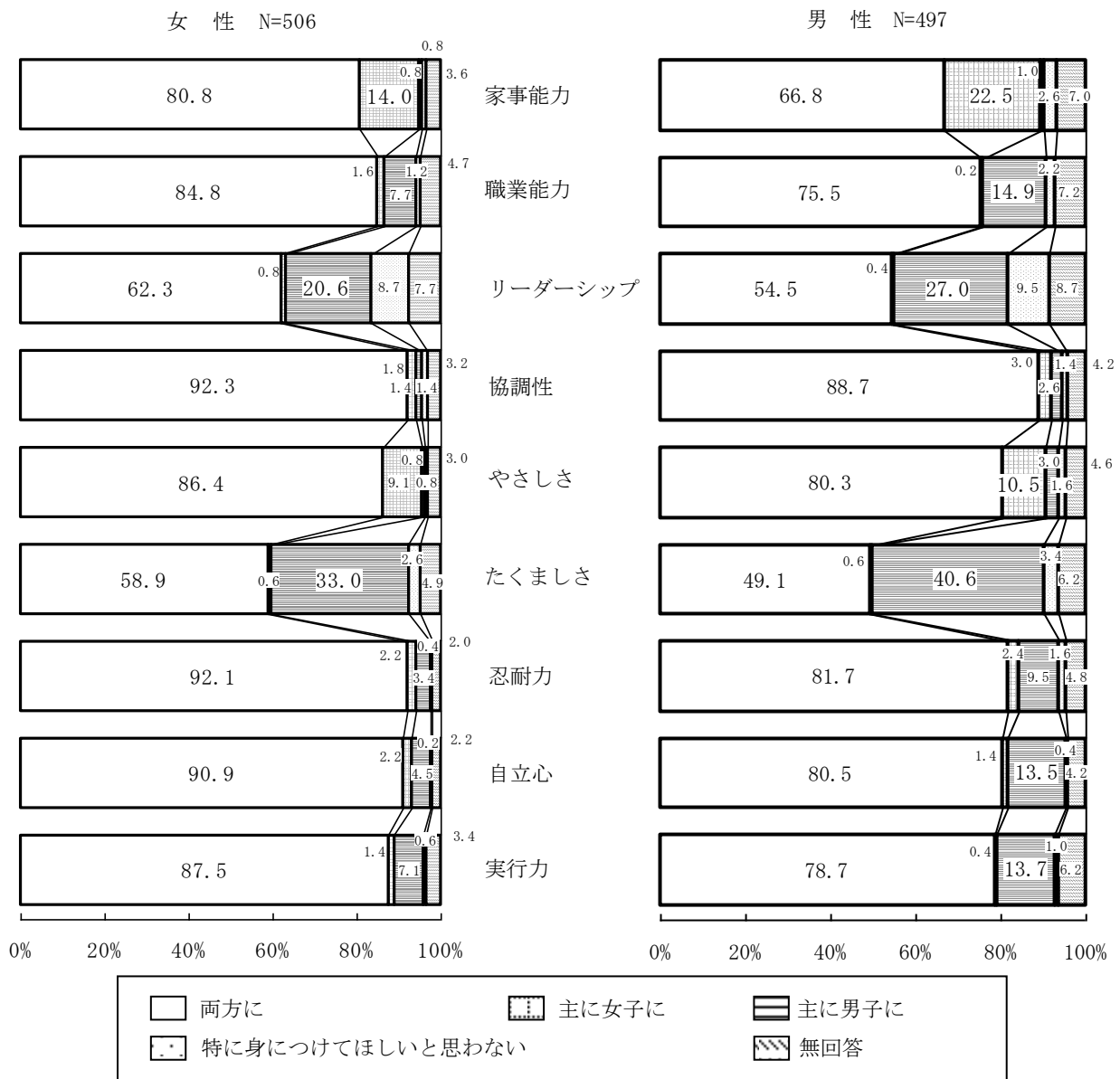
■性教育は、学校と家庭両方で、段階に応じて進める

性教育の時期については、『からだ（性器を含む）の名前、男女のからだのちがい』『妊娠・出産のしくみ』では、男女ともに「小学校高学年から」の割合が最も高く、『セックス、避妊に関する知識』『性感染症に関する知識』では男女とも「中学校から」が最も高くなっている。

性教育の場所については、すべての項目で「学校と家庭両方で」の割合が最も高く、ほぼ60%を超えている。ついで、「学校で」が20%台で続く。「家庭で」の割合は、数%と非常に低い中で、『からだ（性器を含む）の名前、男女のからだのちがい』のみ男女ともに約10%である。

問 13 あなたは、子どもにどのような能力を身につけてほしいですか（ほしかったですか）。
※子どものいない方もお答えください。（○は各項目にそれぞれ1つ）

図2-5 子どもに望む能力

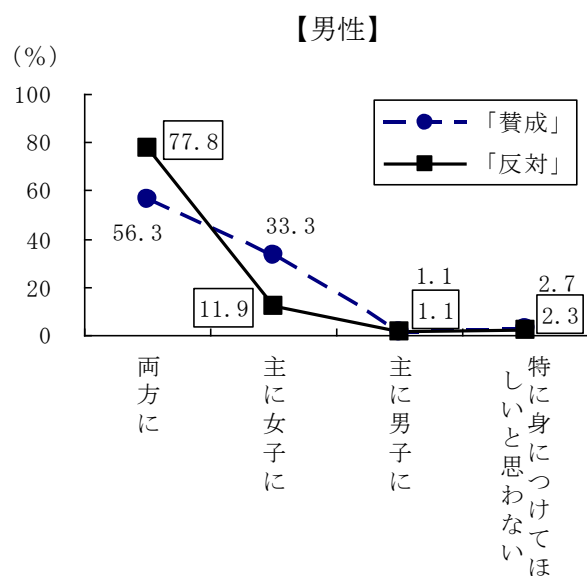
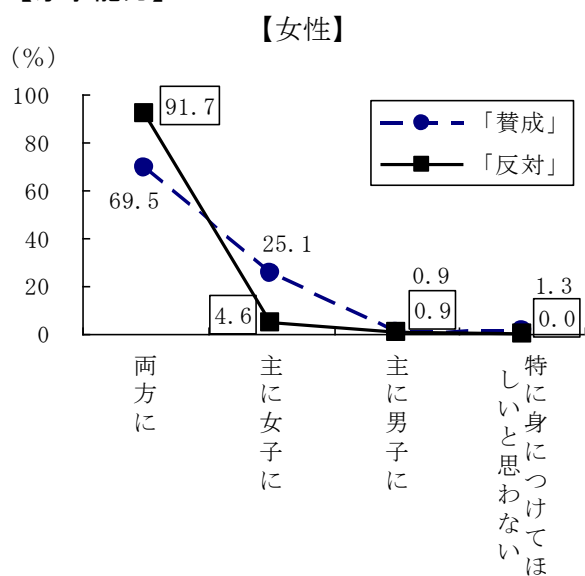


■ 「リーダーシップ」と「たくましさ」は「主に男子に」望む割合が高い

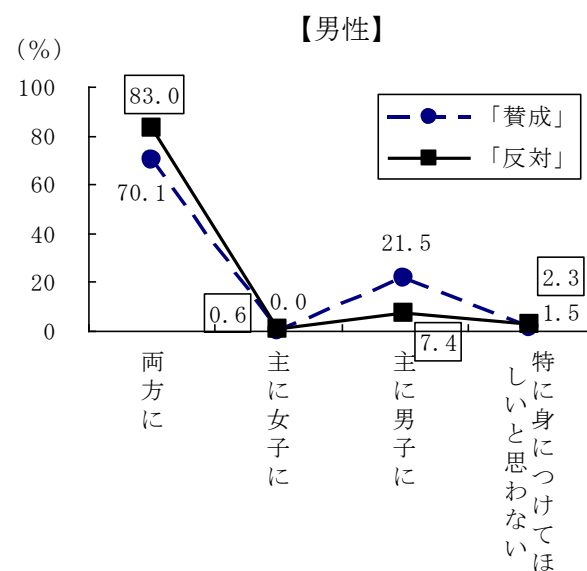
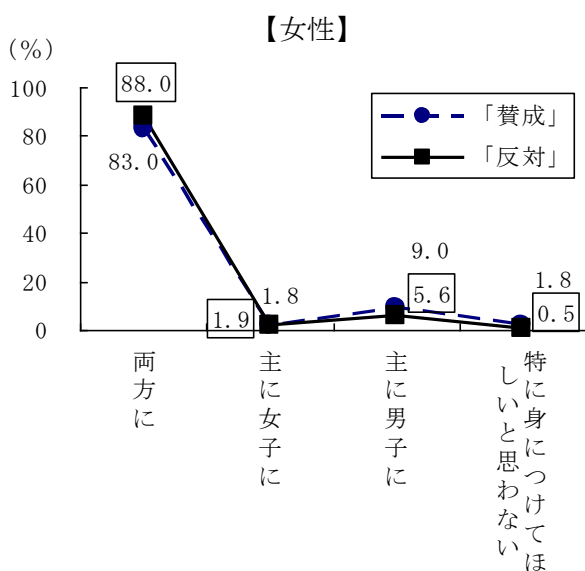
総合的にみると、女子・男子の区別なくさまざまな能力を身につけてほしいとする割合が男女ともに高くなっている。しかし、「たくましさ」では女性 33.0%・男性 40.6%、「リーダーシップ」では女性 20.6%・男性 27.0%の割合で「主に男子に」が選択されている。また、「家事能力」では女性 14.0%・男性 22.5%が「主に女子に」を選んでいる。

男性においては、女性に比べて、「主に男子に」あるいは「主に女子に」を選択する割合が高くなっている。

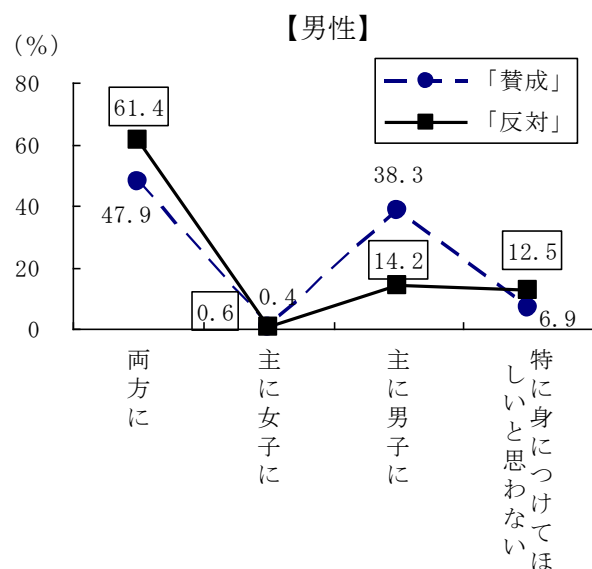
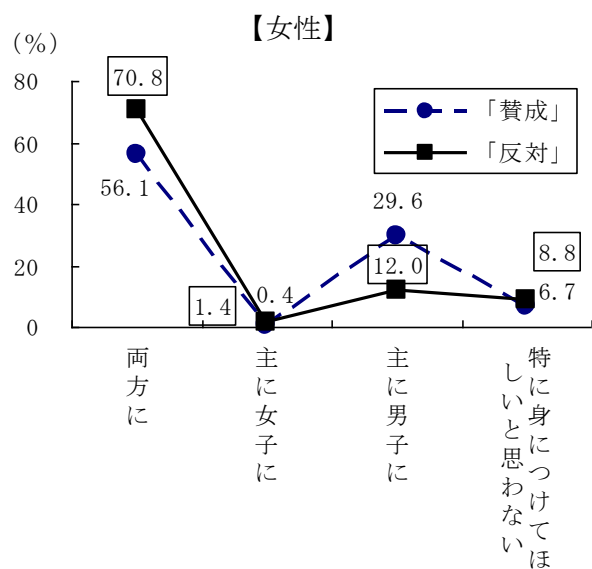
【家事能力】



【職業能力】

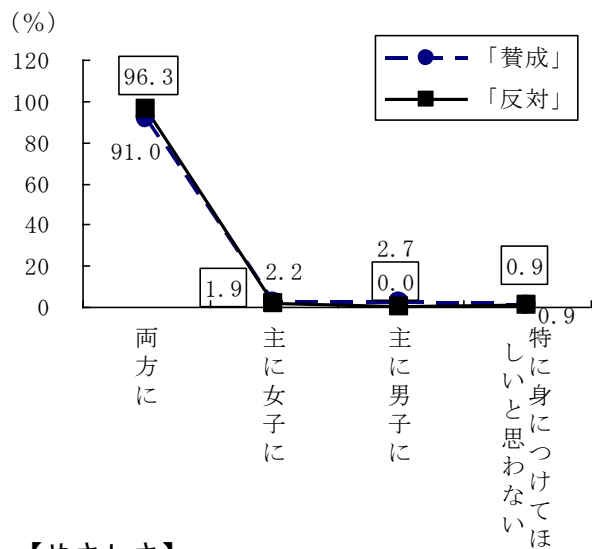


【リーダーシップ】

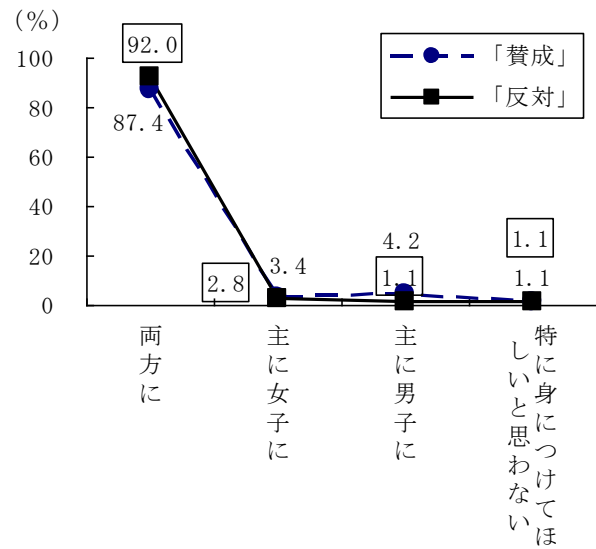


【協調性】

【女性】

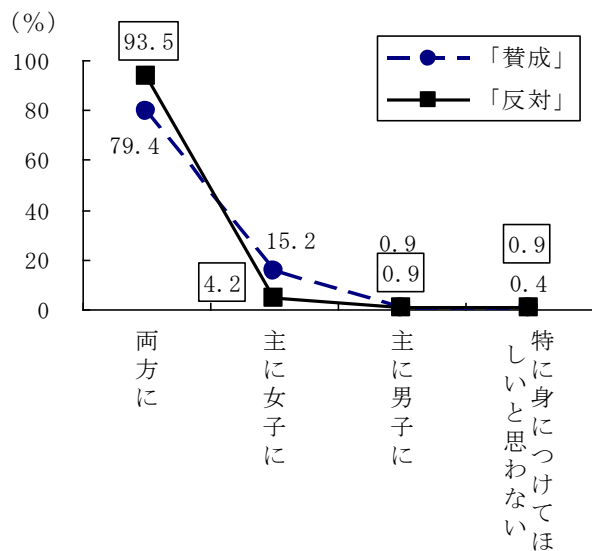


【男性】

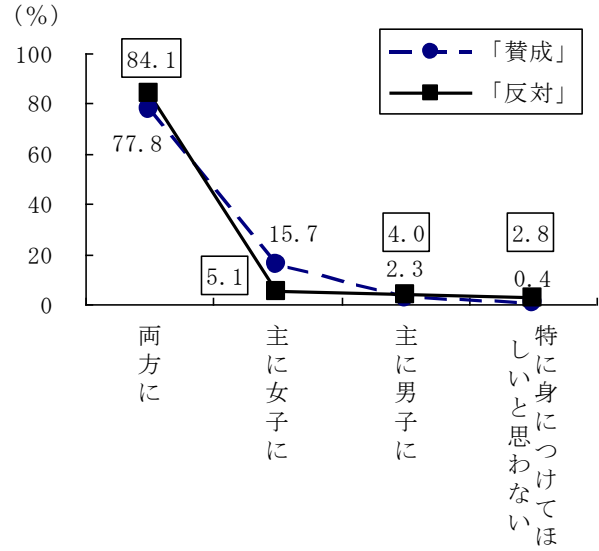


【やさしさ】

【女性】

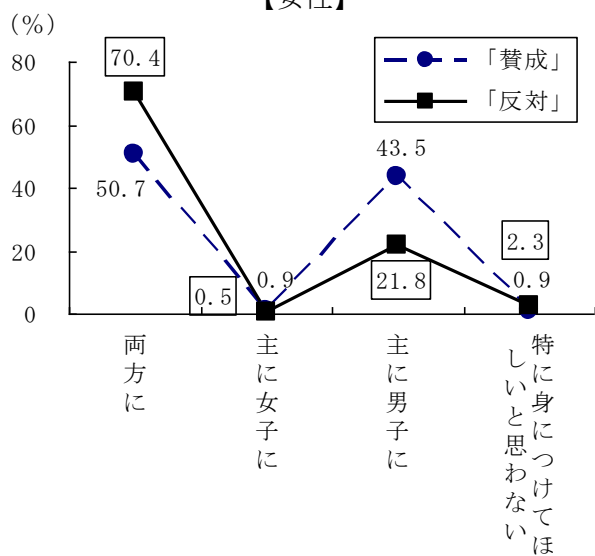


【男性】

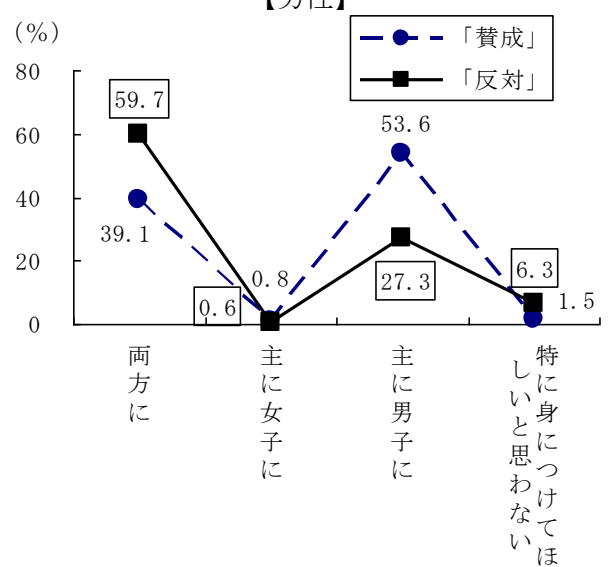


【たくましさ】

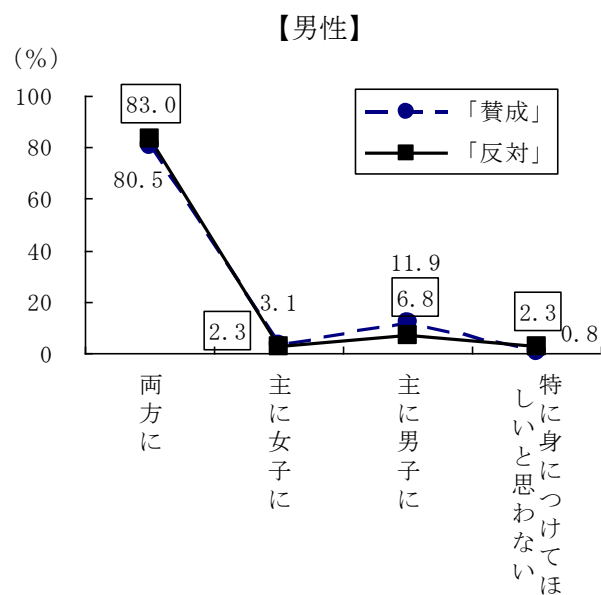
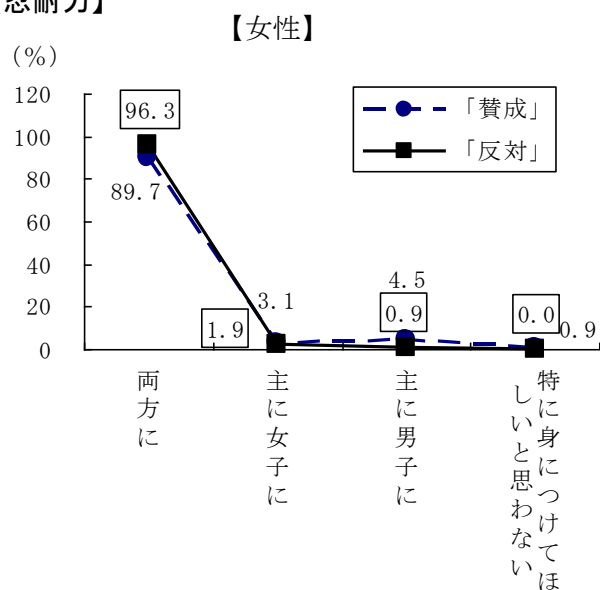
【女性】



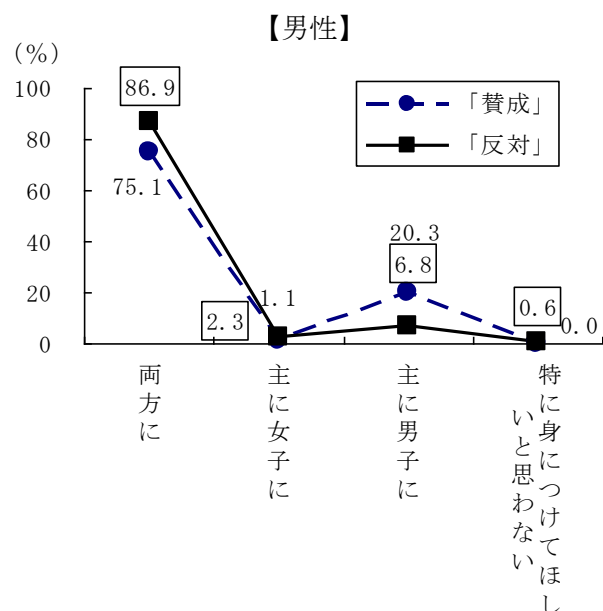
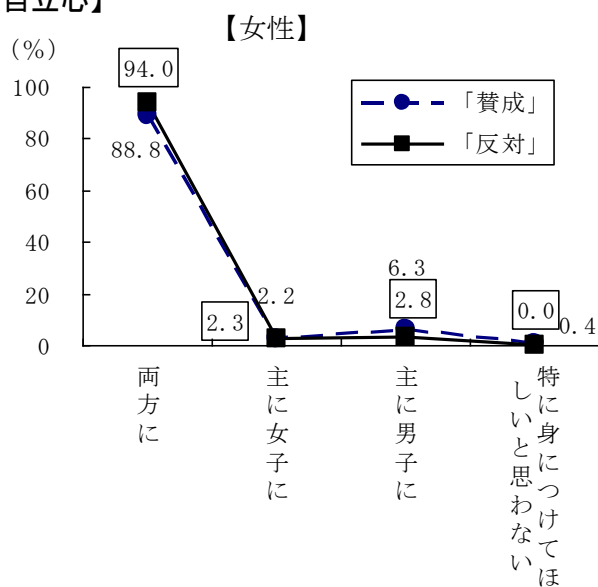
【男性】



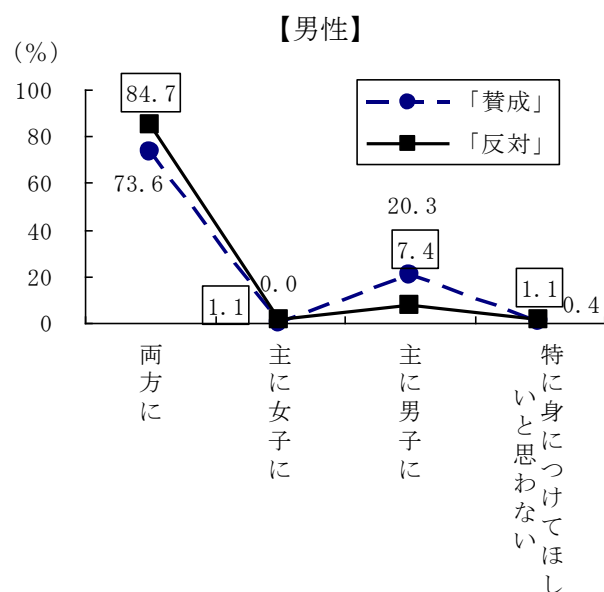
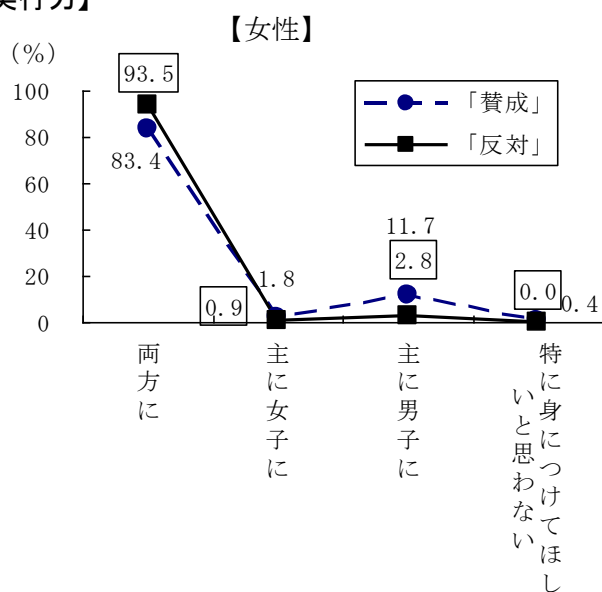
【忍耐力】



【自立心】



【実行力】

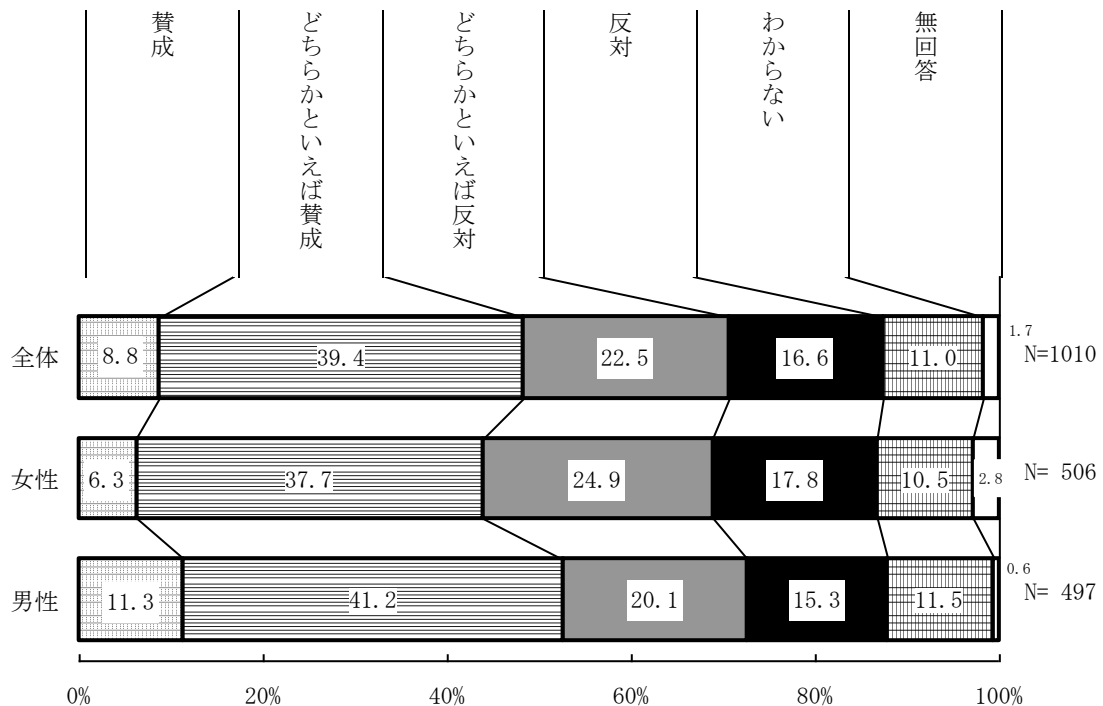


「家事能力」「リーダーシップ」「たくましさ」において、固定的な性別役割分担意識に賛成とするグループの方が「主に女子に」あるいは「主に男子に」を選ぶ率が高くなっている。

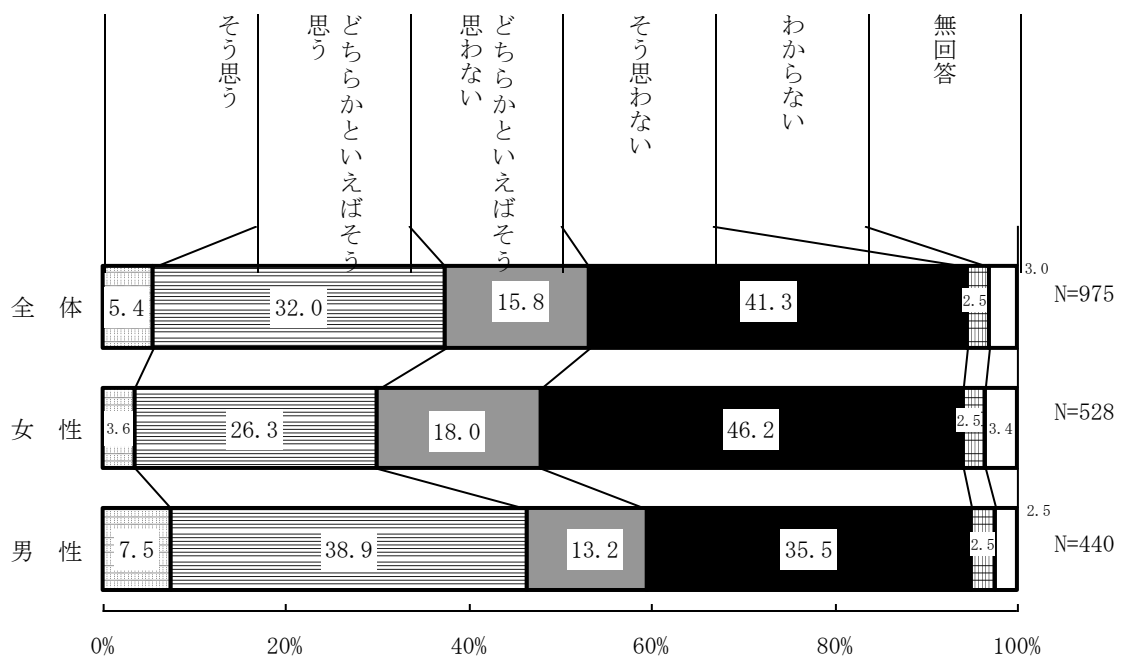
3. 男女の意識について

問 14 あなたは、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考えをどう思いますか。(○は1つ)

図3-1 固定的性別役割分担意識



【参考 前回調査】



■固定的な性別役割分担意識に「賛成」が「反対」を上回る

いわゆる固定的な性別役割分担意識に対する考え方をたずねたところ、女性の場合は、＜賛成グループ＞（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が 44.0%、＜反対グループ＞（「反対」＋「どちらかといえば反対」）が 42.7%で、拮抗している。

男性の場合は、＜賛成グループ＞（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が 52.5%、＜反対グループ＞（「反対」＋「どちらかといえば反対」）が 35.4%で、賛成グループの方が 17.1 ポイント高くなっている。

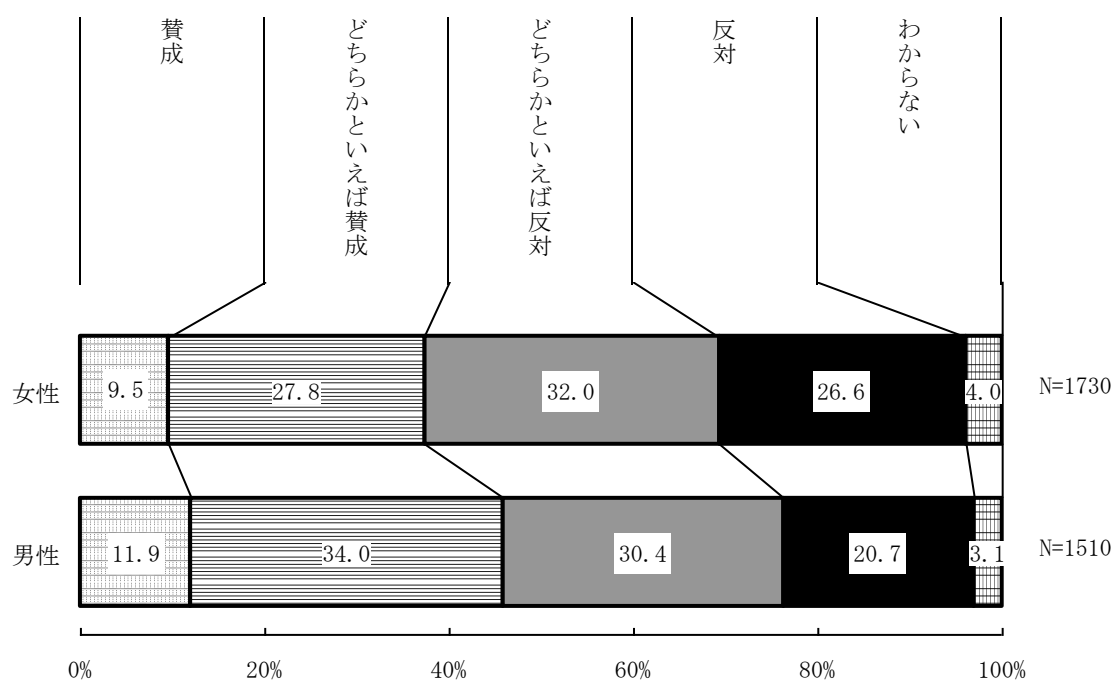
男女ともに約 10%が「わからない」を選択している。

この結果を前回調査と比較すると、その結果は大幅に異なっていることがわかる。

前回調査をみると、女性では＜賛成グループ＞29.9%、＜反対グループ＞64.2%。男性では＜賛成グループ＞46.4%、＜反対グループ＞48.7%で、男女ともに＜反対グループ＞の割合が高くなっていた。しかし、今回調査では、男女ともに＜賛成グループ＞の方が高くなっている。特に女性においては、その開きが大きい。

【参考 国調査】

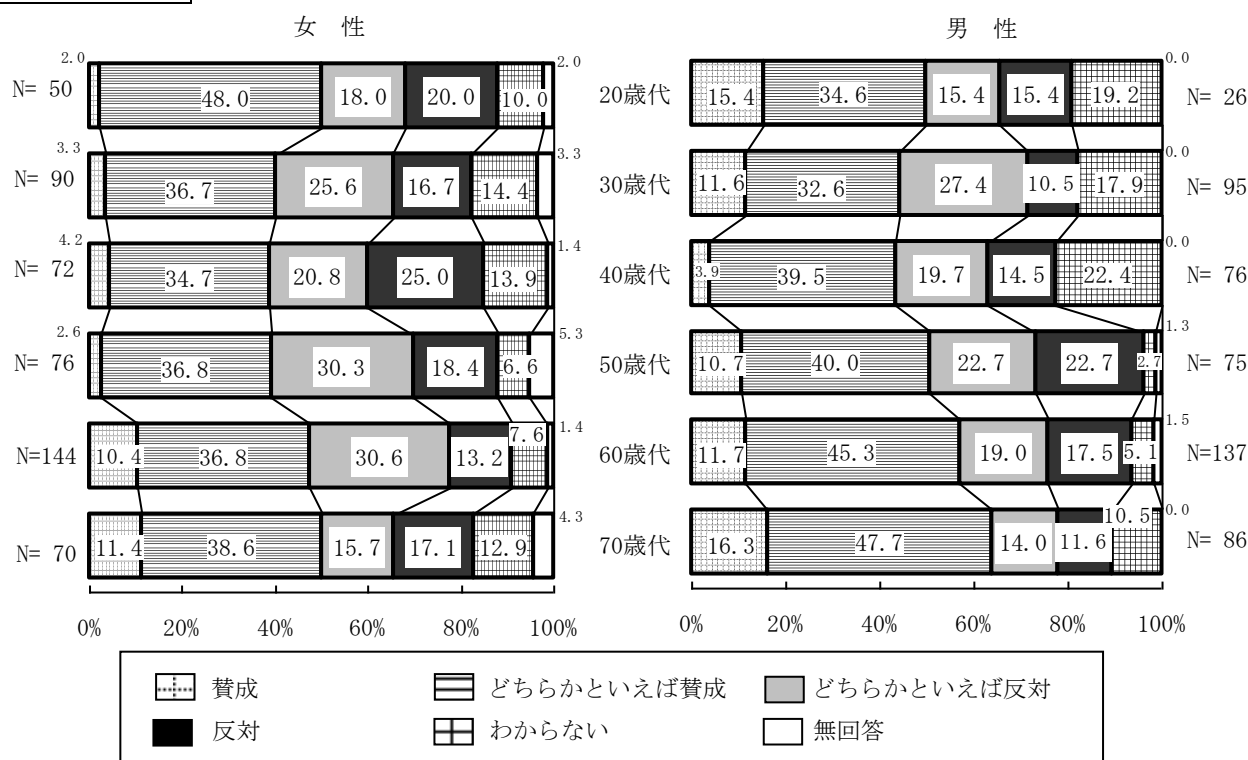
図 固定的性別役割分担意識



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」平成 21 年

性別・年齢層別

図3-2 性別・年齢層別 固定的性別役割分担意識

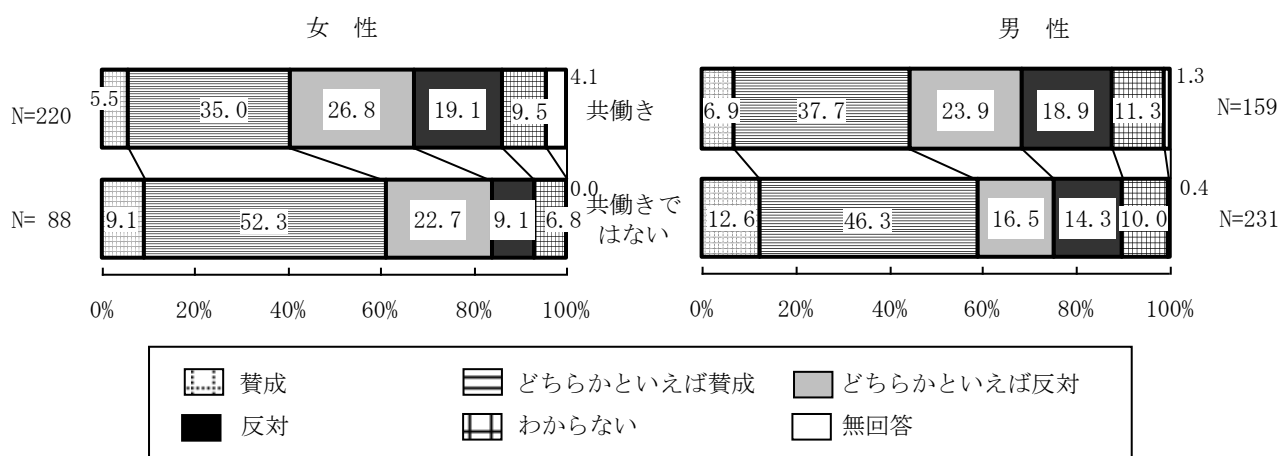


女性の場合、20歳代、60歳代、70歳代では＜賛成グループ＞の割合が高くなっている。中でも、20歳代、70歳代では＜反対グループ＞との差がそれぞれ12ポイント、17.2ポイントとなっている。反面、30歳代～50歳代では＜反対グループ＞の割合が高く、特に40歳代では「反対」が25.0%で4人に1人である。

男性の場合は、すべての年齢層で＜賛成グループ＞の割合が高くなっており、特に、20歳代、60歳代、70歳代では差が大きい。その中で、50歳代では＜反対グループ＞の割合と拮抗している。

性別・共働き or 共働きでない別

図3-3 性別・共働き or 共働きでない別 固定的性別役割分担意識



共働きかそうでないかによって、固定的な性別役割分担意識についての考えをみると、男女ともに、共働きの方が＜反対グループ＞の割合が高く、女性45.9%・男性42.8%であり、共働きでない方の女性31.8%・男性30.8%と比べて10ポイント以上上回っている。

問 15 あなたは、女性、男性それぞれにとって望ましい「仕事とその他の生活のあり方」をどう思いますか。

図3-4 女性にとって望ましい「仕事とその他の生活のあり方」

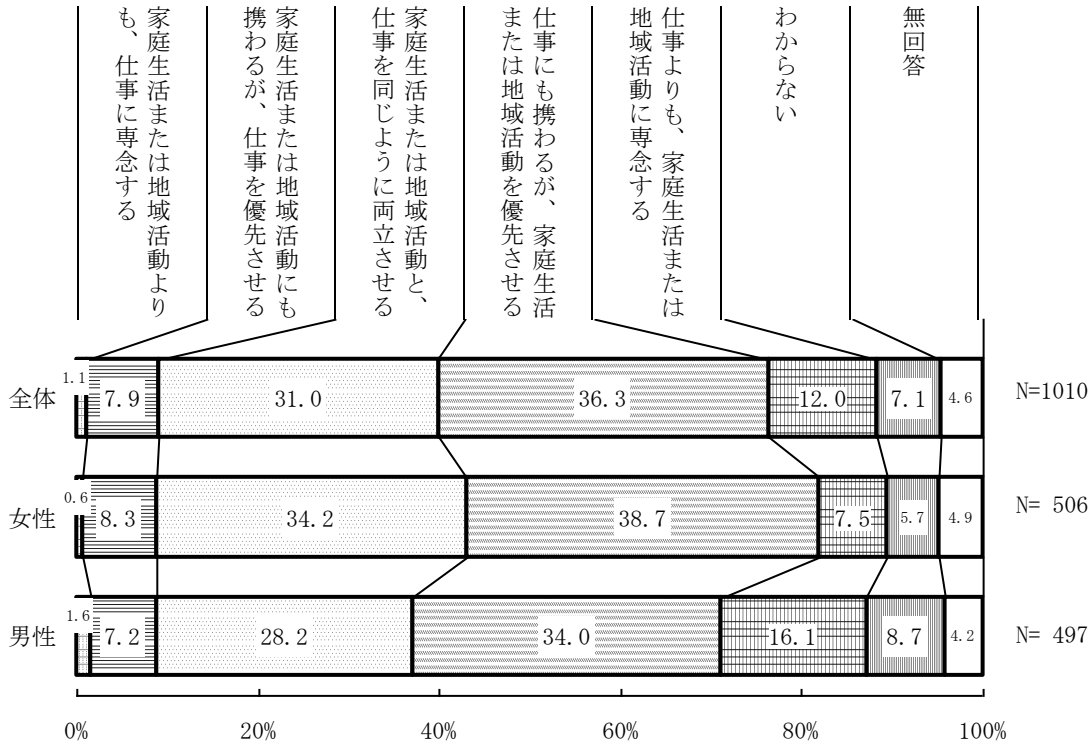
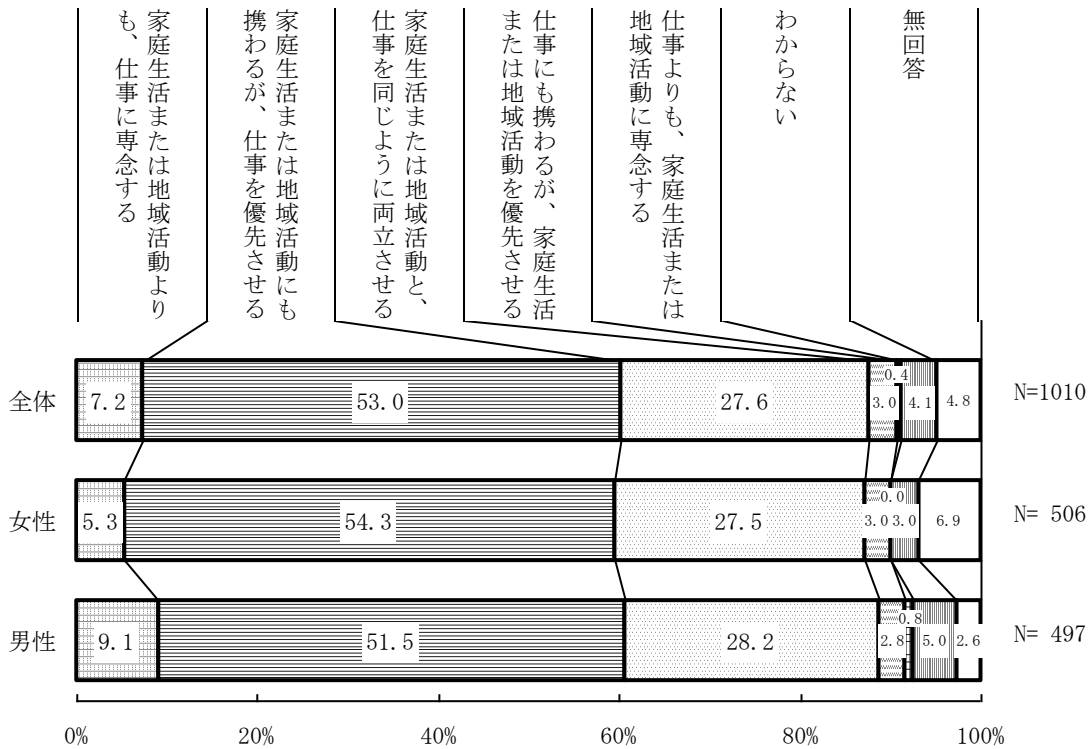


図3-5 男性にとって望ましい「仕事とその他の生活のあり方」



■望ましいとするワーク・ライフ・バランスは「性別」によって異なる

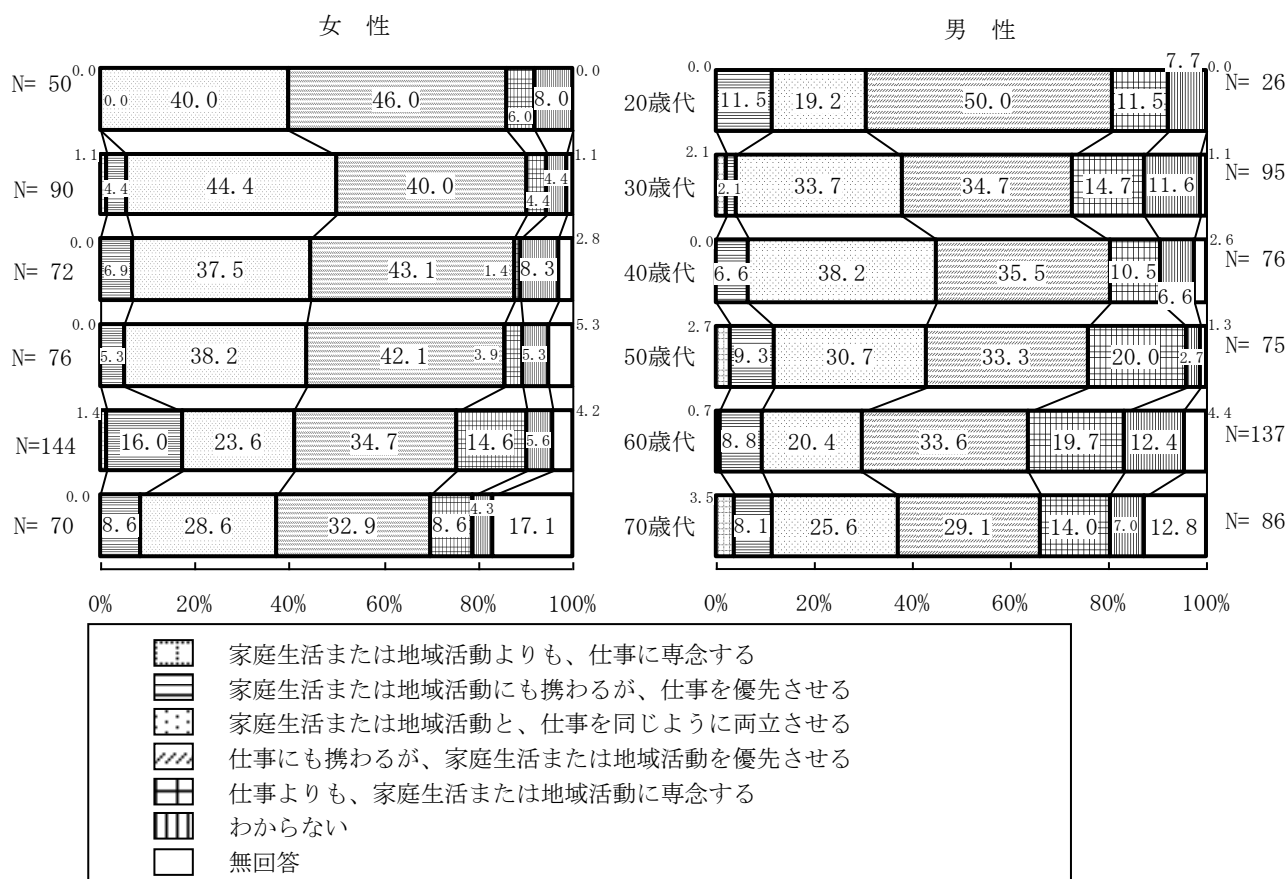
男女それぞれにとって望ましいワーク・ライフ・バランスについての考え方は、男女で似たような傾向である。

「女性にとって望ましいワーク・ライフ・バランス」については、男女ともに「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる」あるいは「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」の割合が同程度に高い。「仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する」の割合は男性の方が女性より 8.6 ポイント高くなっている。

「男性にとって望ましいワーク・ライフ・バランス」については、「家庭生活または地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」の割合が男女ともに最も高く、女性 54.3%・男性 51.5%と半数を占める。ついで、「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」が女性 27.5%・男性 28.2%となっており、性別によって望ましいライフスタイルは異なっている。

性別・年齢層別

図3-6 性別・年齢層別 女性にとって望ましい「仕事とその他の生活のあり方」



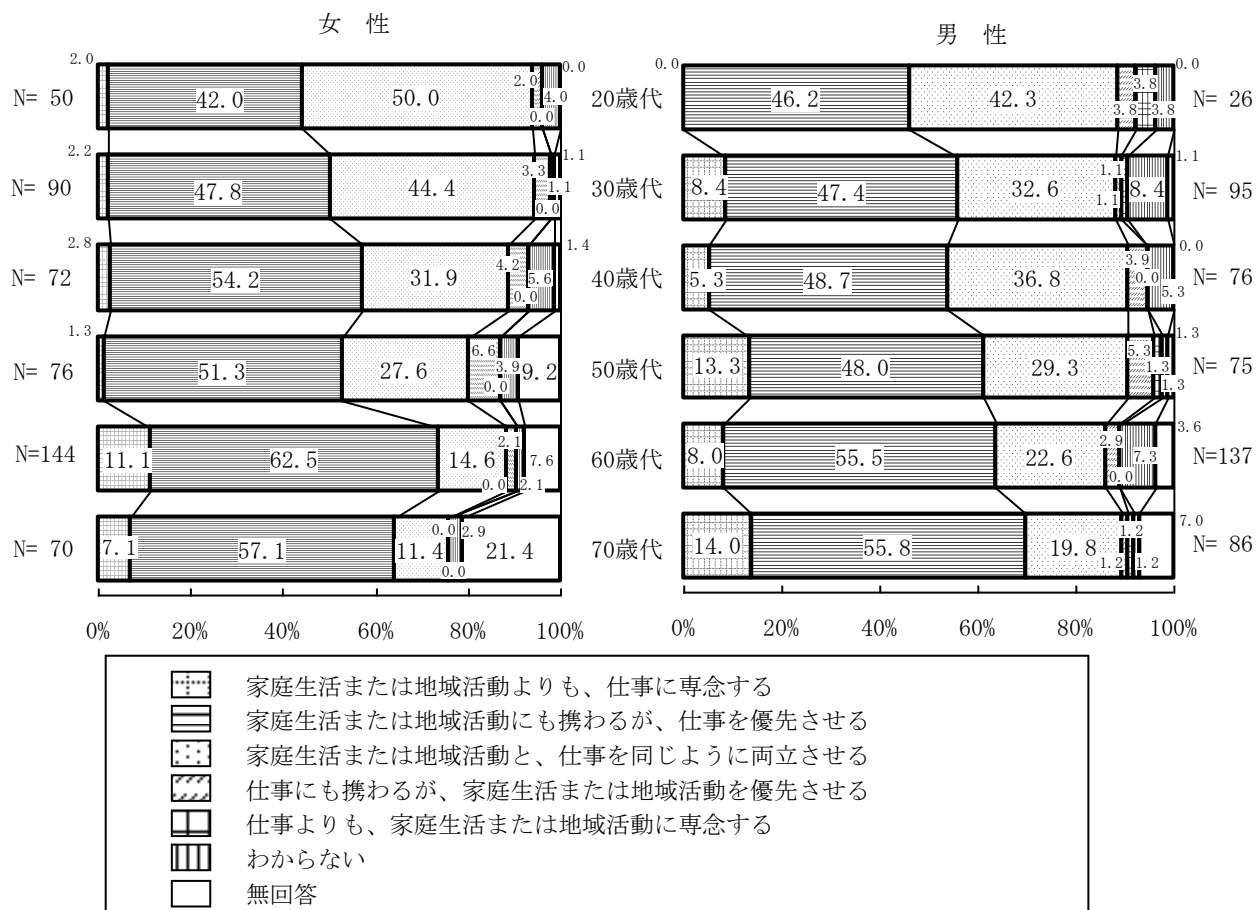
男女ともに、20歳代で「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる」の割合が最も高く、女性 46.0%・男性 50.0%である。

女性の場合は、「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」の割合は、50歳代以下の年齢層で高く、30歳代では 44.4%である。60歳代では、「家庭生活または地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」が 16.0%となっている。

男性の場合は、30歳代～50歳代で「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」

の割合が高く、特に40歳代では38.2%である。50、60歳代では「仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する」がそれぞれ20.0%、19.7%となっており、他の年齢層よりも高い。

図3-7 性別・年齢層別 男性にとって望ましい「仕事とその他の生活のあり方」



「男性にとって望ましい『仕事とその他の生活のあり方』を性別・年齢層別にみると、男女ともに年齢層が高いほど、「家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する」、「家庭生活または地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」の割合が高くなる傾向である。

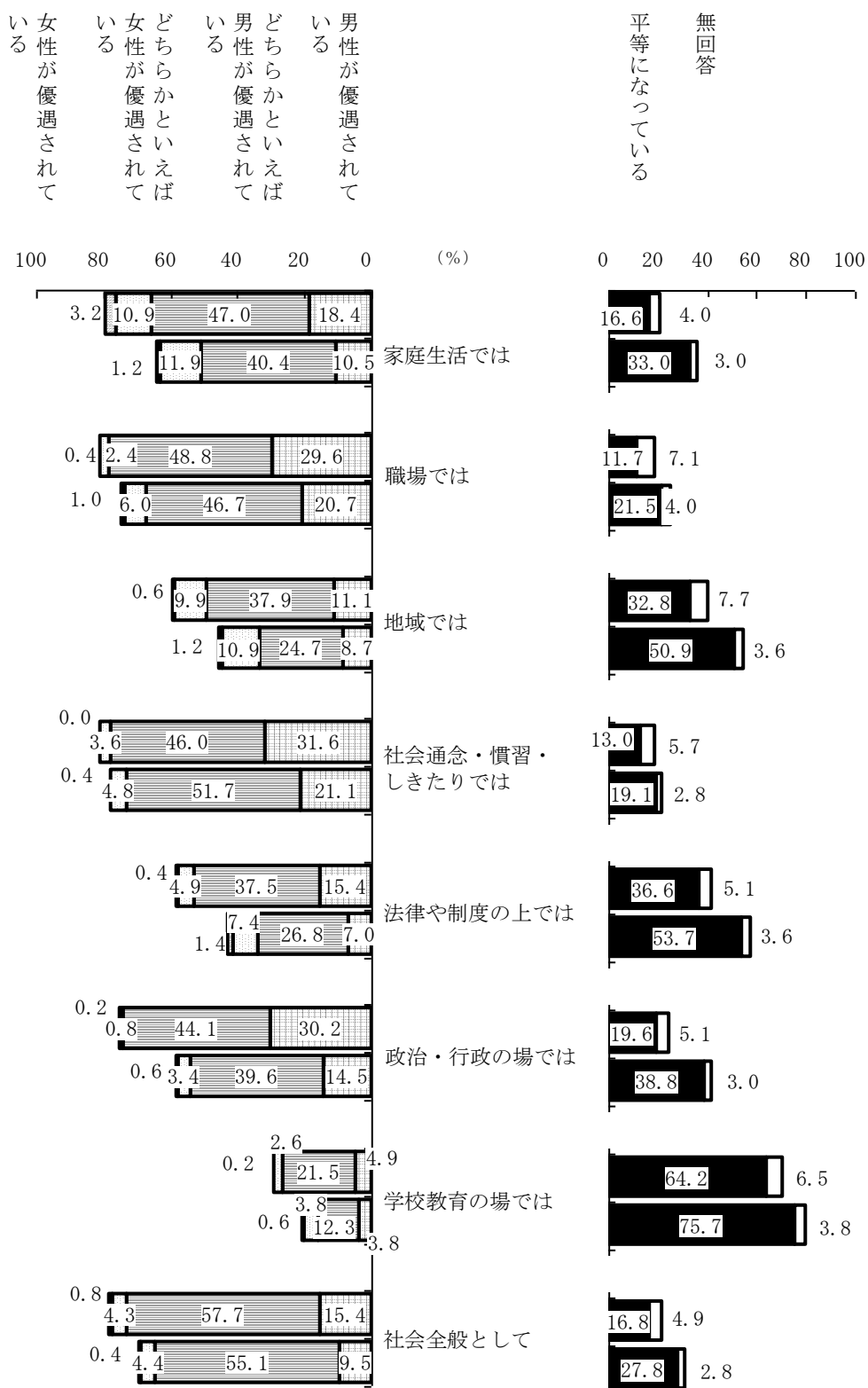
特に、女性の60歳代では、「家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する」11.1%、「家庭生活または地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」62.5%で男女合わせても一番高くなっている。

一方、「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」の割合は、若年層で高くなっており、男性の20歳代では、「仕事優先」と拮抗している。

問 16 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。

(○は各項目にそれぞれ1つ)

図3-8 男女の地位の平等感



上段：女性 (N=506)

下段：男性 (N=497)

■社会はいまだに男女平等になっていないと感じる割合が高い

「平等になっている」の割合が 50%を超えている分野をみると、女性の場合は、『学校教育の場では』のみで 64.2%である。一方、男性の場合は、『学校教育の場では』(75.7%)、『法律や制度の上では』(53.7%)、『地域では』(50.9%)が高い。

男女ともに全般的に〈男性優遇〉(「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)の割合が高くなっている。

特に、女性では『職場では』『社会通念・慣習・しきたりでは』『政治・行政の場では』、男性では『社会通念・慣習・しきたりでは』の割合が 70%を超えている。

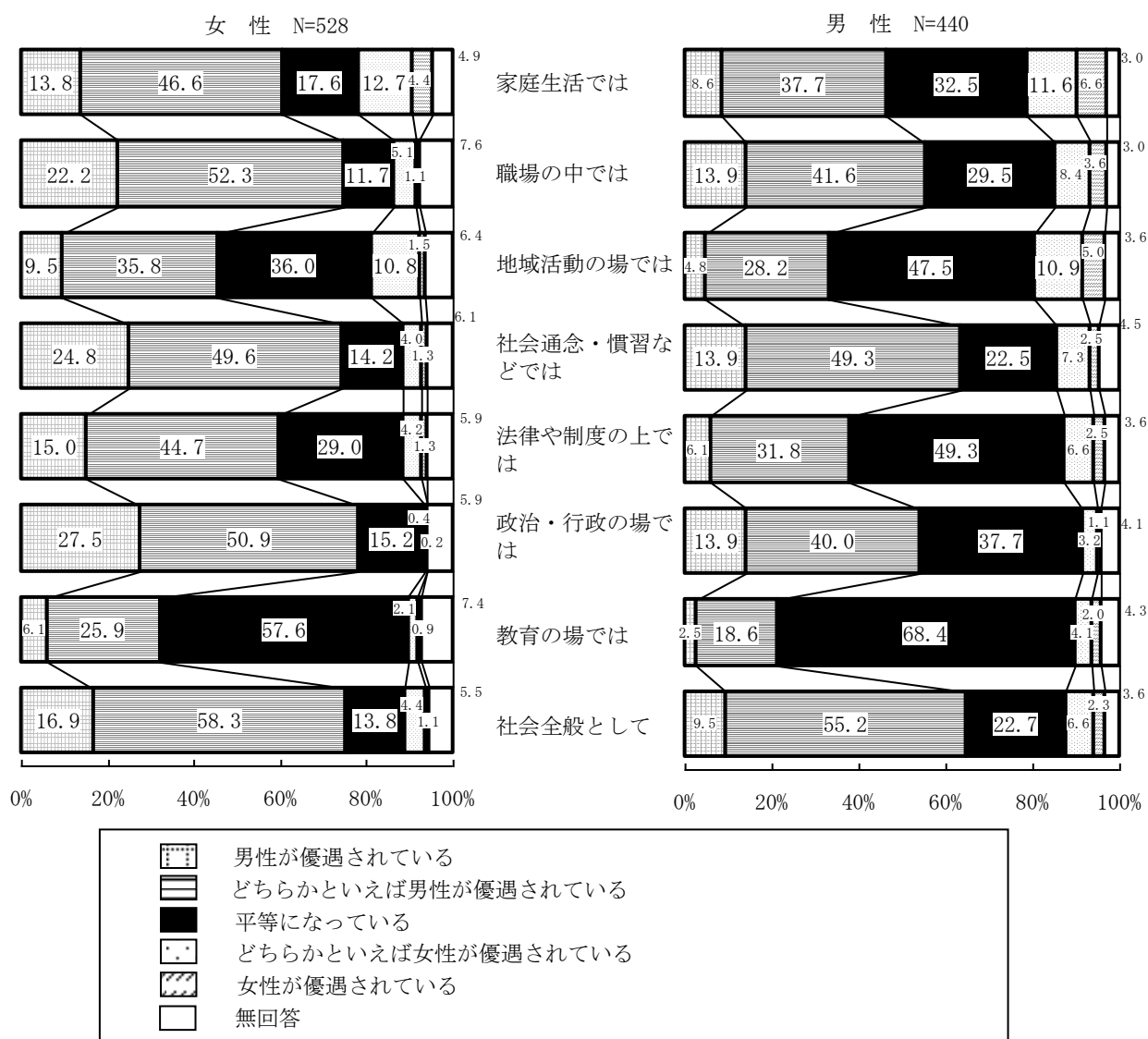
『社会全般として』においても、〈男性優遇〉とする割合は女性 73.1%・男性 64.6%と高くなっている。

また、すべての項目において女性の方が男性よりも〈男性優遇〉とする割合が高い。

この結果は、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

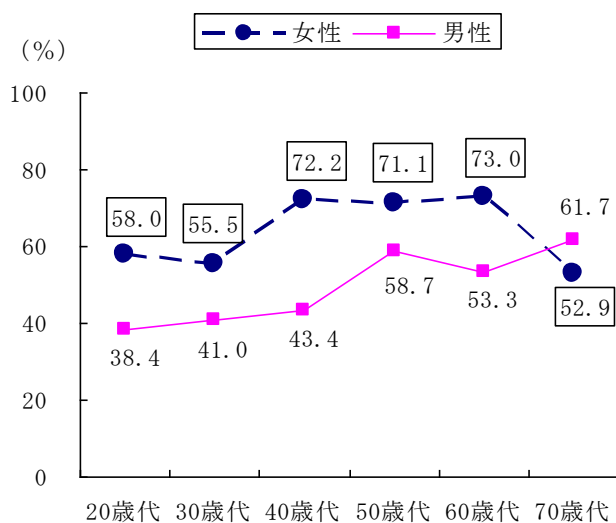
【参考 前回調査】

図 男女の地位の平等感



性別・年齢層別

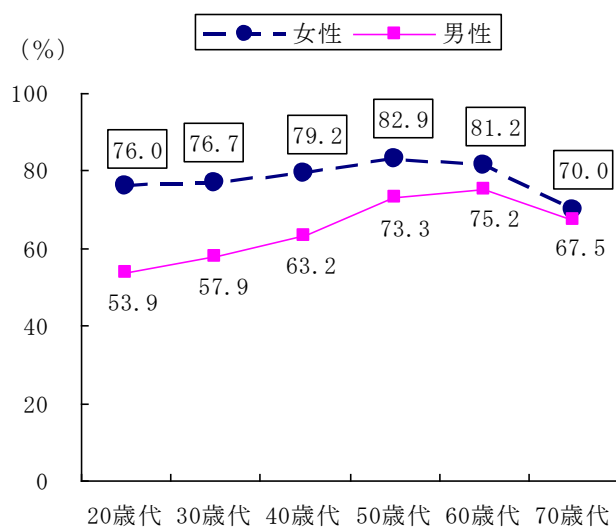
図3-9 性別・年齢層別 男女の地位の平等「男性が優遇されている」と思っている割合
《家庭生活では》



女性では、40～60 歳代で 70%を超えている。

男性では、若年層よりも 50 歳代以上の割合が高くなっている。

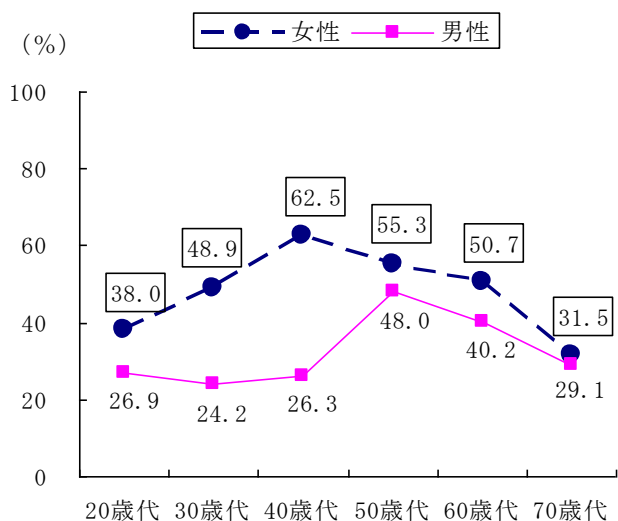
図3-10 性別・年齢層別 男女の地位の平等「男性が優遇されている」と思っている割合
《職場では》



女性では、年齢層ではほとんど差はないものの、50 歳代で 82.9%と最も高くなっている。

男性では、60 歳代をピークに、年齢層が高いほど割合も高くなっており、20 歳代で最も低く 53.9%、最も高い 60 歳代の 75.2%では、21.3 ポイントの差がある。

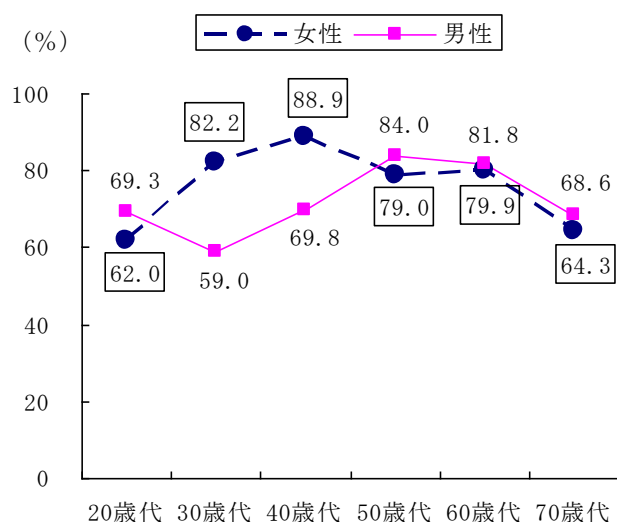
図3-11 性別・年齢層別 男女の地位の平等「男性が優遇されている」と思っている割合
《地域では》



女性では、40 歳代で最も高く 62.5%で、曲線は山型を示している。20 歳代の 38.0%と 40 歳代では 24.5 ポイントの差がある。

男性の場合は、50 歳代 48.0%、60 歳代 40.2%で高い割合であるが、その他の年齢層では 20%台となっている。

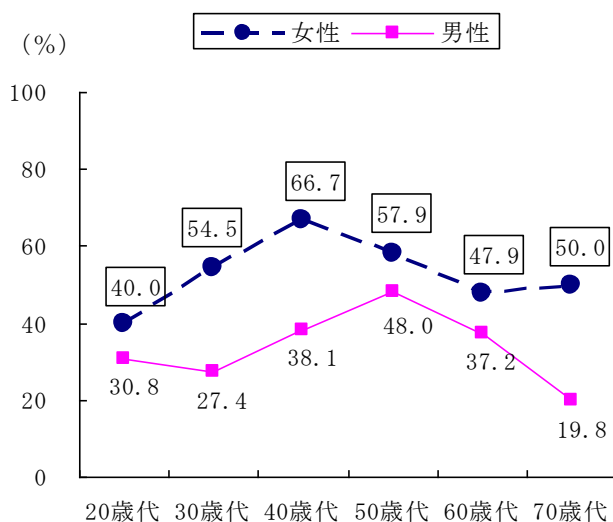
図3-12 性別・年齢層別 男女の地位の平等「男性が優遇されている」と思っている割合
《社会通念・慣習・しきたりでは》



女性の場合は 40 歳代 (88.9%) をピークに曲線は山型を示している。20 歳代の 62.0%と 40 歳代では 26.9 ポイントの差がある。

男性の場合は、50、60 歳代が高く 80%を超えている。一番低いのは 30 歳代で 59.0%である。

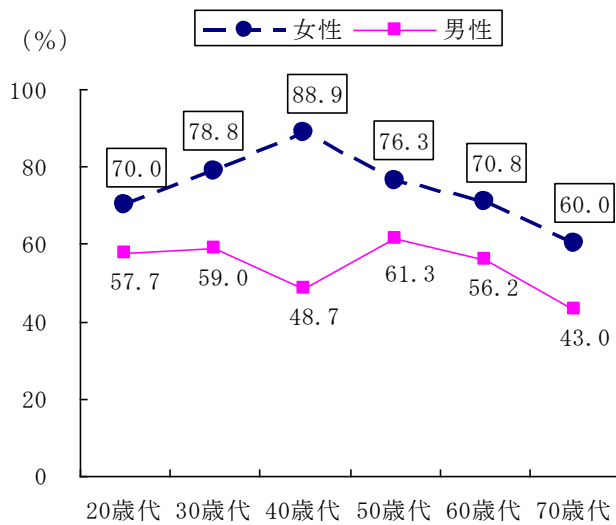
図3-13 性別・年齢層別 男女の地位の平等「男性が優遇されている」と思っている割合
《法律や制度の上では》



他の分野と同様に、女性の場合は 40 歳代 (66.7%) をピークに曲線は山型を示している。20 歳代の 40.0%と 40 歳代では 26.7 ポイントの差がある。

男性の場合は、50 歳代が高く 48.0%。それをピークに曲線は山型を示している。一番低いのは 70 歳代で 19.8%である。

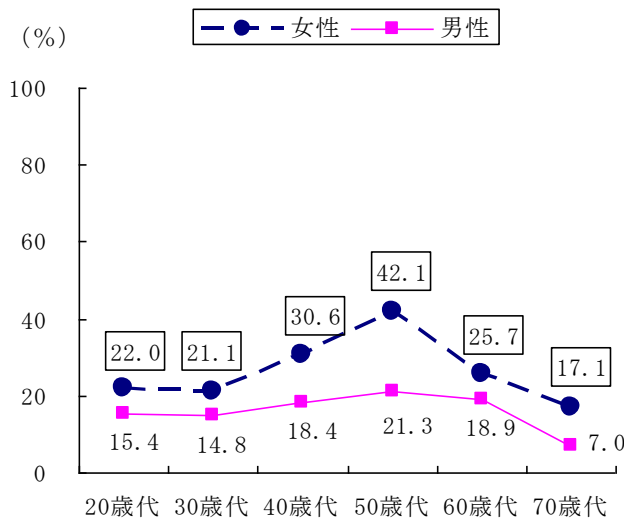
図3-14 性別・年齢層別 男女の地位の平等「男性が優遇されている」と思っている割合
《政治・行政の場では》



前ページまでの分野と同様に、女性の場合は40歳代(88.9%)をピークに曲線は山型を示している。70歳代の60.0%と40歳代では28.9ポイントの差がある。

男性の場合は、20、30、50、60歳代が同じような選択率で高く、40、70歳代では若干低くなっている。

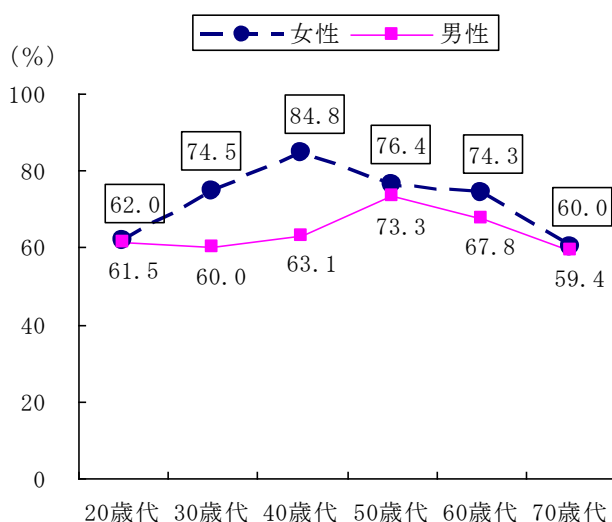
図3-15 性別・年齢層別 男女の地位の平等「男性が優遇されている」と思っている割合
《学校教育の場では》



女性の場合は50歳代(42.1%)をピークに曲線は山型を示している。70歳代の17.1%と50歳代では25.0ポイントの差がある。

男性の場合は、70歳代が若干低いものの、年齢層による違いは小さい。

図3-16 性別・年齢層別 男女の地位の平等「男性が優遇されている」と思っている割合
《社会全般として》



女性の場合は40歳代(84.8%)をピークに曲線は山型を示している。70歳代の60.0%と40歳代では24.8ポイントの差がある。

男性の場合は、50歳代で最も高く73.3%であるものの、年齢層間での差は小さく、最も低い70歳代の59.4%と13.9ポイントの差である。

4. 生活や健康について

問 17 あなたは、平日の 24 時間をどのように過ごしていますか。アンケート記載日に近い日について、①～⑨の各項目に費やした時間をご記入ください。

表4－1 平日の生活時間

	女 性	男 性
① 睡眠	6時間36分	6時間48分
② 食事、入浴等生理的に必要な時間	2時間24分	2時間00分
③ 仕事あるいは学業	6時間36分	9時間06分
④ 通勤あるいは通学	1時間24分	1時間36分
⑤ 家事	3時間48分	1時間48分
⑥ 子どもの世話	3時間42分	1時間18分
⑦ 高齢者の世話	2時間06分	1時間42分
⑧ 余暇、自由時間	4時間48分	5時間18分
⑨ その他	4時間12分	4時間54分

■ 「仕事あるいは学業」「余暇、自由時間」は男性が長く、家事・育児・介護は女性が長い

この項目の数字は、項目ごとに回答者 1 人ひとりの時間平均値を出したため、合計すると 24 時間を超えていることを考慮する必要がある。

性別で比較すると、時間に関きがあるのは、「仕事あるいは学業」（女性 6 時間 36 分・男性 9 時間 06 分）、「家事」（女性 3 時間 48 分・男性 1 時間 48 分）である。

性別・年齢層別

表4-2 性別・年齢層別 平日の生活時間

		対象者数 (人)	①睡眠	②食事、入浴等 生理的に必要な時間	③仕事あるいは学業	④通勤あるいは通学	⑤家事	⑥子どもの世話	⑦高齢者の世話	⑧余暇、自由時間	⑨その他
女性	20 歳代	50	6:42	2:24	8:00	1:42	2:12	6:12	0:24	3:18	4:24
	30 歳代	90	6:30	2:06	7:06	1:18	3:54	5:06	1:00	3:30	3:24
	40 歳代	72	6:24	2:24	6:48	1:24	3:18	2:42	1:06	3:48	2:42
	50 歳代	76	6:06	2:24	6:54	1:48	3:48	2:06	2:30	4:36	3:24
	60 歳代	144	6:48	2:30	5:30	1:00	4:12	2:00	2:18	5:54	4:00
	70 歳代	70	6:54	2:42	3:24	0:42	4:06	2:24	6:42	6:24	6:36
男性	20 歳代	26	6:30	1:48	8:54	1:06	0:42	1:42	0:12	4:42	3:06
	30 歳代	95	6:24	1:48	10:06	1:36	1:00	1:18	0:06	2:54	4:06
	40 歳代	76	6:24	1:42	10:24	1:48	1:24	1:30	3:30	3:06	4:00
	50 歳代	75	6:48	2:00	9:30	1:30	2:00	0:36	1:42	4:06	3:42
	60 歳代	137	7:06	2:18	7:18	1:30	1:54	1:12	2:00	7:06	5:18
	70 歳代	86	7:30	2:18	6:00	1:18	2:18	0:00	5:18	8:12	5:18

※①～⑨は無回答を除いた平均値

(単位は時間：分)

「睡眠時間」が最も短いのは、女性では 50 歳代で 6 時間 6 分、男性では、30、40 歳代で 6 時間 24 分である。

「仕事あるいは学業」時間の最も長いのは、女性では 20 歳代で 8 時間、男性では、40 歳代で 10 時間 24 分である。男性は 30 歳代でも 10 時間 06 分と長時間である。

「家事」時間で最も長いのは、女性では 60 歳代で 4 時間 12 分。

男性では 70 歳代で 2 時間 18 分が一番長く、20 歳代では 42 分である。「仕事あるいは学業」時間の長い 30、40 歳代の男性は、「家事」時間は、30 歳代で 1 時間、40 歳代で 1 時間 24 分である。

「子どもの世話」時間は、女性の 20 歳代で 6 時間 12 分、30 歳代で 5 時間 06 分となっている。

「高齢者の世話」時間は、男女ともに 70 歳代が長く、女性は 6 時間 42 分、男性は 5 時間 18 分である。

性別・職業別

表4-3 性別・職業別 平日の生活時間

		対象者数 (人)	①睡眠	②食事、入浴等 生理的に必要な時間	③仕事あるいは学業	④通勤あるいは通学	⑤家事	⑥子どもの世話	⑦高齢者の世話	⑧余暇、自由時間	⑨その他
女性	自営業	12	6:30	2:12	6:54	0:42	2:30	0:42	0:30	4:30	4:18
	正社員・正職員	76	6:18	2:18	9:00	1:36	1:48	1:48	1:24	2:54	1:36
	パート・アルバイト	108	6:36	2:12	5:54	1:06	3:12	2:18	1:18	3:36	2:36
	専業主婦	157	6:42	2:36	2:24	0:48	5:06	5:24	3:54	5:18	3:54
男性	自営業	38	6:54	1:54	9:24	1:48	1:06	0:48	0:00	4:06	5:00
	正社員・正職員	179	6:24	1:48	9:48	1:36	1:06	1:24	0:36	3:00	3:06
	パート・アルバイト	25	7:12	1:48	7:18	1:24	1:36	0:00	0:00	5:06	4:12

※①～⑨は無回答を除いた平均値

(単位は時間:分)

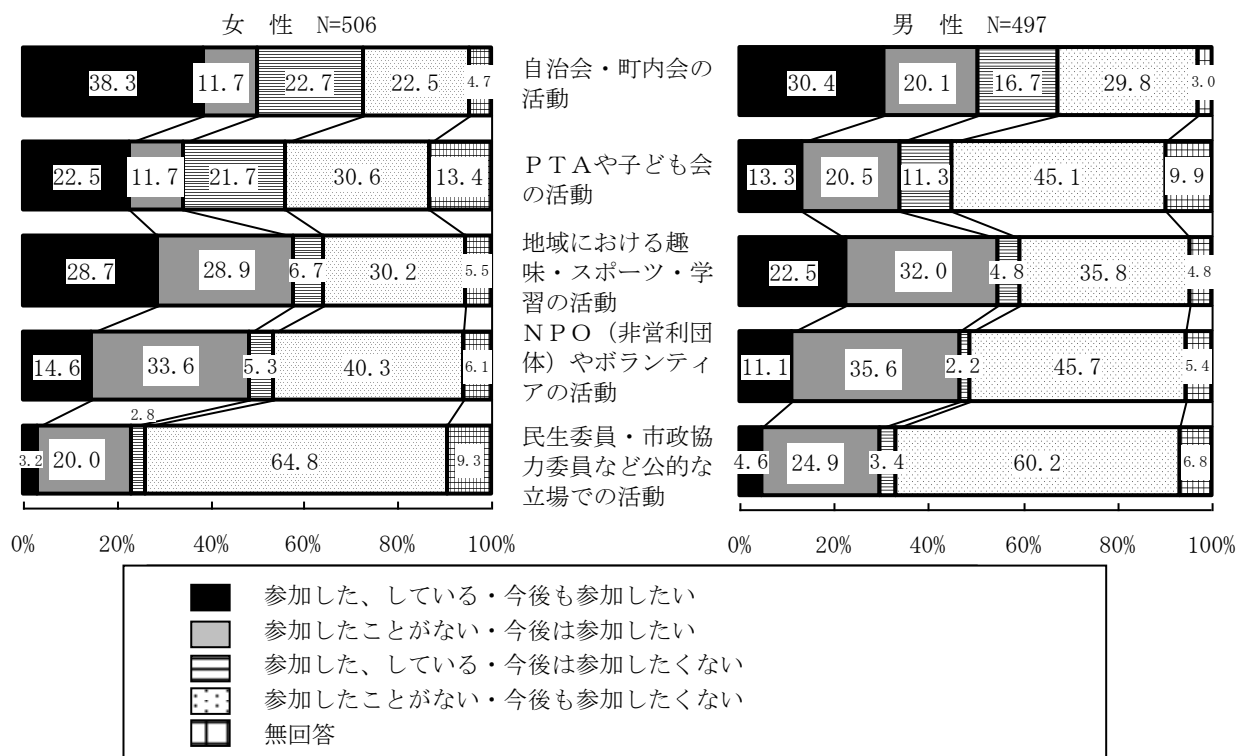
職業別でみると、女性の場合は、「専業主婦」が「仕事あるいは学業」「通勤あるいは通学」「その他」を除いた項目で長くなっており、「家事」は5時間06分、「子どもの世話」は5時間24分、「高齢者の世話」3時間54分である。「正社員・正職員」では「仕事あるいは学業」の時間が9時間00分である。

男性の場合は、「正社員・正職員」で「仕事あるいは学業」の時間が最も長く9時間48分であるが、「自営業」でも9時間24分である。

「家事」は「パート・アルバイト」で最も長く1時間36分。「子どもの世話」、「高齢者の世話」は「正社員・正職員」で長く、それぞれ1時間24分、36分である。

問 18 次の地域活動について、あなたの参加状況に近いものに○印をつけてください。
(○は各項目にそれぞれ1つ)

図4-1 地域活動への参加状況



■男性の方が地域活動への今後の参加意向がやや高い

地域活動への参加の状況をみると、女性の場合は、「自治会・町内会の活動」「P T Aや子ども会の活動」「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」、男性の場合は、「自治会・町内会の活動」「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」の「参加した、している・今後も参加したい」が20%を超えている。

「参加したことがない・今後は参加したい」とする意向は、女性の場合は、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」「N P O（非営利団体）やボランティアの活動」で30%前後となっている。よって、男女ともに、「自治会・町内会の活動」「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」への“今後の参加意向”（「参加している・今後も参加したい」＋「参加したことがない・今後は参加したい」）が50%を超えている。

男性の場合は、「参加したことがない・今後は参加したい」とする意向は、すべての項目で20%を超えており、女性よりも男性の割合が高くなっている。特に「N P O（非営利団体）やボランティアの活動」は35.6%である。

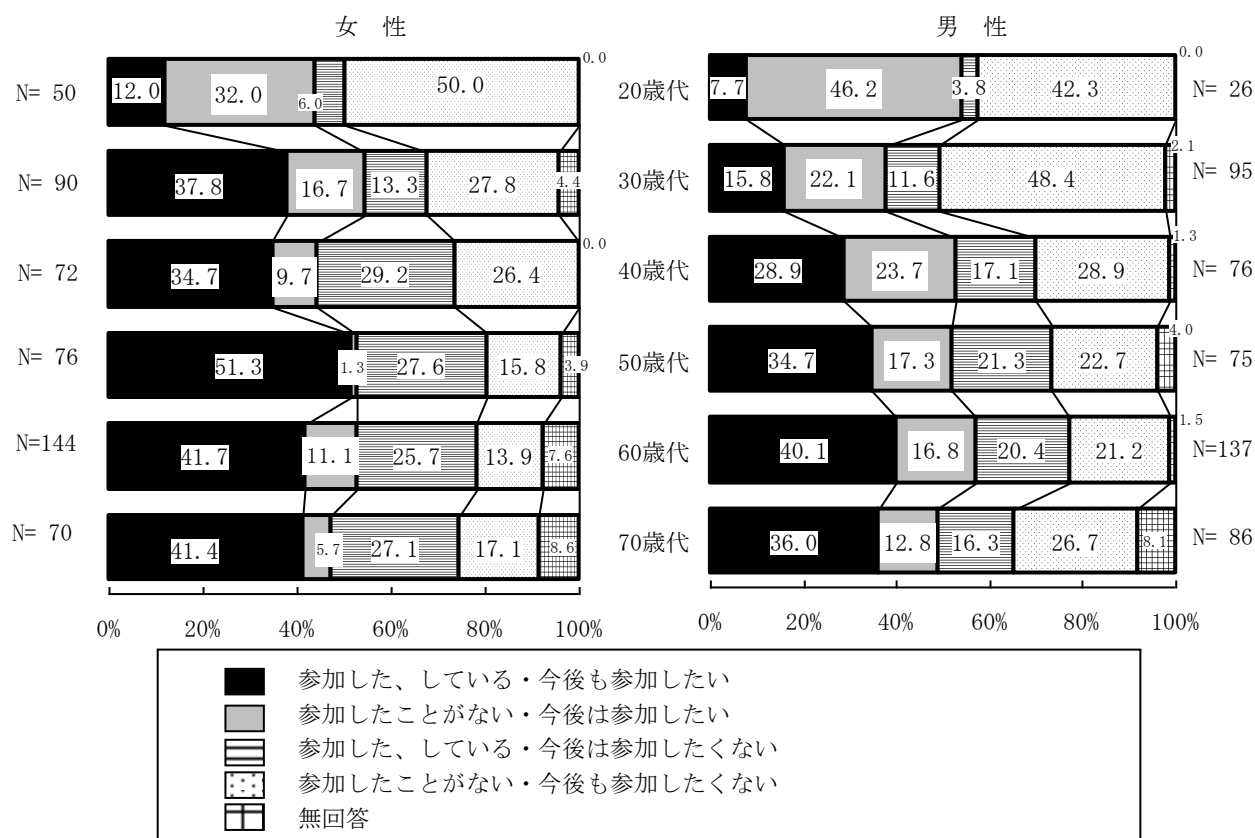
反面、「P T Aや子ども会の活動」「N P O（非営利団体）やボランティアの活動」に「参加したことがない・今後も参加したくない」の割合が半数弱と高く、二極化がうかがえる。

「民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動」については、男女ともに60%以上が「参加したことがない・今後も参加したくない」としている。

性別・年齢層別

①自治会・町内会の活動

図4-2 性別・年齢層別 地域活動への参加状況 《自治会・町内会の活動》



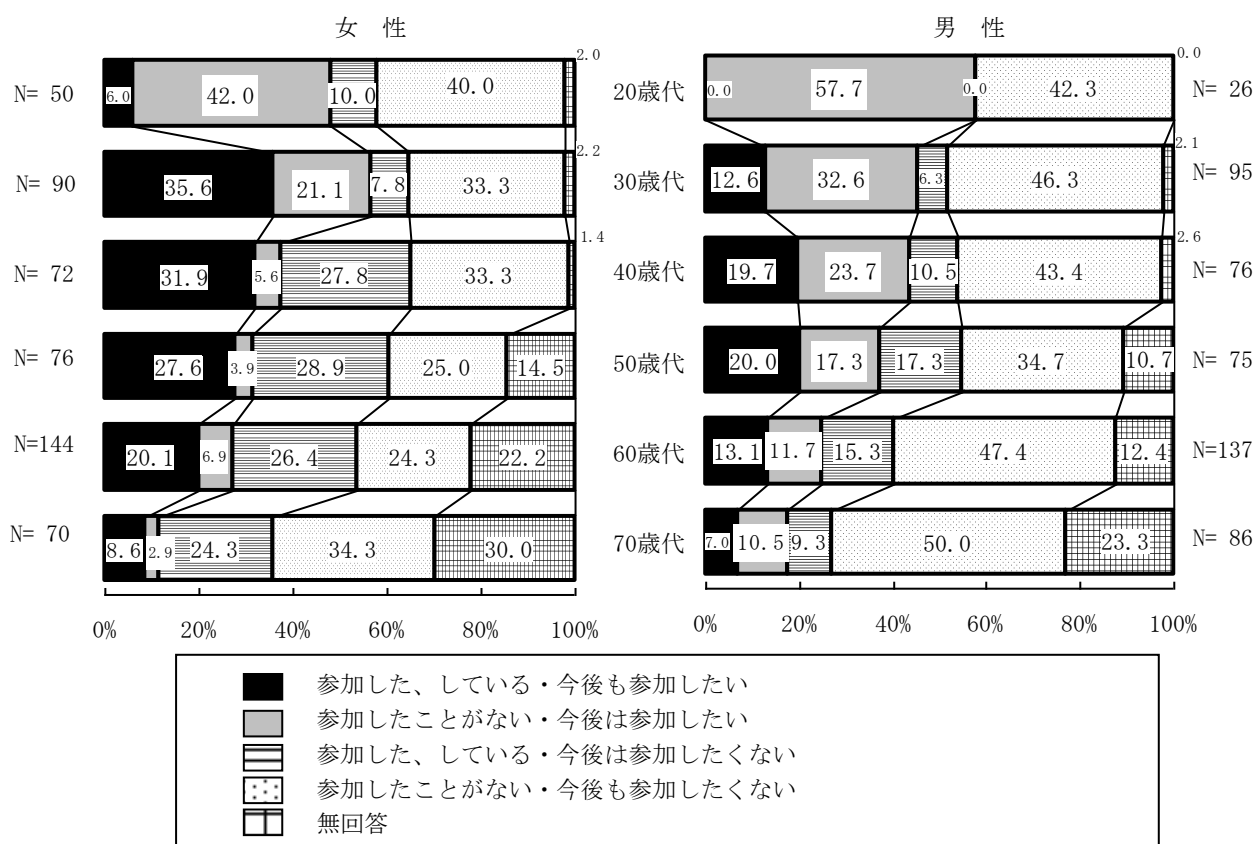
女性の場合、50歳代で「参加した、している・今後も参加したい」(51.3%)の割合が最も高く、2人に1人が選んでいる。ついで、60、70歳代が40%台、30、40歳代は30%台であるのに対して、20歳代では12.0%と低くなっている。しかし、「参加したことがない・今後は参加したい」の割合は20歳代が最も高く32.0%、ついで30歳代の16.7%が高い。

“今後の参加意向”(「参加している・今後も参加したい」+「参加したことがない・今後は参加したい」)の最も高いのは30歳代で54.5%、最も低いのは20歳代で44.0%であるものの、年齢層間で大きな差はない。

男性の場合、60歳代をピークに年齢層が高いほど、「参加した、している・今後も参加したい」の割合も高くなっている。20歳代では「参加したことがない・今後は参加したい」の割合が最も高く、46.2%である。今後の“参加意向”をみると、60歳代で最も高く56.9%、最も低いのは30歳代で37.9%である。

② P T A や子ども会の活動

図4-3 性別・年齢層別 地域活動への参加状況 《PTAや子ども会の活動》



女性の場合、子育て世代を中心に 30、40、50 歳代で「参加している・今後も参加したい」の割合が高く、30 歳代では、「参加したことがない・今後は参加したい」の割合も 21.1%と高く、“今後の参加意向”は 56.7%と一番高くなっている。

20 歳代では、これまで参加したことがないとするグループで、「今後は参加したい」と「今後も参加したくない」の割合が拮抗している。

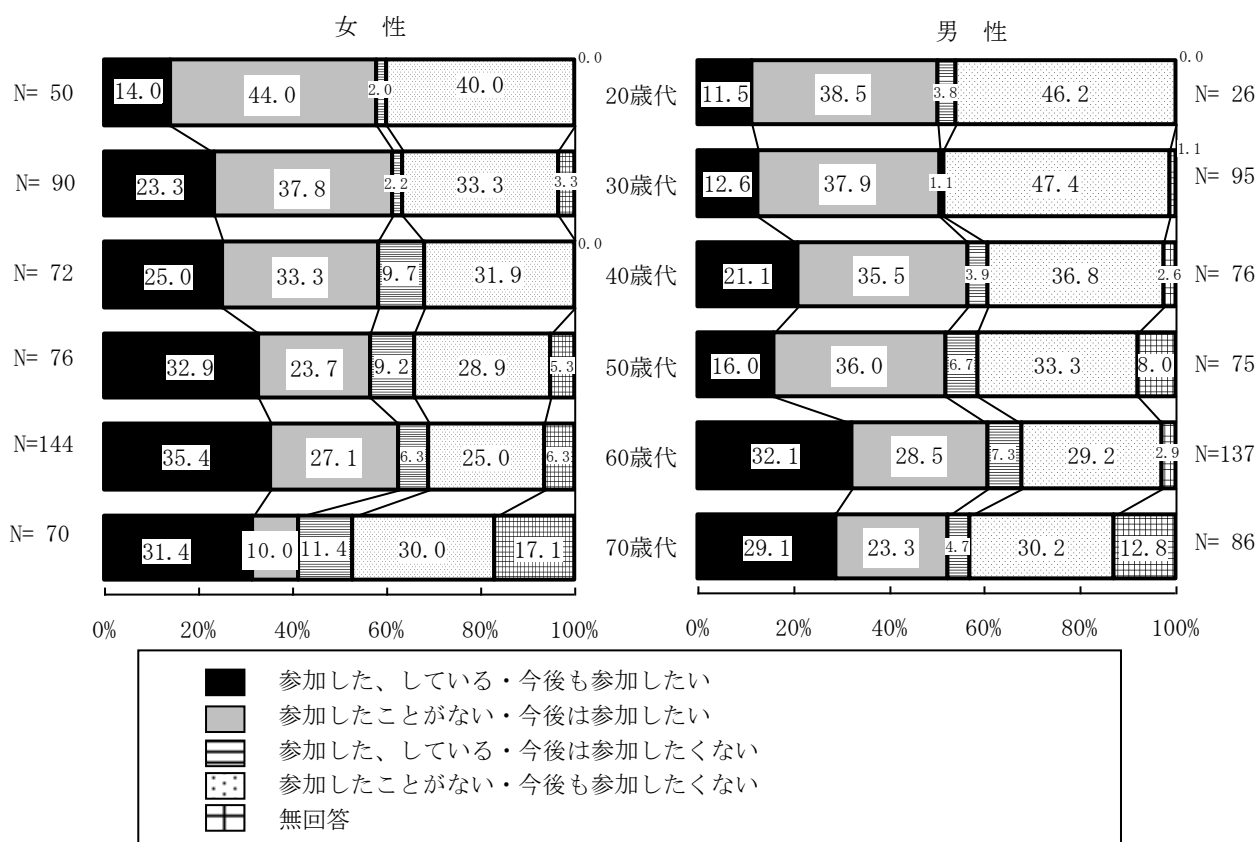
年齢層が高いほど、無回答の率も高くなっているのは「PTAや子ども会」の活動に縁がなくなっていることが推測できる。

男性の場合は、40、50 歳代で「参加している・今後も参加したい」の割合が高くなっている。また、30 歳代では、「参加したことがない・今後は参加したい」の割合が 32.6%である。

“今後の参加意向”は、年齢層が低い層ほど高くなっている。

③地域における趣味・スポーツ・学習の活動

図4-4 性別・年齢層別 地域活動への参加状況 《地域における趣味・スポーツ・学習の活動》



女性の場合、50 歳代以上の年齢層で「参加している・今後も参加したい」の割合が 30%を超えている。

「参加したことがない・今後は参加したい」の割合は、20 歳代の 44.0%をピークに年齢層が低い層ほど高くなっている。

反面、「参加したことがない・今後も参加したくない」の割合も年齢層が低い層ほど高くなっている（70 歳代はのぞく）。

“今後の参加意向”は、60 歳代で最も高くなっており、62.5%である。

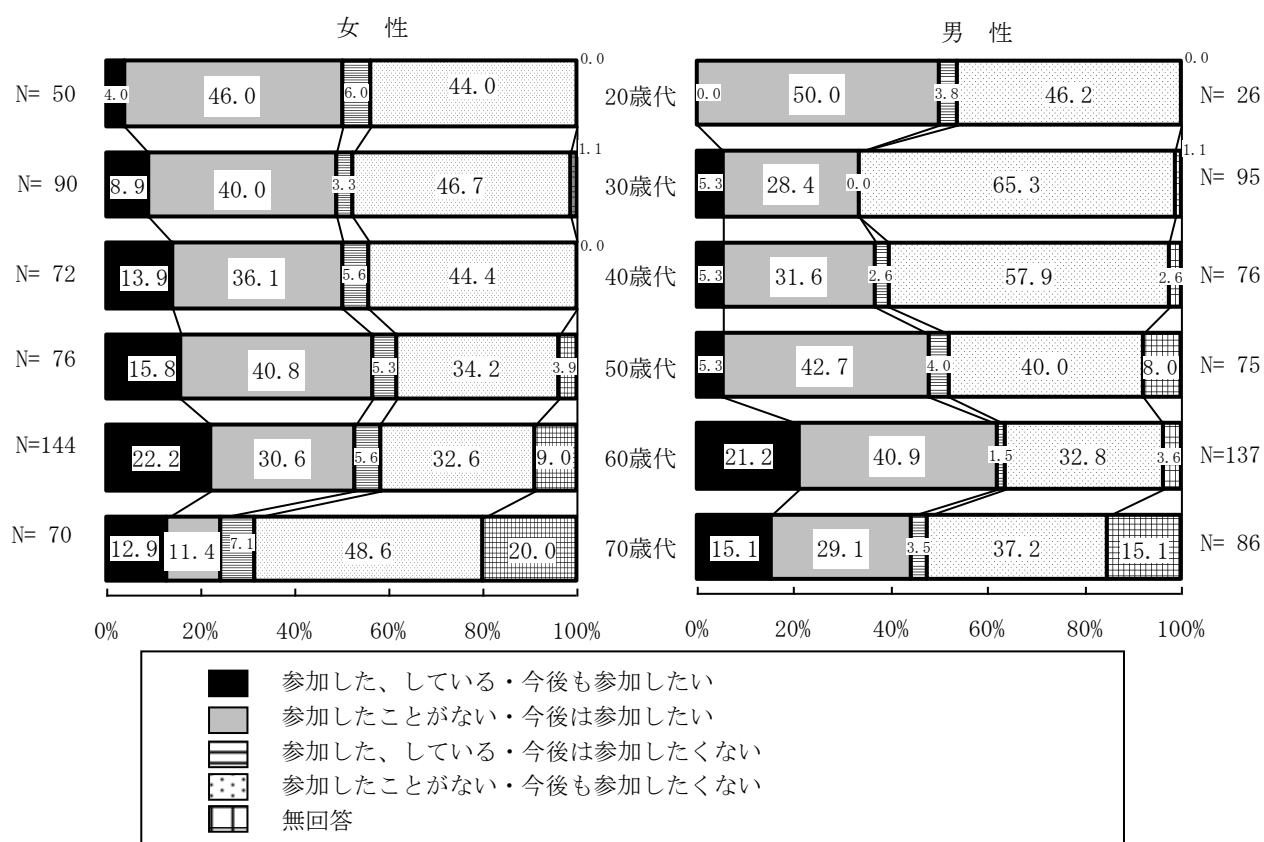
男性の場合は、60 歳代で「参加している・今後も参加したい」の割合が最も高く、32.1%である。

「参加したことがない・今後は参加したい」の割合は、20～50 歳代で高く、35%を超えている。反面、「参加したことがない・今後も参加したくない」の割合は年齢層が低い層ほど高くなっている。

“今後の参加意向”は 40、60 歳代で高く、それぞれ 56.6%、60.6%である。

④NPO（非営利団体）やボランティアの活動

図4－5 性別・年齢層別 地域活動への参加状況 《NPO(非営利団体)やボランティアの活動》



女性の場合、70歳代を除くと、年齢層の高いほど「参加している・今後も参加したい」の割合が高くなっており、60歳代で22.2%であるが、一番低い20歳代では4.0%である。

「参加したことがない・今後は参加したい」の割合は、20、30歳代で高くそれぞれ46.0%と40.0%であり、“今後の参加意向”は、70歳代は別にすればほとんど差はないものの、50歳代が少し高く56.6%である。

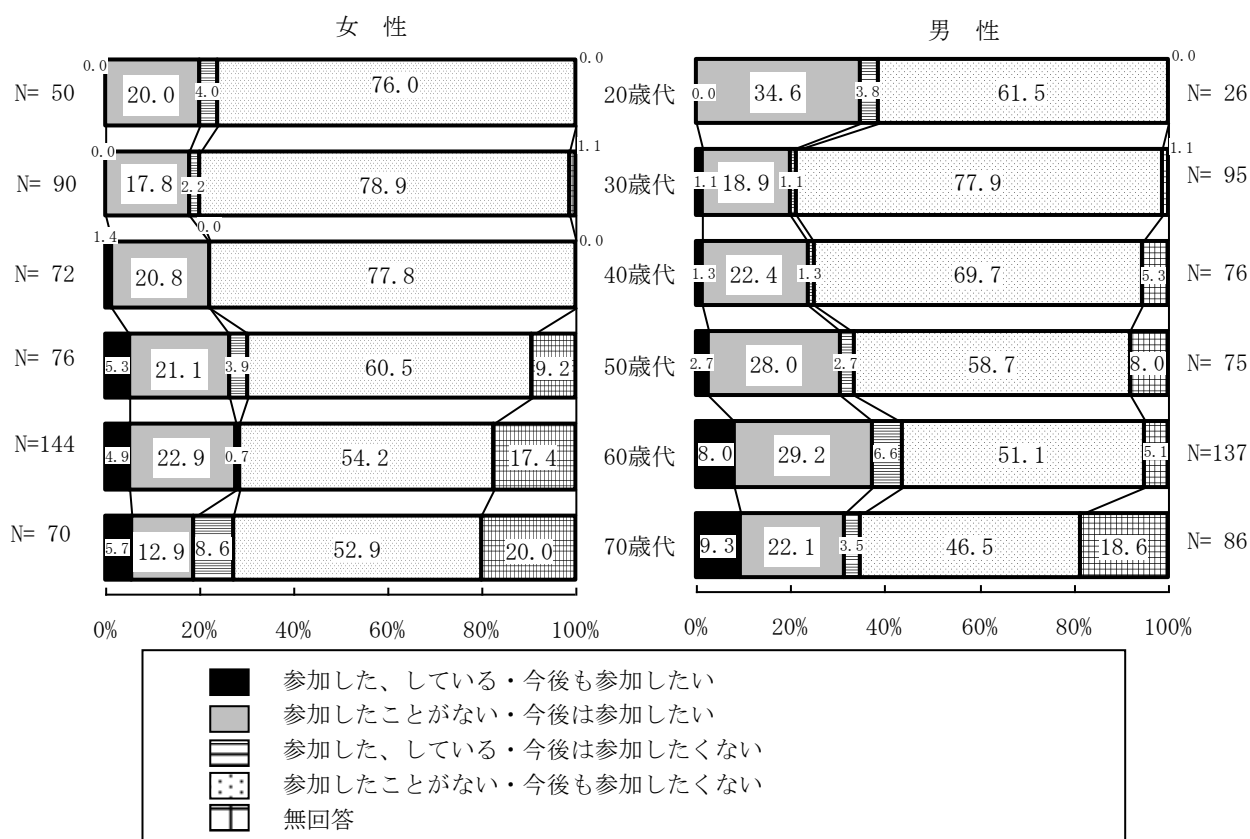
男性の場合は、60歳代で「参加している・今後も参加したい」の割合が最も高く、21.2%である。

「参加したことがない・今後は参加したい」の割合は、20、50、60歳代で高く、40%を超えている。反面、「参加したことがない・今後とも参加したくない」の割合は年齢層が低い層ほど高くなっている。

“今後の参加意向”は、30、40歳代で低く、それぞれ33.7%、36.9%。一方、高いのは60歳代で62.1%である。

⑤民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動

図4-6 性別・年齢層別 地域活動への参加状況 《民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動》



女性の場合、50～70 歳代で「参加している・今後も参加したい」の割合が5 %前後であるものの、それ以前の年齢層ではほとんどないに等しい。

「参加したことがない・今後は参加したい」の割合は、70 歳代を除く他の年齢層でそれぞれ20 %前後である。

“参加したくない”（「参加している・今後は参加したくない」＋「参加したことがない・今後も参加したくない」）が一番高いのは30 歳代で81.1%に上り、20、40 歳代でも同様の傾向である。

男性の場合は、60、70 歳代で「参加している・今後も参加したい」の割合が年齢層の中では高く、それぞれ8.0%、9.3%。

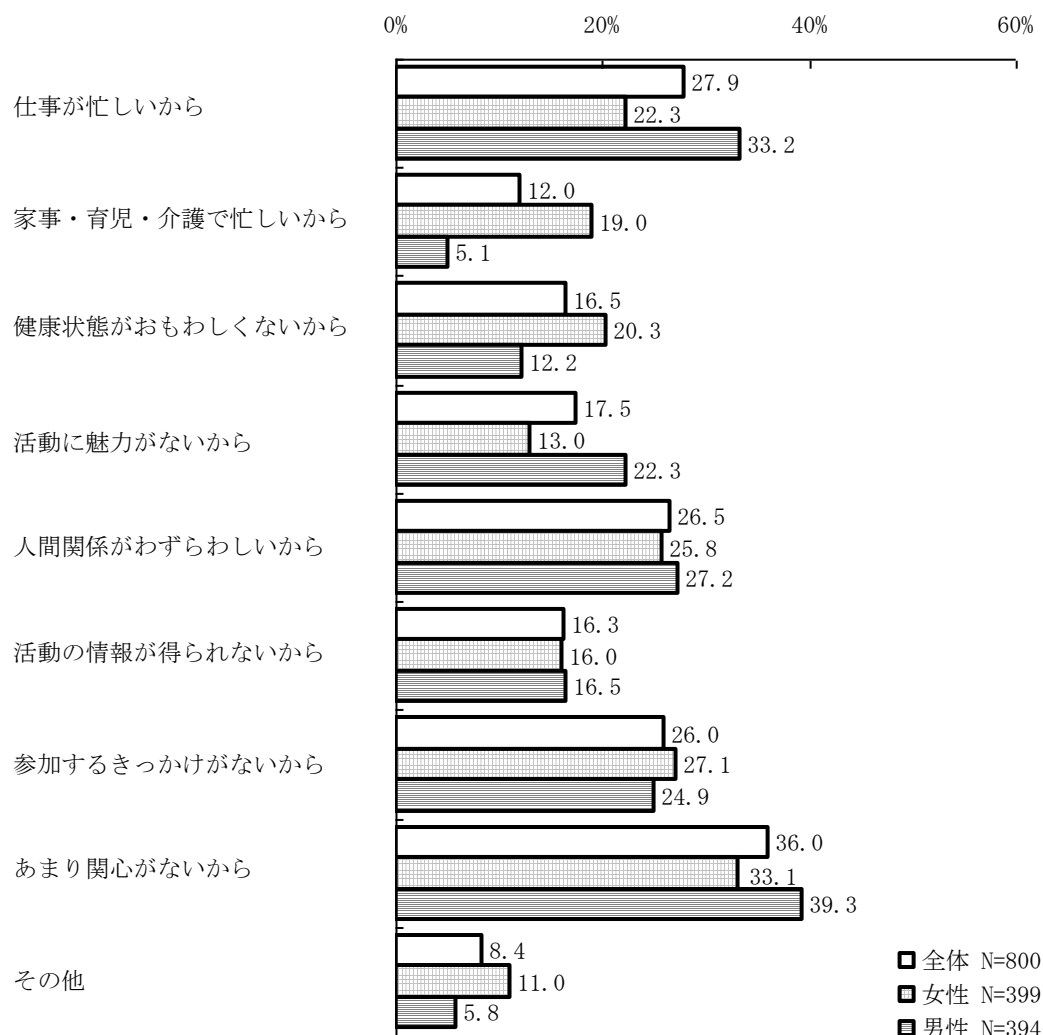
「参加したことがない・今後は参加したい」の割合は、20 歳代で高く、34.6%となっている。

“参加したくない”が一番高いのは女性同様に30 歳代で79.0%、ついで40 歳代でも71.0%である。

「今後は（も）参加したくない」と答えられた方におたずねします。

問 18－1 それはどうしてですか。（〇はいくつでも）

図4－7 地域活動に参加したくない理由



■地域活動に参加したくない理由は「あまり関心がないから」が第1位

地域活動に今後参加したくない理由を性別でみると、女性の場合は、高い割合の方から「あまり関心がないから」（33.1%）、「参加するきっかけがないから」（27.1%）、「人間関係がわずらわしいから」（25.8%）の順である。

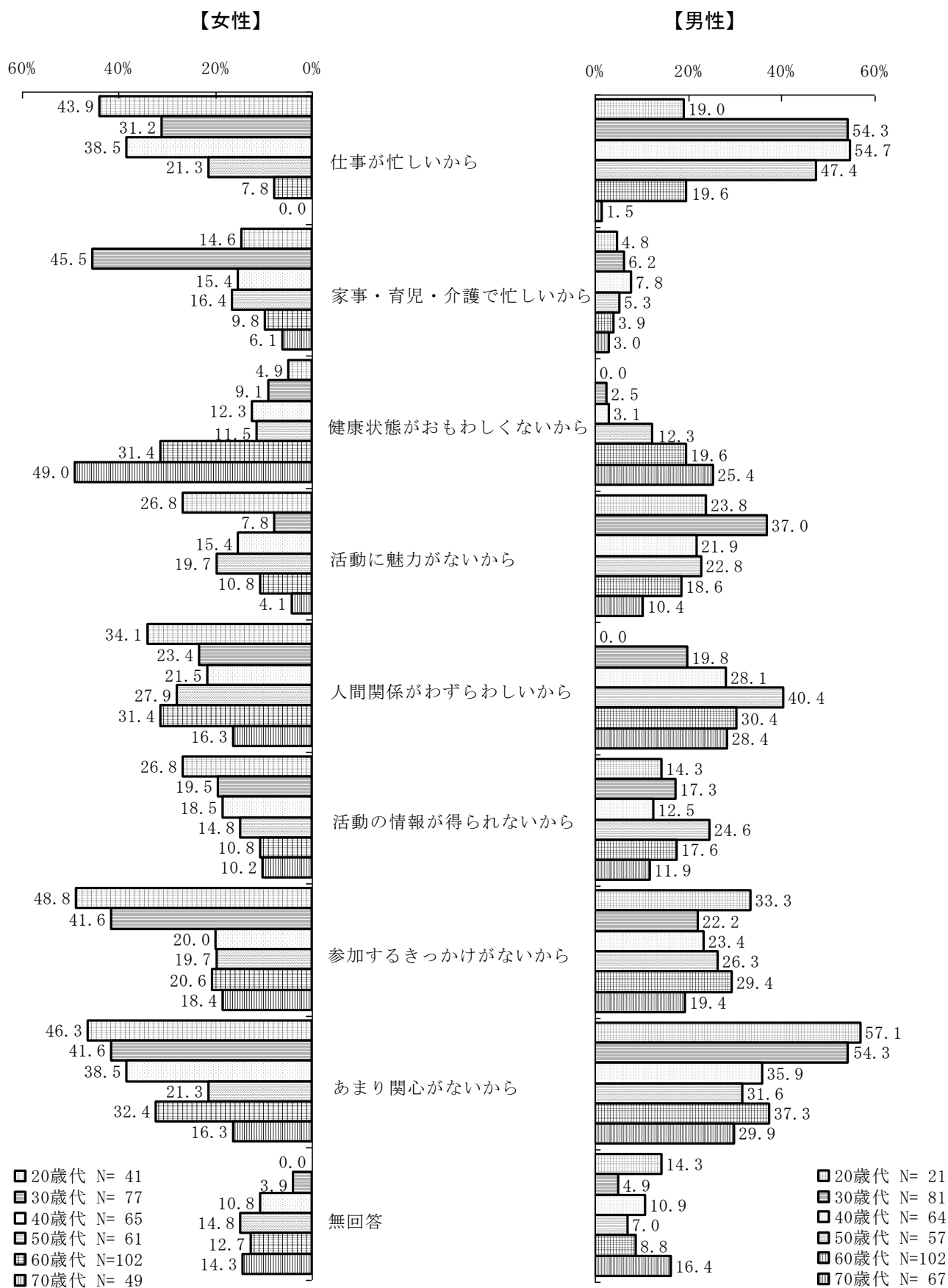
男性の場合は、「あまり関心がないから」（39.3%）、「仕事が忙しいから」（33.2%）、「人間関係がわずらわしいから」（27.2%）の順である。

男女ともに「あまり関心がないから」の割合が高くなっている。

男女で比較すると、「仕事が忙しいから」（女性 22.3%・男性 33.2%）、「家事・育児・介護で忙しいから」（女性 19.0%・男性 5.1%）、「活動に魅力がないから」（女性 13.0%・男性 22.3%）において、両者の選択率に開きがある。

性別・年齢層別

図4-8 性別・年齢層別 地域活動に参加したくない理由



地域活動に今後参加したくない理由を性別・年齢層別でみると、年齢層によって理由の違いが大きいことがわかる。

女性の場合、20 歳代では、「参加するきっかけがないから」(48.8%)、「あまり関心がないから」(46.3%)、「仕事が忙しいから」(43.9%)、「人間関係がわずらわしいから」(34.1%)、「活動に魅力がないから」(26.8%)、「活動の情報が得られないから」(26.8%) で、年齢層間で第1位の選択率であり、理由は多岐にわたる。

30 歳代では、「家事・育児・介護で忙しいから」(45.5%) で、年齢層間で1位である。

70 歳代では、「健康状態がおもわしくないから」(49.0%) で、年齢層間で1位である。

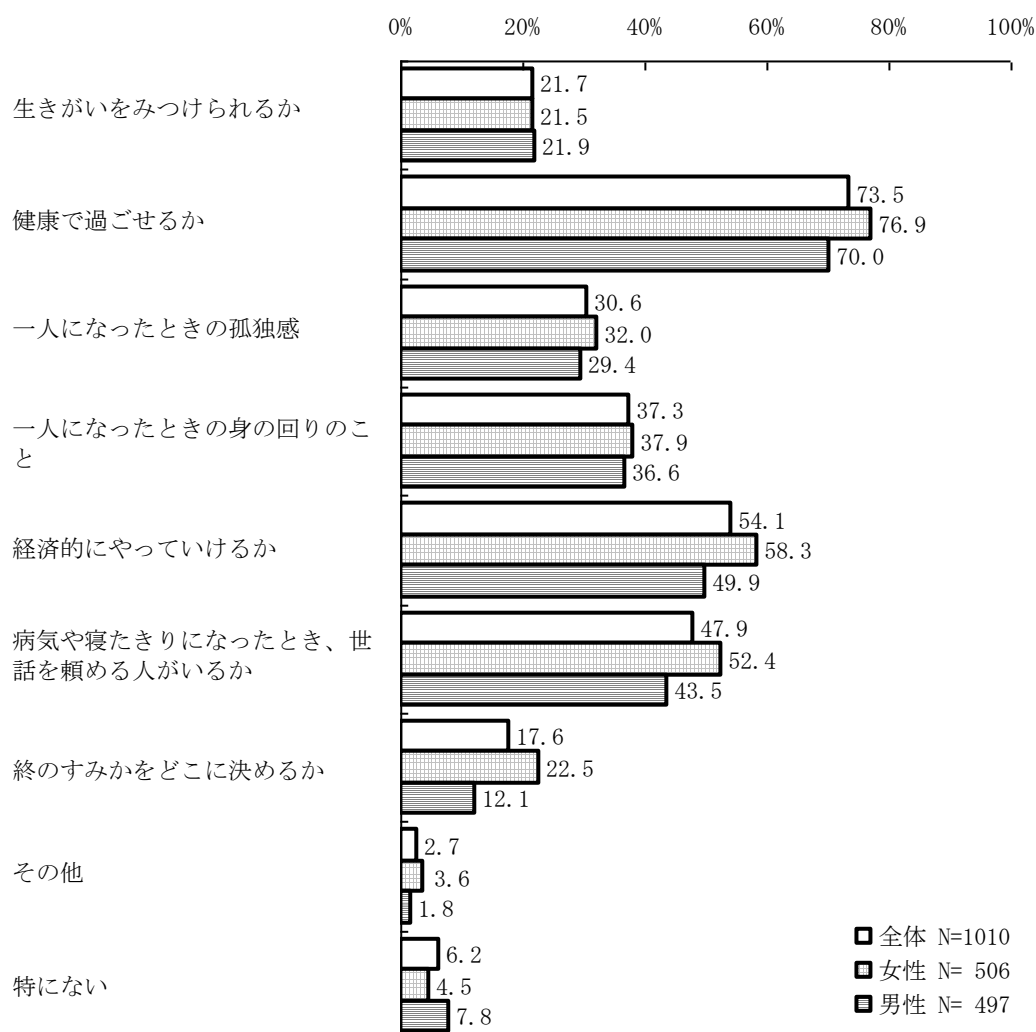
男性の場合は、30、40 歳代で「仕事が忙しいから」の選択率が高くともに50%を超えている。

その他に、20 歳代では「あまり関心がないから」(57.1%)、30 歳代では、「活動に魅力がないから」(37.0%) が年齢層間で高い割合となっている。

50 歳代では、「人間関係がわずらわしいから」(40.4%)、「活動の情報が得られないから」(24.6%) が年齢層間で高い割合となっている。

問 19 高齢期の生活について、どんな悩みや不安がありますか。(〇はいくつでも)

図4-9 高齢期の生活に関する悩みや不安



■高齢期の生活の最大の悩み・不安は「健康」

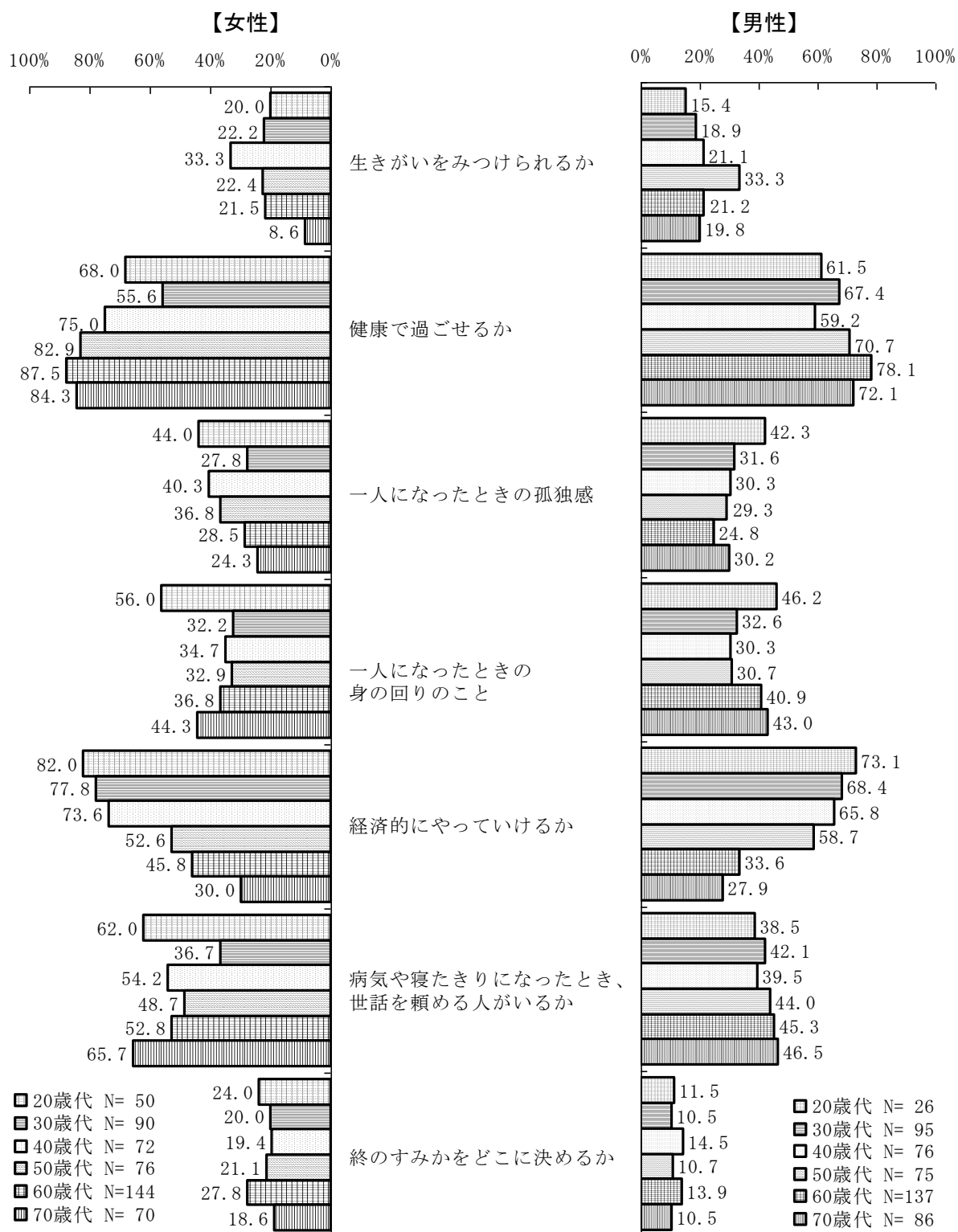
高齢期の悩みや不安をたずねたところ、男女でほぼ同様の結果となった。

「特にない」の割合は女性 4.5%・男性 7.8%と 10%をきっており、ほとんどが何らかの悩み・不安をもっていることがうかがえる。

選択率の高い順にみると、第1位は「健康で過ごせるか」(女性 76.9%・男性 70.0%)、ついで「経済的にやっていけるか」(女性 58.3%・男性 49.9%)、「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」(女性 52.4%・男性 43.5%)と続く。

男女で選択率に 10%以上の開きがあるのは「終のすみかをどこに決めるか」(女性 22.5%・男性 12.1%)で 10.4 ポイントほど女性が高くなっている。

図4-10 性別・年齢層別 高齢期の生活に関する悩みや不安



女性の場合、20歳代では、「一人になったときの孤独感」(44.0%)、「一人になったときの身の回りのこと」(56.0%)、「経済的にやっていけるか」(82.0%)で、年齢層間で最も高い割合である。60歳代では、「健康で過ごせるか」が87.5%と最も高くなっている。70歳代では、「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」(65.7%)で最も高い。

「経済的にやっていけるか」については、年齢層が低いほど選択率は高く、最も高い20歳(82.0%)と最も低い70歳代では52ポイントの開きがある。

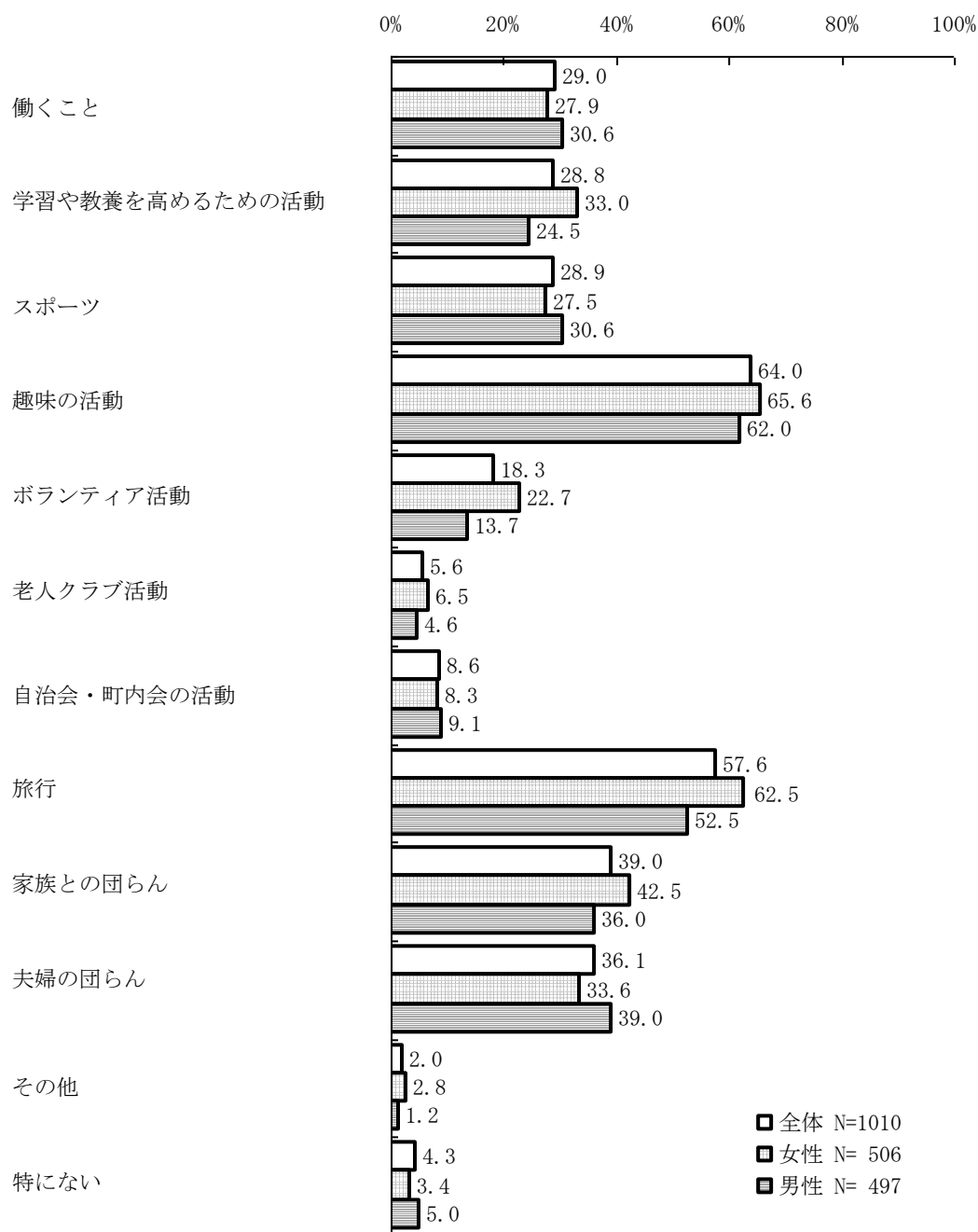
男性の場合は、20歳代、40歳代では、「健康で過ごせるか」の割合が他の年齢層よりも若干低い。

50歳代では「生きがいを見つけられるか」で10ポイント以上他の年齢層よりも高い。

「経済的にやっていけるか」においては、女性と同様に、年齢層が低いほど選択率は高く、最も高い20歳代(73.1%)と最も低い70歳代では45.2ポイントの開きがある。

問 20 高齢期を生き生きと送るためにやってみたいことがありますか。（高齢者の方は、現在行っていることで生きがいを感じるものに○をつけてください。）（○はいくつでも）

図4-11 性別・年齢層別 高齢期にやってみたいこと



■高齢期にやってみたいことは「趣味の活動」と「旅行」

高齢期にやってみたいことにおいても、男女でほぼ同様の結果となった。

「特にない」の割合は女性 3.4%・男性 5.0%で、ほぼ全員がやってみたいことを有していることがわかる。

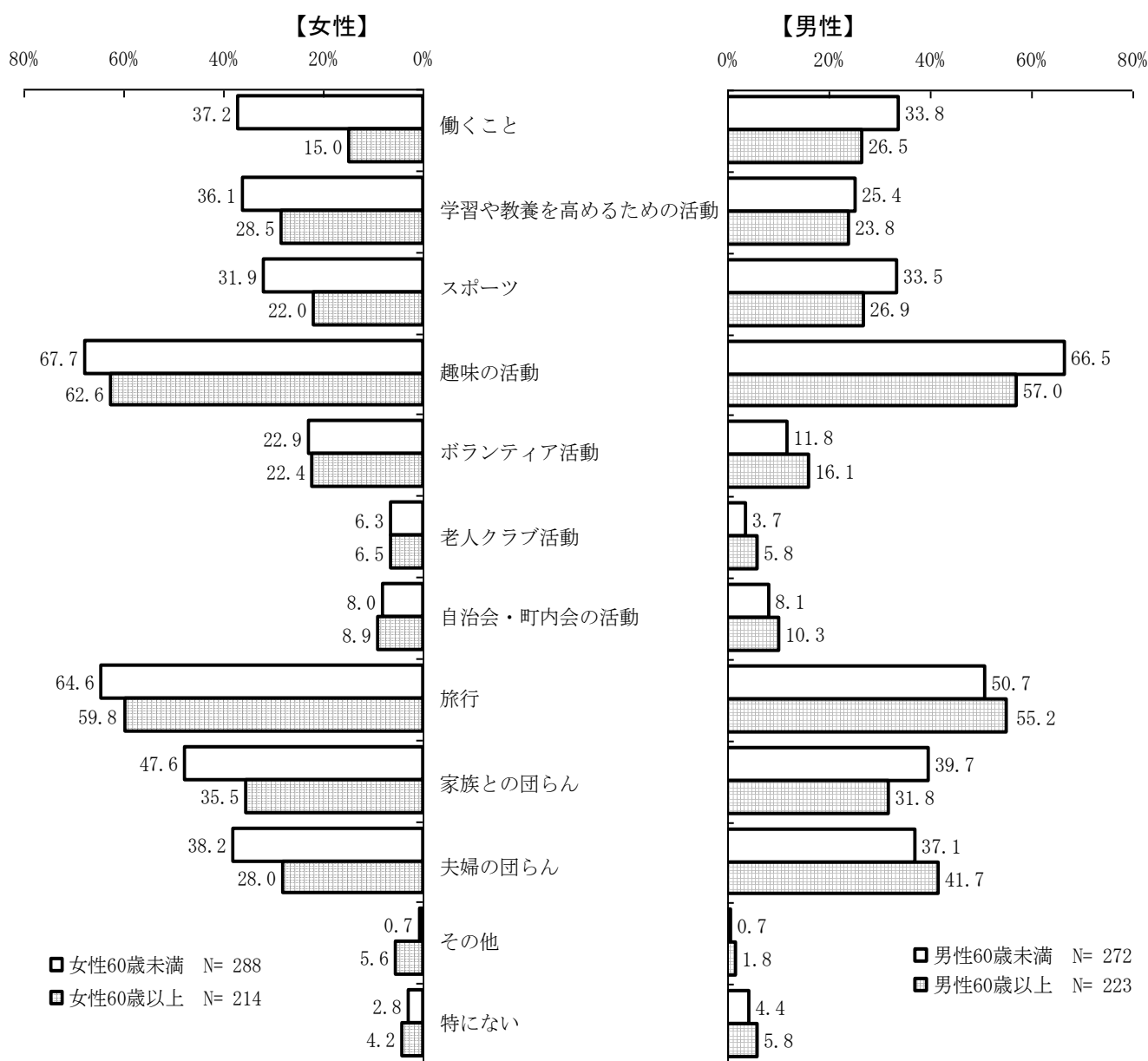
選択率が 30%を超えるものをみると、女性の場合は、「趣味の活動」（65.6%）、「旅行」（62.5%）、「家族との団らん」（42.5%）、「夫婦の団らん」（33.6%）、「学習や教養を高めるための活動」

(33.0%)である。男性の場合は、「趣味の活動」(62.0%)、「旅行」(52.5%)、「夫婦の団らん」(39.0%)、「家族との団らん」(36.0%)、「働くこと」「スポーツ」(各 30.6%)である。

男女ともに、「ボランティア活動」「老人クラブ活動」「自治会・町内会の活動」は他の活動に比べて割合は低くなっている。

性別・年齢層別

図4-12 性別・年齢層別 高齢期にやってみたいこと



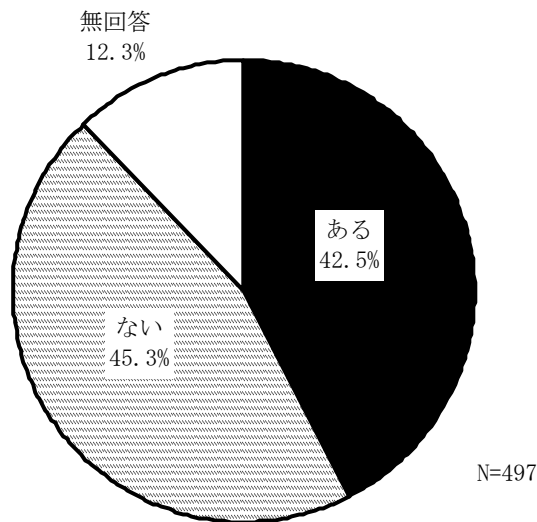
女性の場合、60歳未満と60歳以上で比較すると、全体的に「60歳未満」の方が選択率は高くなっている。中でも「働くこと」については、22.2ポイントの差がある。

男性の場合は、60歳未満と60歳以上とでは、それほどの違いはない。「ボランティア活動」「老人クラブ活動」「自治会・町内会の活動」や「旅行」「夫婦の団らん」においては、やや「60歳以上」の選択率が高くなっている。

男性の方におたずねします。

問 21 あなたは「男もつらい」と感じることはありますか。(○は1つ)

図4-13 「男もつらい」と感じることの有無

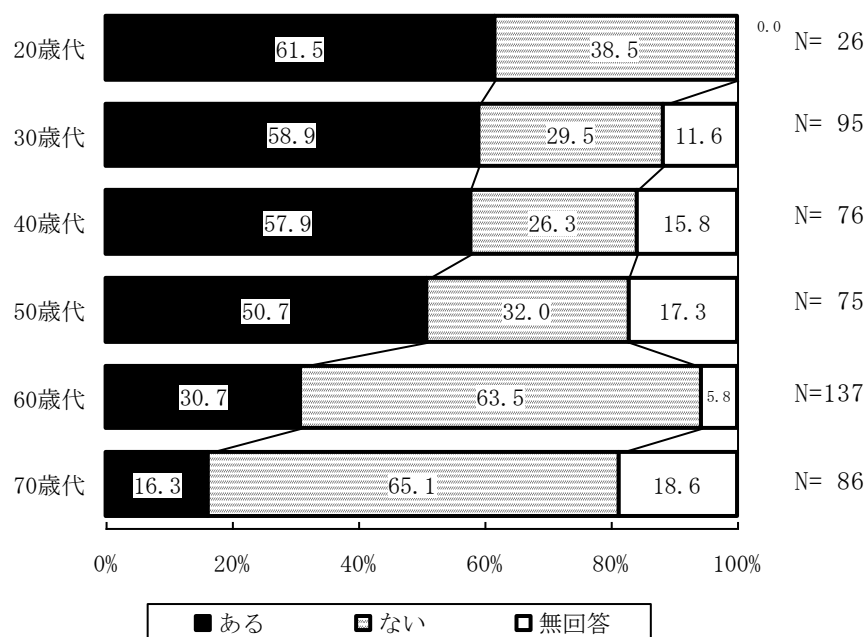


■約40%の男性が「男もつらい」と感じている

「男もつらい」と感じるものが「ある」とする男性は42.5%、「ない」とする男性は45.3%で、拮抗している。

これを年齢層別にみると、若年層ほど「ある」とする割合が高く、20歳代では61.5%である。20～40歳代は60%前後の高率であり、50歳代においても2人に1人は「ある」と回答している。

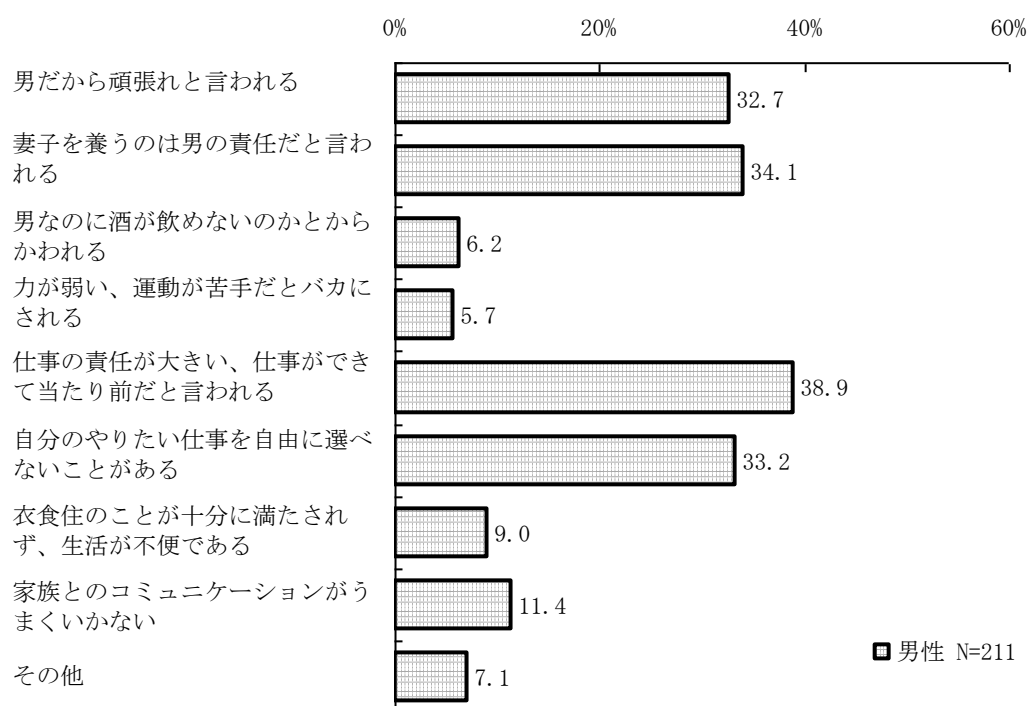
図4-14 年齢層別「男もつらい」と感じることの有無



「1. ある」と答えられた方におたずねします。

問 21－1 それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

図4－15 「男もつらい」と感じる理由



■つらいと感じる理由は男としての「責任」

「男もつらい」と感じる理由では、「仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前と言われる」「妻子を養うのは男の責任だと言われる」「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」「男だから頑張れと言われる」が 30% 台で抜きん出て選ばれている。

年齢層別

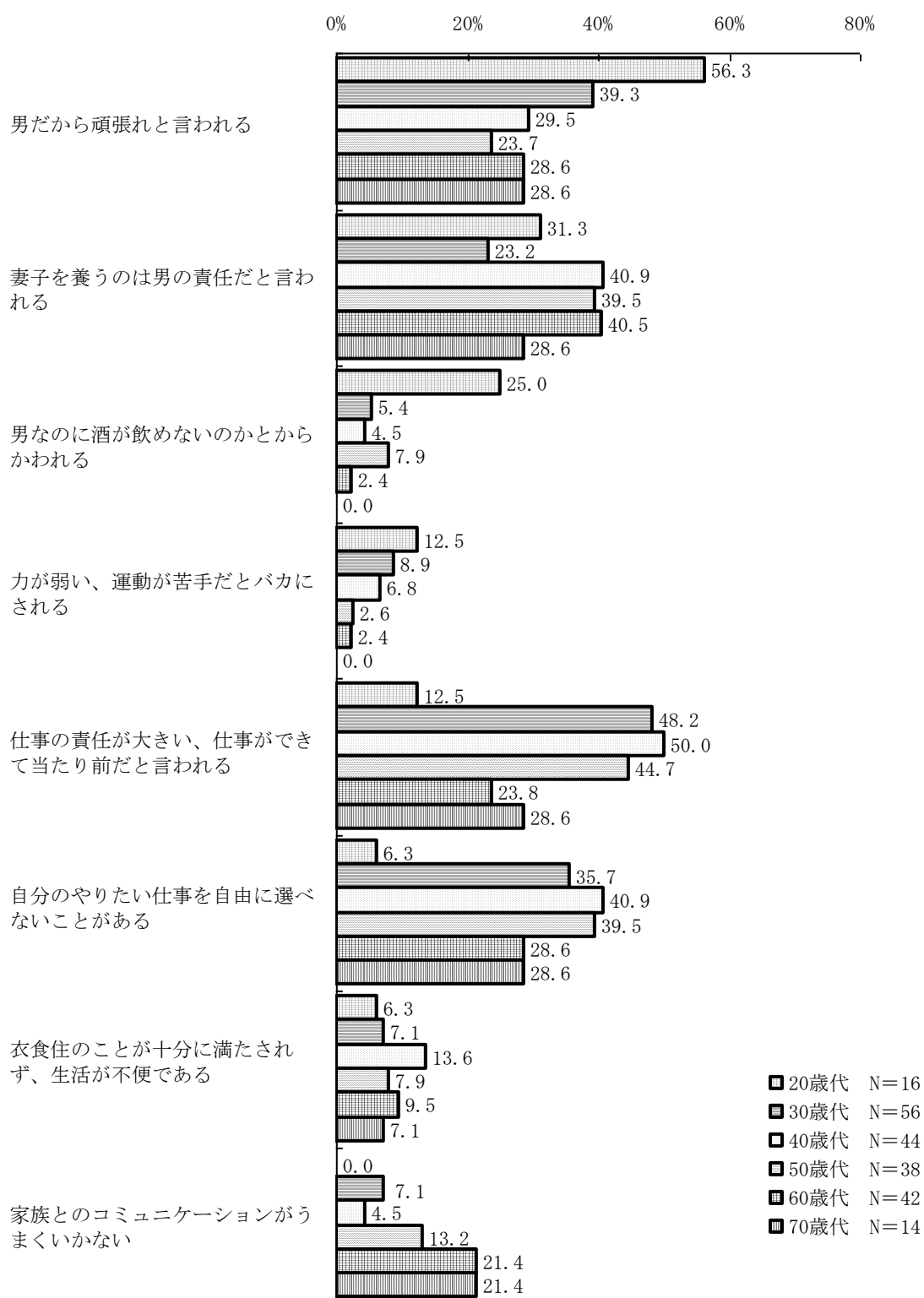
20 歳代では、「男だから頑張れと言われる」が抜きん出て高く、56.3%と 2 人に 1 人が選んでいる。「男なのに酒が飲めないのかとからかわれる」(25.0%) は他の年齢層に比べて 20 ポイント程度高い。

30～50 歳代では、「仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前と言われる」が約 50%、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」が約 40%で、他の年齢層より高くなっている。

40～60 歳代では、「妻子を養うのは男の責任だと言われる」が約 40%で他の年齢層より高くなっている。

「家族とのコミュニケーションがうまくいかない」は、年齢層が高いほど割合が高く、60 歳代・70 歳代では 21.4%である。

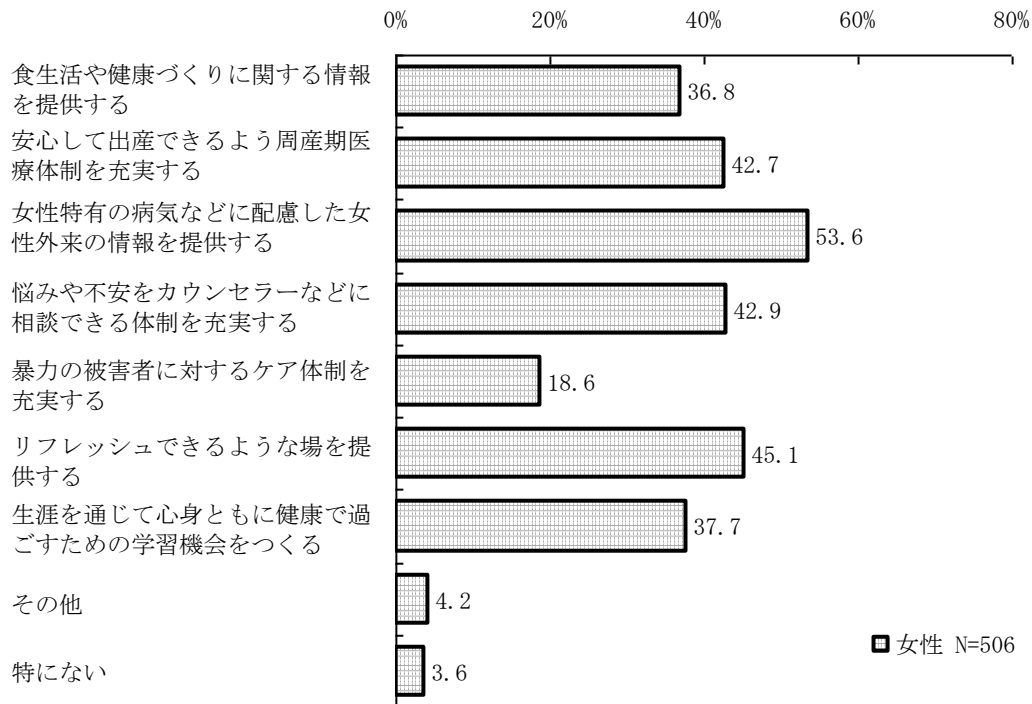
図4-16 年齢層別「男もつらい」と感じる理由



女性の方におたずねします。

問 22 女性の心とからだの健康を保つために、長岡京市はどのような取り組みをする必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

図4-17 女性の心とからだの健康を保つために長岡京市が取り組むべき施策



■ 「女性外来の情報提供」は2人に1人以上が必要とする

女性の心とからだの健康を保つために必要な施策をたずねた設問では、「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」で53.6%と2人に1人以上が必要であるとしているほか、「リフレッシュできるような場を提供する」「悩みや不安をカウンセラーなどに相談できる体制を充実する」「安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する」が40%以上の選択率となっている。

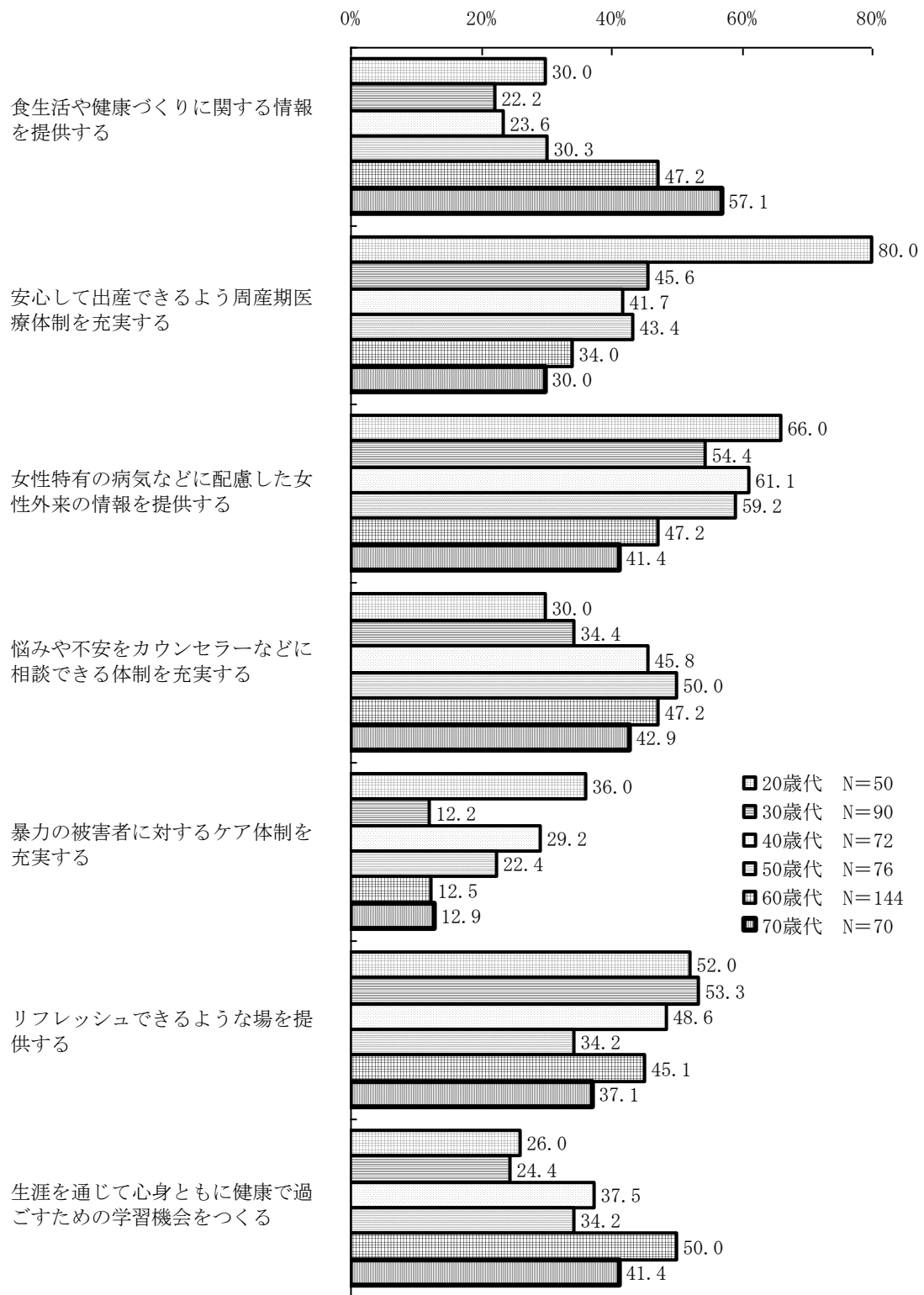
年齢層別

20歳代では、「安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する」を80.0%が選んでおり、他の年齢層から抜きん出て高い。「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」(66.0%)、「暴力の被害者に対するケア体制を充実する」(36.0%)も年齢層中一番高くなっている。

40～70歳代では、「悩みや不安をカウンセラーなどに相談できる体制を充実する」の割合が高く40%以上である。

60、70歳代では、「食生活や健康づくりに関する情報を提供する」(60歳代 47.2% 70歳代 57.1%)、「生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会をつくる」(60歳代 50.0% 70歳代 41.4%)で他の年齢層より選択率が高くなっている。

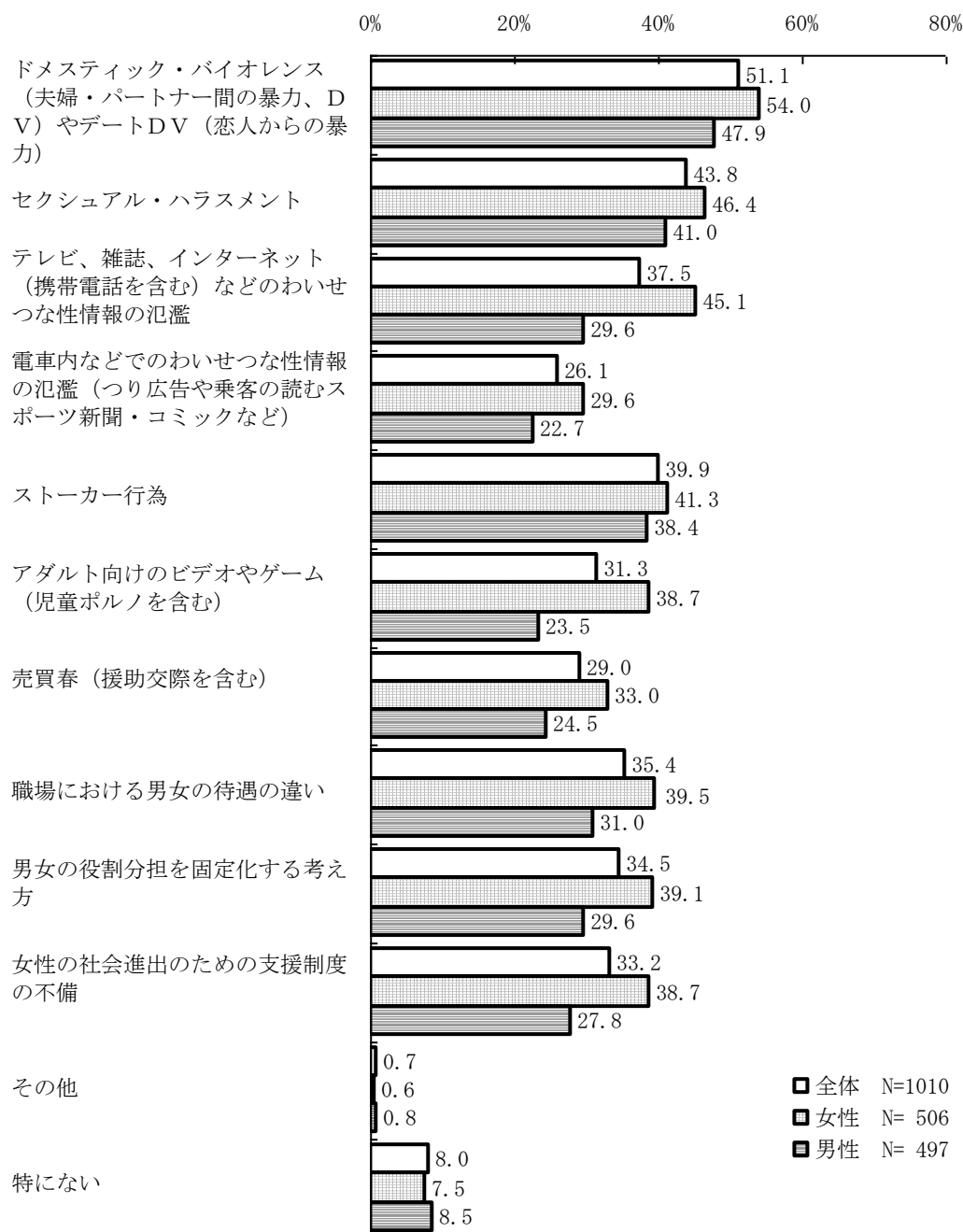
図4-18 年齢層別 女性の心とからだの健康を保つために長岡京市が取組むべき施策



5. 人権の尊重について

問 23 あなたが、女性の人権が侵害されていると思うことはどれですか。(〇はいくつでも)

図5-1 女性の人権が侵害されていると思うこと



■第1位は「ドメスティック・バイオレンス」、しかし2人に1人程度

男女ともに第1位は、「ドメスティック・バイオレンス（夫婦・パートナー間の暴力、DV）やデートDV（恋人からの暴力）」で女性54.0%・男性47.9%である。

50%を超えた選択率は、女性の「ドメスティック・バイオレンス（夫婦・パートナー間の暴力、DV）やデートDV（恋人からの暴力）」のみである。

男女で比較すると、女性では「電車内などでのわいせつな性情報の氾濫（つり広告や乗客の読む

スポーツ新聞・コミックなど）」（29.6％）以外の項目で30％台以上である一方で、男性は、すべての項目で女性より選択率が低くなっている。特に「テレビ、雑誌、インターネット（携帯電話を含む）などのわいせつな性情報の氾濫」「アダルト向けのビデオやゲーム（児童ポルノを含む）」では約15ポイントの差がある。

性別・年齢層別

表5-1 性別・年齢層別 女性の権利が侵害されていると思うこと

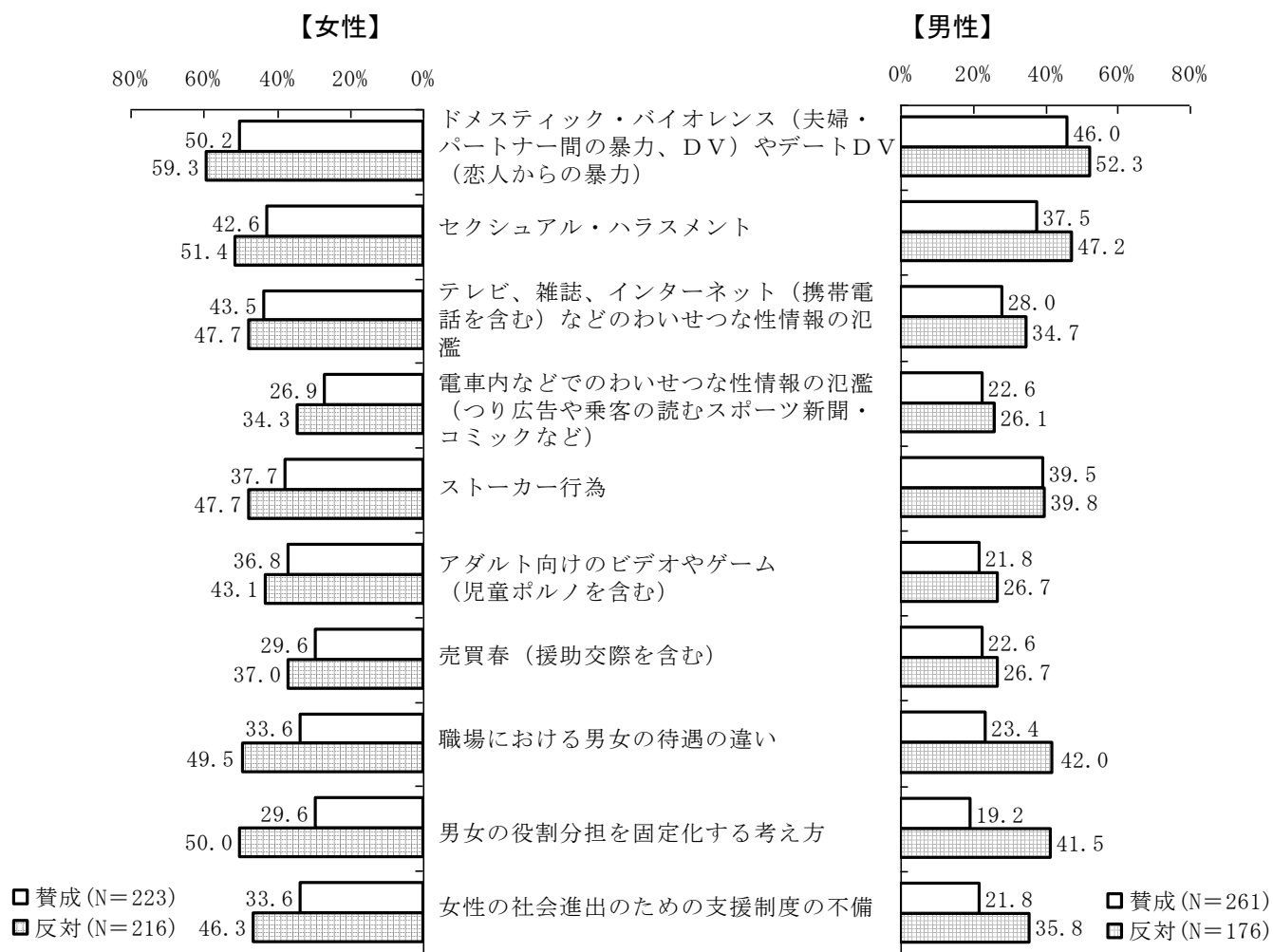
			DV (恋人からの暴力)	ドメスティック・バイオレンス (夫婦・パートナー間の暴力、DV)やデート セクシュアル・ハラスメント	情報 の氾濫	テレビ、雑誌、インターネット(携 帯電話を含む)などのわいせつな性 情報	電車内などでのわいせつな性情報 の氾濫(つり広告や乗客の読むスポ ーツ新聞・コミックなど)	ストーカー行為	アダルト向けのビデオやゲーム (児童ポルノを含む)	売買春(援助交際を含む)	職場における男女の待遇の違い	男女の役割分担を固定化する考 え方	女性の社会進出のための支援制 度の不備
女性	20 歳代(N=50)	人 %	30 60.0	32 64.0	18 36.0	13 26.0	26 52.0	13 26.0	13 26.0	22 44.0	21 42.0	22 44.0	
	30 歳代(N=90)	人 %	53 58.9	47 52.2	31 34.4	24 26.7	42 46.7	29 32.2	26 28.9	38 42.2	40 44.4	45 50.0	
	40 歳代(N=72)	人 %	49 68.1	44 61.1	37 51.4	29 40.3	28 38.9	29 40.3	30 41.7	29 40.3	34 47.2	29 40.3	
	50 歳代(N=76)	人 %	43 56.6	38 50.0	38 50.0	26 34.2	31 40.8	40 52.6	29 38.2	34 44.7	34 44.7	27 35.5	
	60 歳代(N=144)	人 %	67 46.5	50 34.7	70 48.6	38 26.4	58 40.3	55 38.2	43 29.9	48 33.3	45 31.3	49 34.0	
	70 歳代(N=70)	人 %	28 40.0	21 30.0	34 48.6	19 27.1	24 34.3	28 40.0	25 35.7	26 37.1	23 32.9	22 31.4	
男性	20 歳代(N=26)	人 %	16 61.5	16 61.5	7 26.9	7 26.9	12 46.2	5 19.2	8 30.8	13 50.0	12 46.2	10 38.5	
	30 歳代(N=95)	人 %	55 57.9	48 50.5	17 17.9	15 15.8	36 37.9	11 11.6	19 20.0	27 28.4	28 29.5	22 23.2	
	40 歳代(N=76)	人 %	44 57.9	35 46.1	23 30.3	20 26.3	31 40.8	19 25.0	15 19.7	27 35.5	27 35.5	20 26.3	
	50 歳代(N=75)	人 %	39 52.0	36 48.0	23 30.7	17 22.7	34 45.3	23 30.7	24 32.0	22 29.3	21 28.0	23 30.7	
	60 歳代(N=137)	人 %	53 38.7	48 35.0	47 34.3	35 25.5	51 37.2	40 29.2	39 28.5	45 32.8	40 29.2	40 29.2	
	70 歳代(N=86)	人 %	31 36.0	21 24.4	29 33.7	18 20.9	27 31.4	19 22.1	16 18.6	20 23.3	19 22.1	23 26.7	

性別・年齢層別でみると、女性の場合、40 歳代で年齢層間中選択率が1位の項目が多い。20 歳代では、「セクシュアル・ハラスメント」「ストーカー行為」の割合が年齢層間で1位である。30 歳代では「女性の社会進出のための支援制度の不備」で1位である。50 歳代では「アダルト向けのビデオやゲーム（児童ポルノを含む）」「職場における男女の待遇の違い」で1位であり、「アダルト向けのビデオやゲーム（児童ポルノを含む）」の割合は高い。

男性では20 歳代の選択率が他の年齢層より高い項目が多くなっている。

性別・性別役割分担意識別

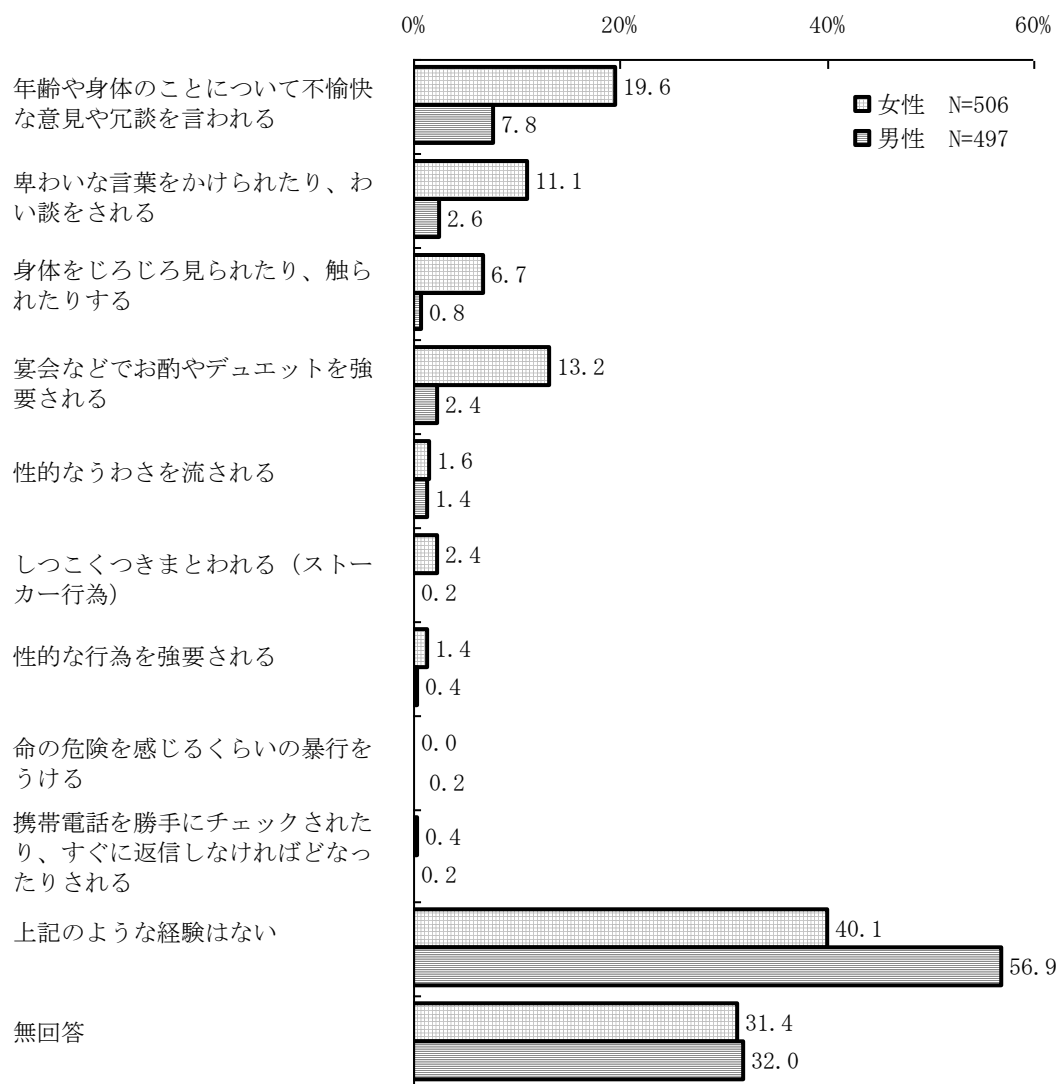
図5-2 性別・性別役割分担意識別 女性の人権が侵害されていると思うこと



性別・性別役割分担意識別でみると、男女ともに、すべての項目で固定的な性別役割分担意識に＜反対グループ＞の方の選択率が高くなっている。特に「職場における男女の待遇の違い」「男女の役割分担を固定化する考え方」「女性の社会進出のための支援制度の不備」では差が大きい。

問 24 あなたは、職場や学校、地域、家庭などにおいて次のような行為をされたことがありますか。(○は項目ごとにいくつでも)

図5-3 セクシュアル・ハラスメントなどの被害の経験《職場》

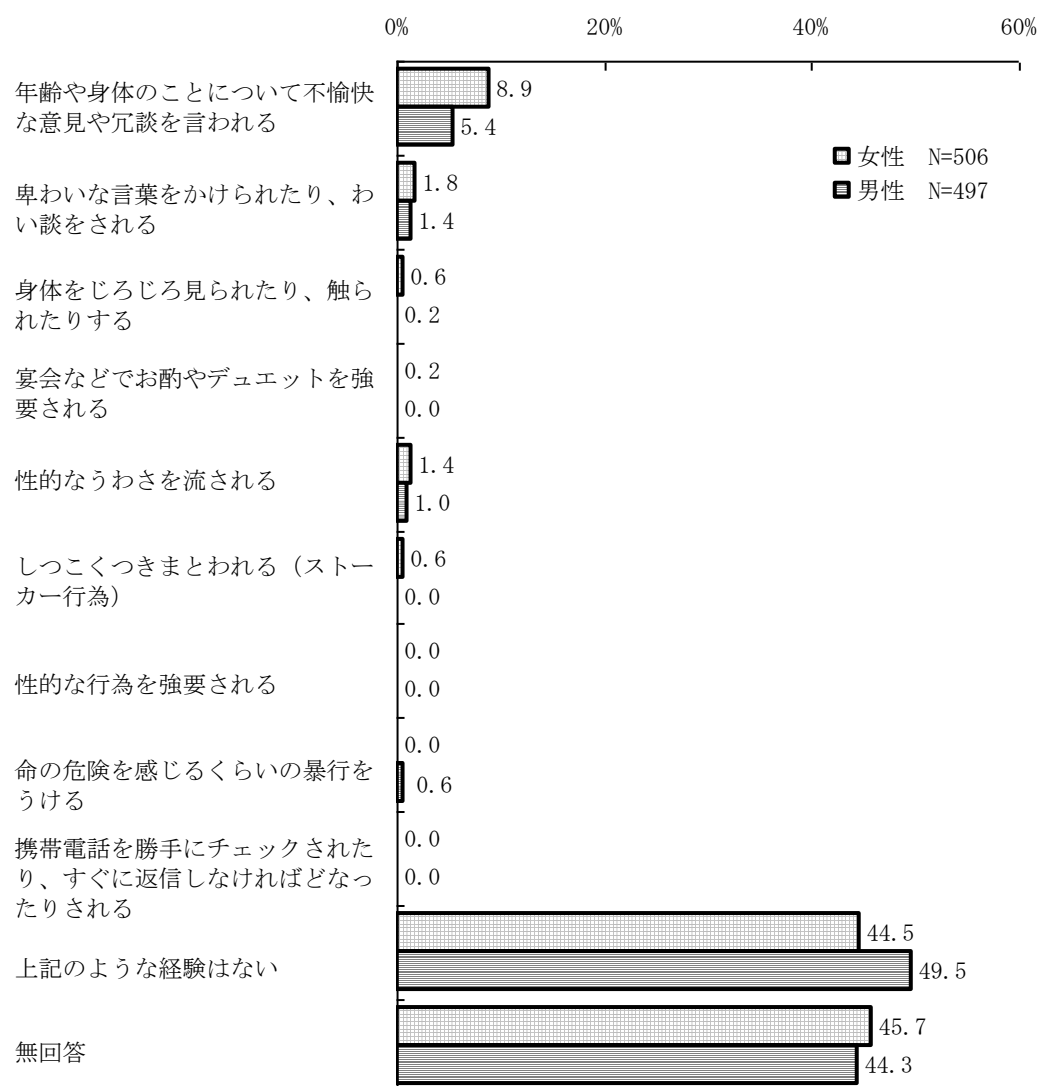


■職場で「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」経験のある女性は5人に1人
女性の場合、「経験はない」が40.1%、「無回答」31.4%であり、28.5%が何らかのセクシュアル・ハラスメントなどの行為を経験していることになる。

中でも、「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」は19.6%と5人に1人が経験しているとし、「宴会などでお酌やデュエットを強要される」(13.2%)、「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」(11.1%)は10%以上である。「身体をじろじろ見られたり、触られたりする」も6.7%である。

男性の場合は、「経験はない」56.9%、「無回答」32.0%であり、11.1%が何らかのセクシュアル・ハラスメントなどの行為を経験していることになる。男性で選択率が高いものは、「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」で7.8%である。

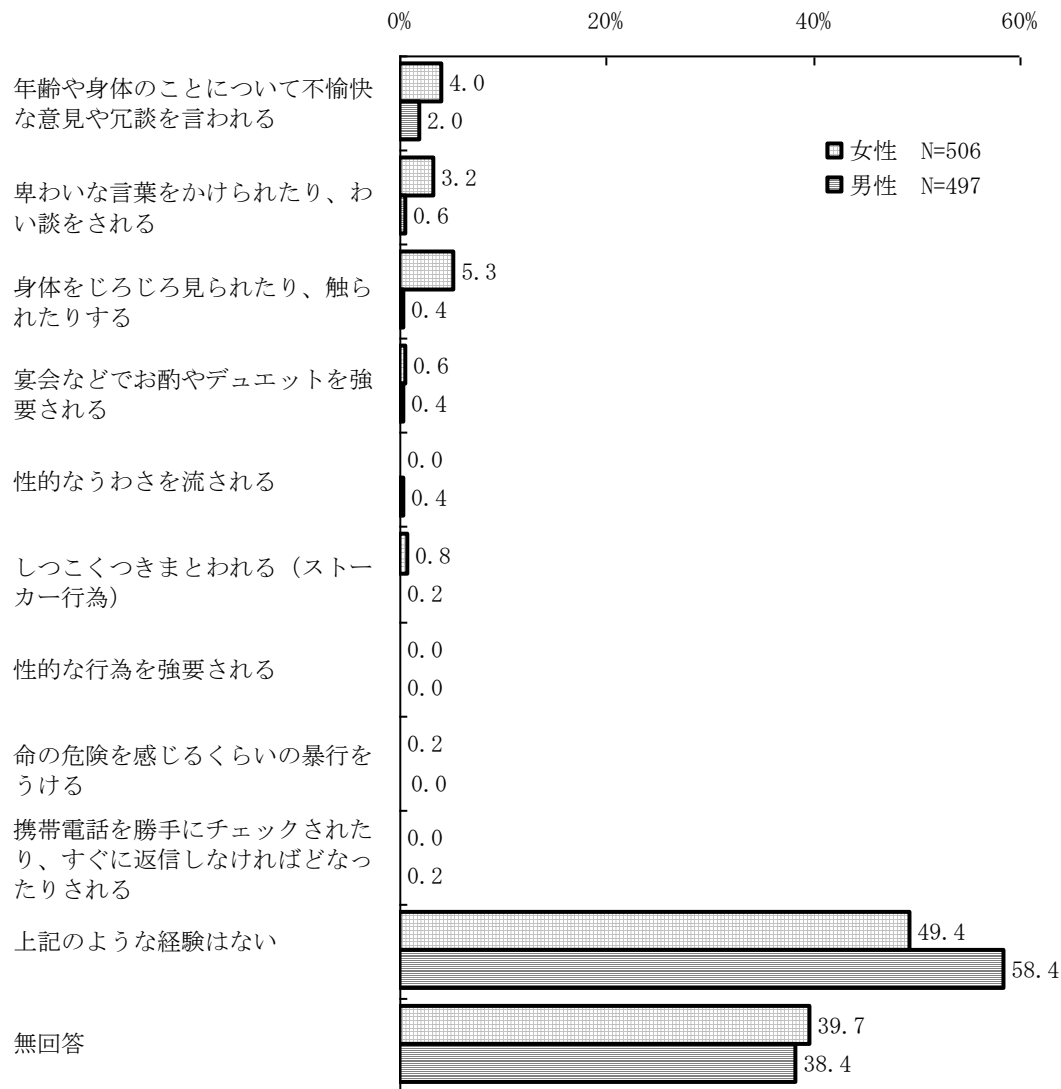
図5-4 セクシュアル・ハラスメントなどの被害の経験《学校》



■学校で「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」経験は、
女性の10人に1人弱、男性の20人に1人

学校での状況をみると、女性の8.9%、男性の5.4%が「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」経験があると回答している。

図5-5 セクシュアル・ハラスメントなどの被害の経験《地域》



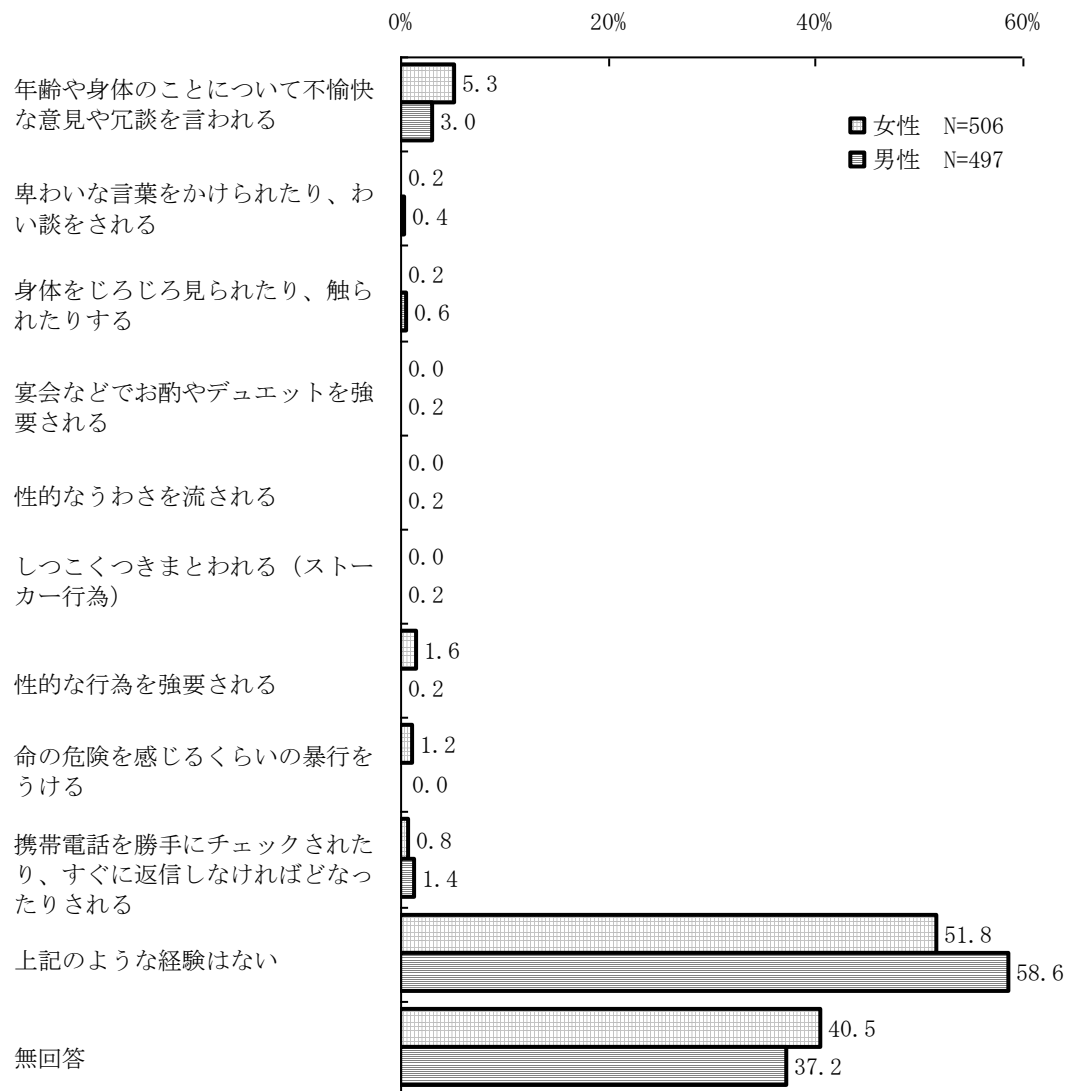
■地域でのセクシュアル・ハラスメントなどの被害は女性に多い

地域での状況をみると、女性の場合、「経験はない」が49.4%、「無回答」39.7%であり、10.9%つまり10人に1人の割合で何らかのセクシュアル・ハラスメントなどの行為を経験していることになる。

具体的に項目をみると、「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」4.0%、「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」3.2%、「身体をじろじろ見られたり、触られたりする」5.3%の経験があると回答している。

男性の場合は、「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」で2.0%であるものの、他の項目では極めて低い割合あるいは0%となっている。

図5-6 セクシュアル・ハラスメントなどの被害の経験《家庭》

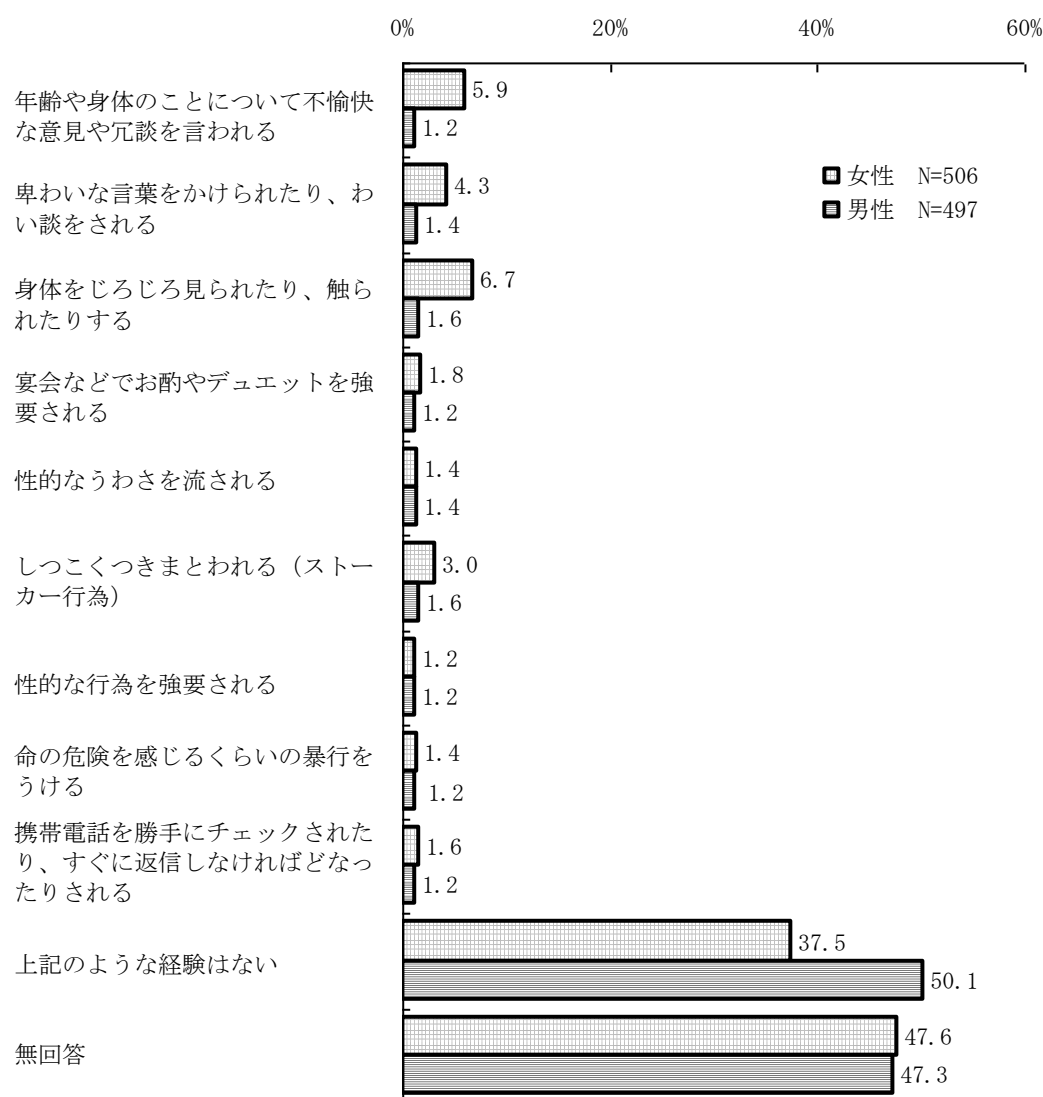


■「命の危険を感じるくらいの暴行をうける」は女性の1.2%

家庭での状況をみると、女性の場合、「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」が5.3%、「性的な行為を強要される」1.6%、「命の危険を感じるくらいの暴行をうける」1.2%、「携帯電話を勝手にチェックされたり、すぐに返信しなければどなったりされる」0.8%である。

男性の場合は、「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」が3.0%、「携帯電話を勝手にチェックされたり、すぐに返信しなければどなったりされる」1.4%となっている。

図5-7 セクシュアル・ハラスメントなどの被害の経験《その他》



■「その他」でのセクシュアル・ハラスメントなどの被害は、女性で約 15%

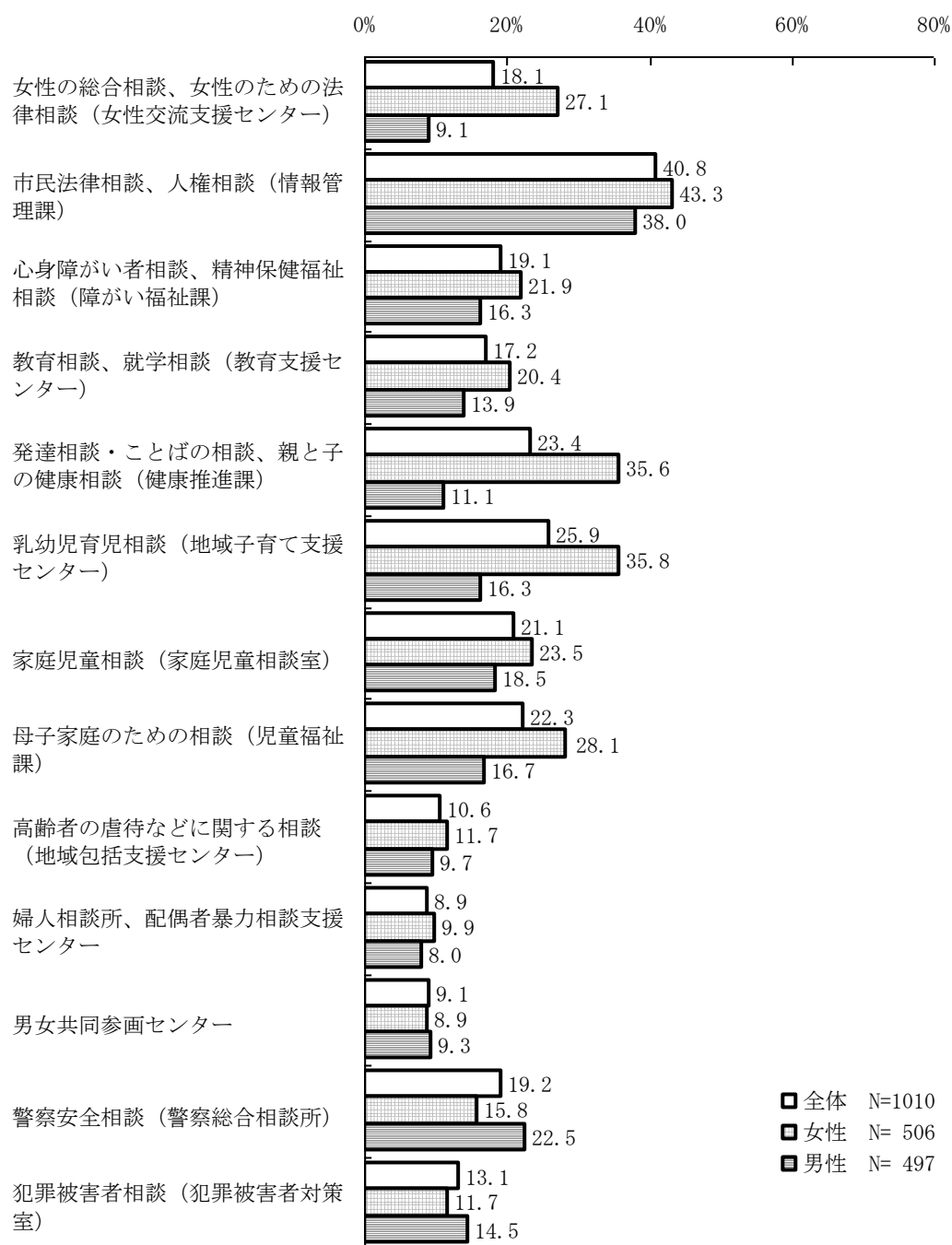
「その他」での状況をみると、女性の場合、「経験はない」が 37.5%、「無回答」47.6%であり、14.9%が何らかのセクシュアル・ハラスメントなどの行為を経験していることになる。

具体的に項目をみると、「身体をじろじろ見られたり、触られたりする」6.7%、「年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」5.9%、「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」4.3%、「しつこくつきまとわれる（ストーカー行為）」3.0%の経験があると回答している。

男性の場合は、何らかのセクシュアル・ハラスメントなどの行為についてすべての項目で 1%台の選択率となっている。

問 25 次の相談機関や相談窓口のうち、知っているものはどれですか。(〇はいくつでも)

図5-8 相談機関や相談窓口の認知度



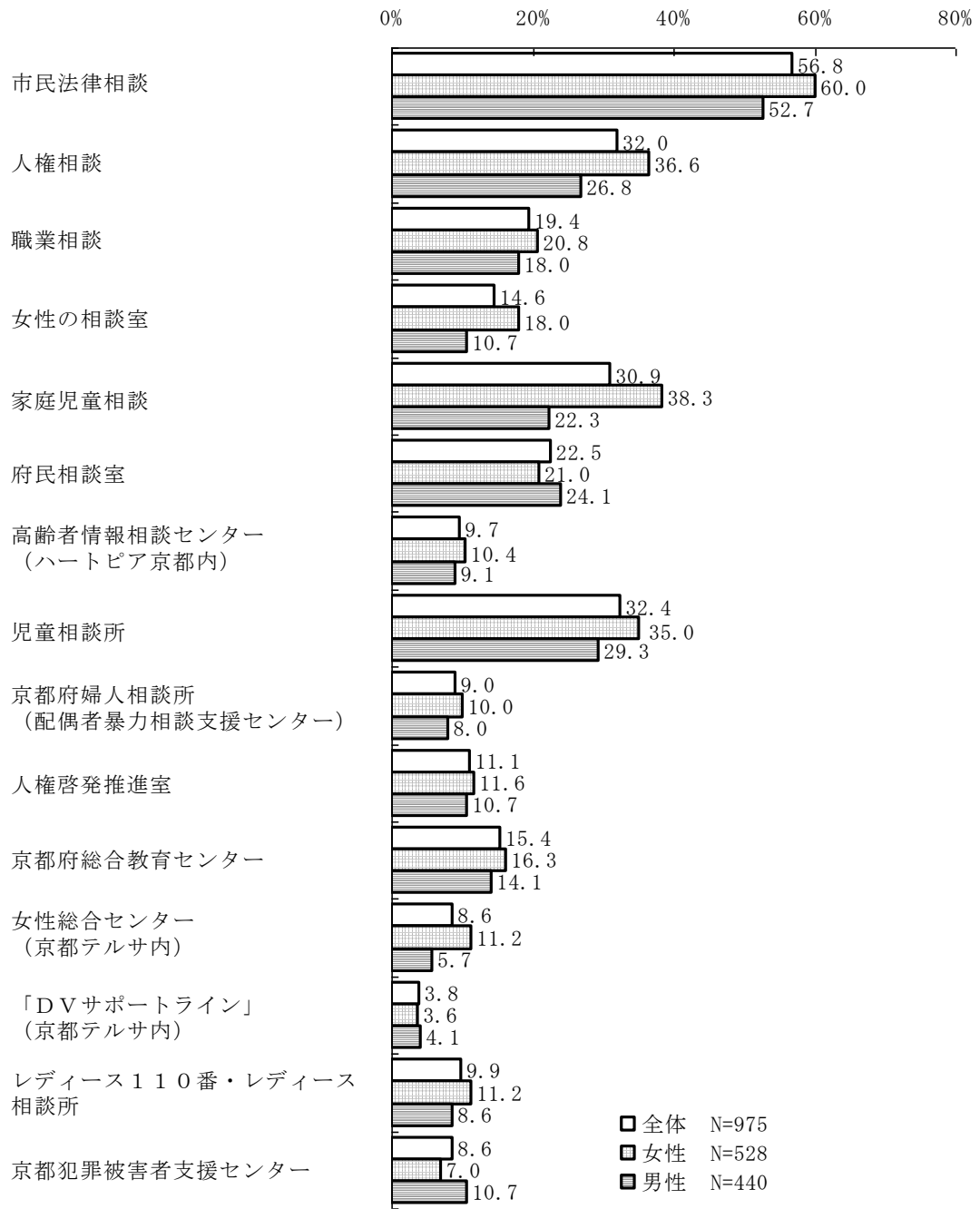
■男女ともに、最も認知度が高いのは「市民法律相談、人権相談 (情報管理課)」

女性で選択率の高い順にみると、第1位は「市民法律相談、人権相談 (情報管理課)」(43.3%)で、ついで、「乳幼児育児相談 (地域子育て支援センター)」(35.8%)、「発達相談・ことばの相談、親と子の健康相談 (健康推進課)」(35.6%)である。

男性の場合は、「市民法律相談、人権相談 (情報管理課)」(38.0%)、「警察安全相談 (警察総合相談所)」(22.5%)、「家庭児童相談 (家庭児童相談室)」(18.5%)であり、上位2位以外は10%台以下の選択率となっている。

【参考 前回調査】

図 相談機関や相談窓口の認知度



性別・年齢層別

表5-2 性別・年齢層別 相談機関や相談窓口の認知度

		女性の総合相談、女性のための法律相談（女性交流支援センター）	市民法律相談、人権相談（情報管理課）	心身障がい者相談、精神保健福祉相談（障がい福祉課）	教育相談、就学相談（教育支援センター）	発達相談・ことばの相談、親と子の健康相談（健康推進課）	乳幼児育児相談（地域子育て支援センター）	家庭児童相談（家庭児童相談室）	母子家庭のための相談（児童福祉課）	高齢者の虐待などに関する相談（地域包括支援センター）	婦人相談所、配偶者暴力相談支援センター	男女共同参画センター	警察安全相談（警察総合相談所）	犯罪被害者相談（犯罪被害者対策室）
女性 20 歳代 (N=50)	人 %	3 6.0	3 6.0	5 10.0	2 4.0	10 20.0	12 24.0	9 18.0	10 20.0	2 4.0	4 8.0	2 4.0	3 6.0	2 4.0
30 歳代 (N=90)	人 %	25 27.8	20 22.2	10 11.1	16 17.8	40 44.4	47 52.2	23 25.6	26 28.9	3 3.3	9 10.0	6 6.7	12 13.3	9 10.0
40 歳代 (N=72)	人 %	27 37.5	29 40.3	13 18.1	13 18.1	33 45.8	31 43.1	17 23.6	16 22.2	10 13.9	7 9.7	8 11.1	11 15.3	7 9.7
50 歳代 (N=76)	人 %	19 25.0	40 52.6	21 27.6	19 25.0	27 35.5	23 30.3	17 22.4	24 31.6	8 10.5	6 7.9	6 7.9	12 15.8	11 14.5
60 歳代 (N=144)	人 %	42 29.2	83 57.6	46 31.9	39 27.1	54 37.5	53 36.8	42 29.2	49 34.0	20 13.9	18 12.5	19 13.2	24 16.7	22 15.3
70 歳代 (N=70)	人 %	19 27.1	42 60.0	16 22.9	14 20.0	14 20.0	14 20.0	11 15.7	16 22.9	16 22.9	6 8.6	4 5.7	18 25.7	8 11.4
男性 20 歳代 (N=26)	人 %	- -	4 15.4	- -	4 15.4	2 7.7	1 3.8	4 15.4	4 15.4	- -	2 7.7	1 3.8	6 23.1	6 23.1
30 歳代 (N=95)	人 %	6 6.3	15 15.8	7 7.4	11 11.6	7 7.4	21 22.1	13 13.7	10 10.5	5 5.3	7 7.4	3 3.2	17 17.9	11 11.6
40 歳代 (N=76)	人 %	3 3.9	14 18.4	5 6.6	8 10.5	10 13.2	19 25.0	13 17.1	9 11.8	1 1.3	2 2.6	8 10.5	8 10.5	6 7.9
50 歳代 (N=75)	人 %	11 14.7	30 40.0	15 20.0	11 14.7	10 13.3	9 12.0	13 17.3	12 16.0	9 12.0	3 4.0	7 9.3	17 22.7	8 10.7
60 歳代 (N=137)	人 %	15 10.9	77 56.2	26 19.0	20 14.6	16 11.7	18 13.1	32 23.4	29 21.2	15 10.9	20 14.6	16 11.7	41 29.9	26 19.0
70 歳代 (N=86)	人 %	10 11.6	49 57.0	27 31.4	15 17.4	10 11.6	13 15.1	17 19.8	19 22.1	17 19.8	6 7.0	11 12.8	23 26.7	15 17.4

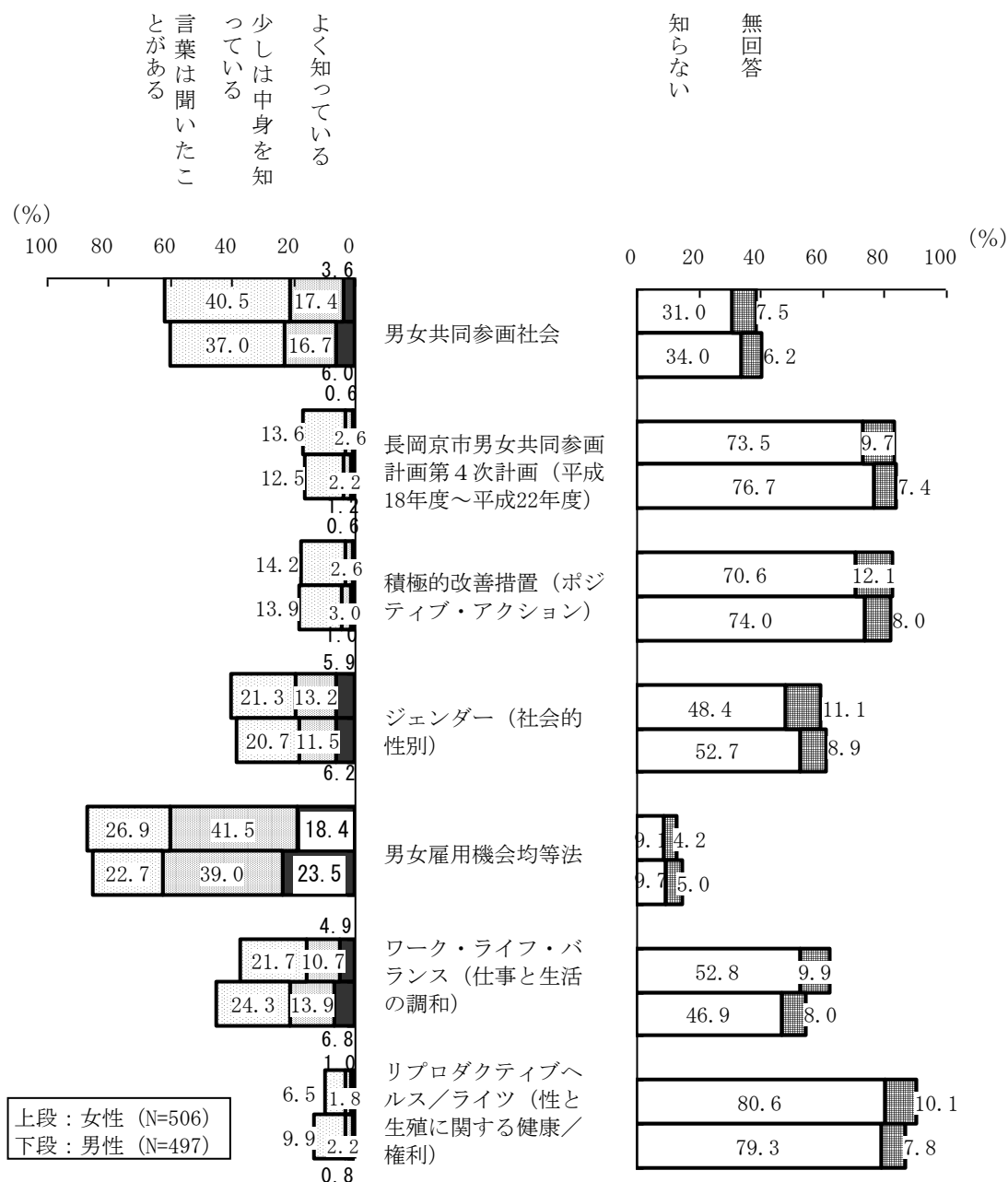
女性の場合、「乳幼児育児相談（地域子育て支援センター）」の認知度は、30 歳代では 52.2%と年齢層の中で最も高く、「女性の総合相談、女性のための法律相談（女性交流支援センター）」（37.5%）、「発達相談・ことばの相談、親と子の健康相談（健康推進課）」（45.8%）の認知度は、40 歳代で年齢層中最も高くなっている。他の項目については、60 歳代、70 歳代で最も高い選択率となっている。

男性の場合は、「乳幼児育児相談（地域子育て支援センター）」（25.0%）の認知度は、40 歳代で年齢層の中で最も高く、「女性の総合相談、女性のための法律相談（女性交流支援センター）」（14.7%）、「発達相談・ことばの相談、親と子の健康相談（健康推進課）」（13.3%）の認知度は、50 歳代で年齢層中最も高くなっている。「犯罪被害者相談（犯罪被害者対策室）」（23.1%）の認知度は 20 歳代で最も高い。他の項目については、60 歳代、70 歳代で最も高い選択率となっている。

6. 男女共同参画社会について

問 26 あなたは、次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。
(○は各項目にそれぞれ1つ)

図6-1 法律や言葉などの認知度



■「長岡京市男女共同参画第4次計画」の認知度は低い

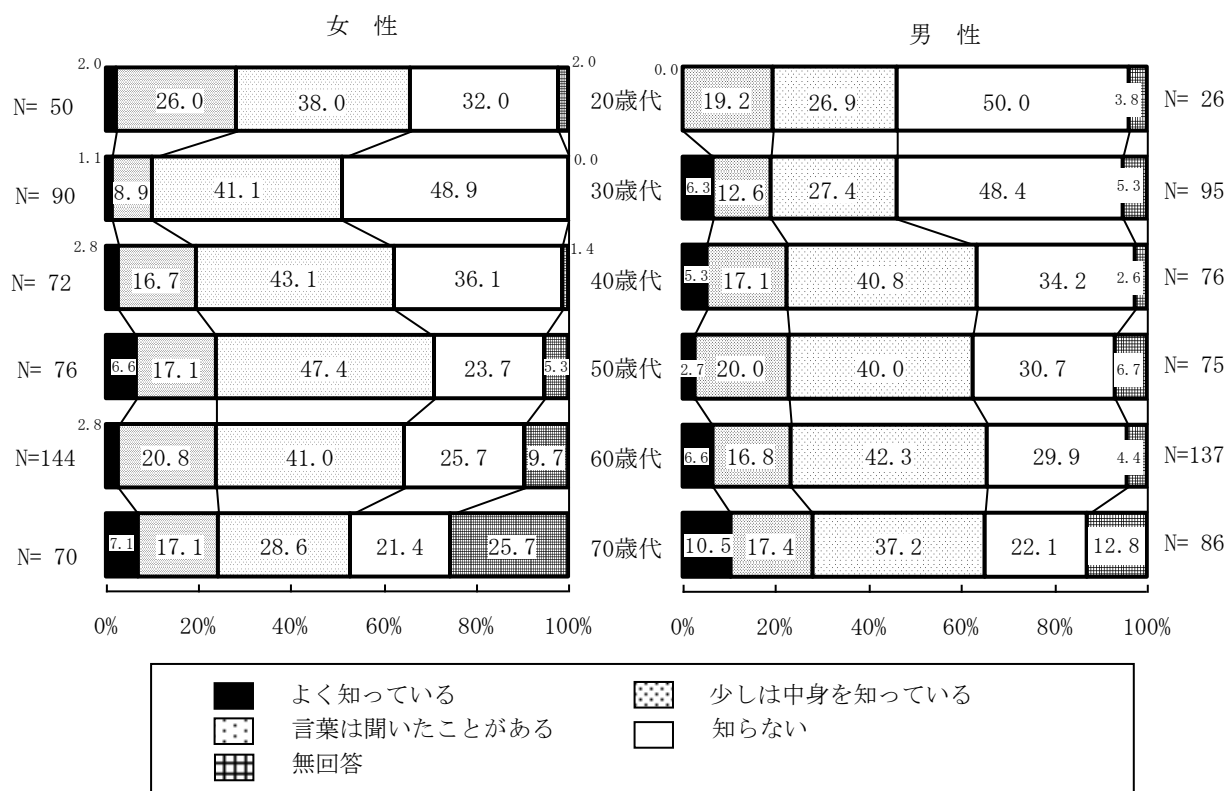
「よく知っている」の割合が最も高いのは、男女ともに「男女雇用機会均等法」で女性 18.4%・男性 23.5%、「少しは中身を知っている」を加えると女性 59.9%・男性 62.5%となる。ついで、男女ともに「男女共同参画社会」で「よく知っている」＋「少しは中身を知っている」（以下、『知っている』という）の割合は、女性 21.0%・男性 22.7%、「ジェンダー（社会的性別）」は女性 19.1%・

男性 17.7%である。

反対に、「知らない」の割合が高いのは、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）」（女性 80.6%・男性 79.3%）、「長岡京市男女共同参画第4次計画（平成18年度～平成22年度）」（女性 73.5%・男性 76.7%）、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）」（女性 70.6%・男性 74.0%）である。

性別・年齢層別

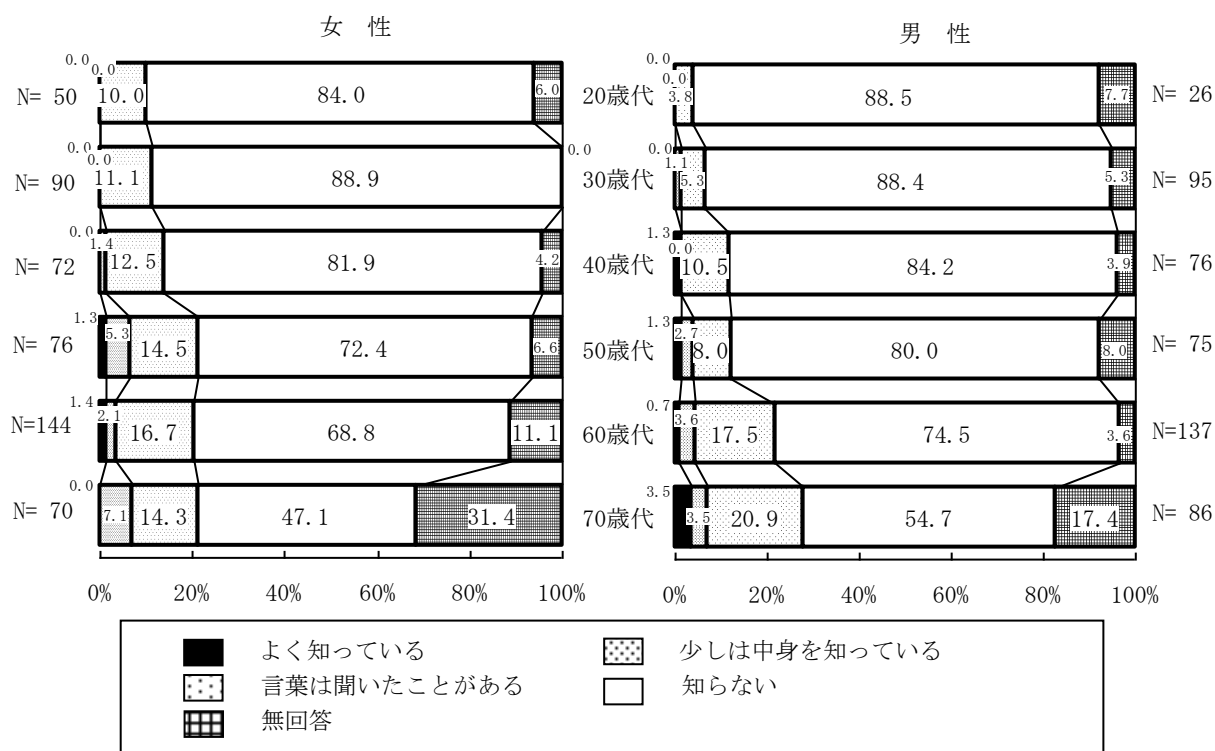
図6-2 性別・年齢層別 法律や言葉などの認知度 《男女共同参画社会》



女性の場合、「よく知っている」は、70歳代（7.1%）、50歳代（6.6%）で他の年齢層より若干高い。『知っている』の割合では、最も高いのは20歳代で28.0%、最も低いのは30歳代10.0%で、他の年齢層は、20%前後である。

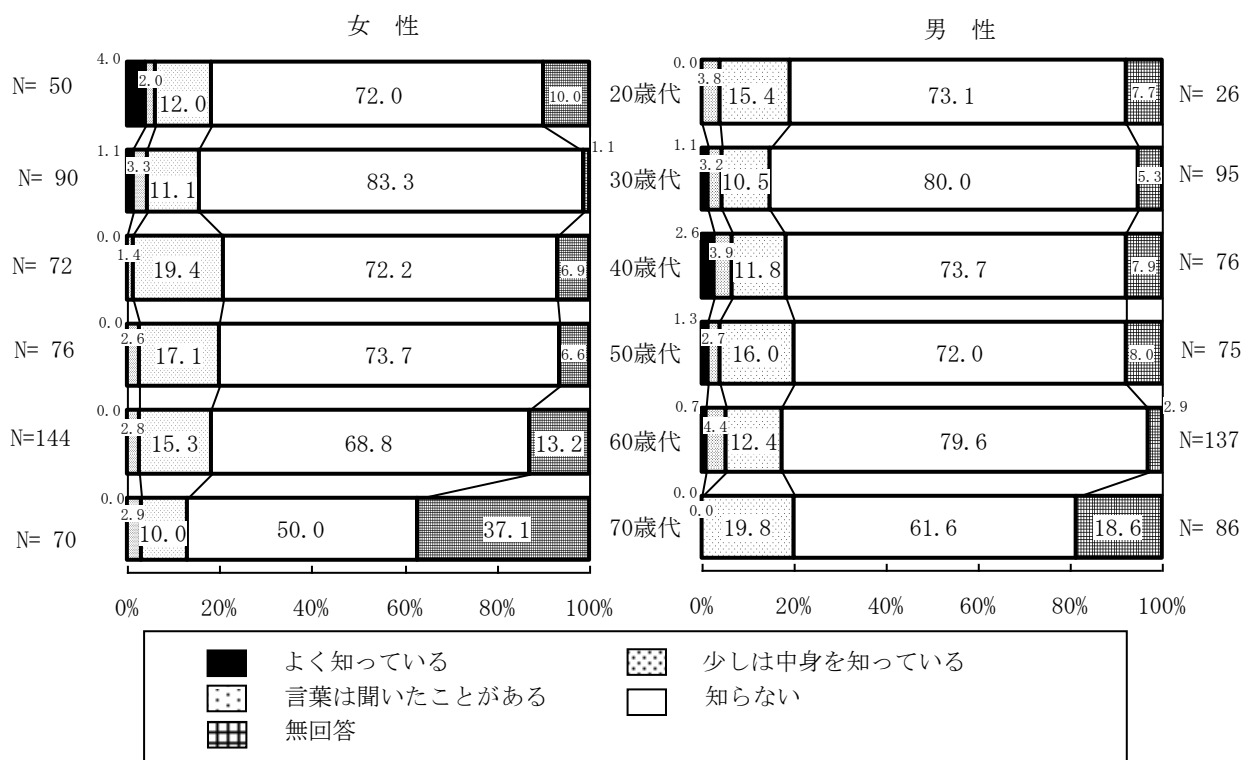
男性の場合は、「よく知っている」の割合が最も高いのは70歳代で10.5%、最も低いのは20歳代で0%。『知っている』の割合が最も低いのは30歳代で18.9%、最も高いのは70歳代で27.9%であるものの、年齢層間で大差はない。しかし、20、30歳代は「言葉は聞いたことがある」の割合が他の年齢層に比べて低く、「知らない」が2人に1人の割合になっている。

図6-3 性別・年齢層別 法律や言葉などの認知度 《長岡京市男女共同参画第4次計画》



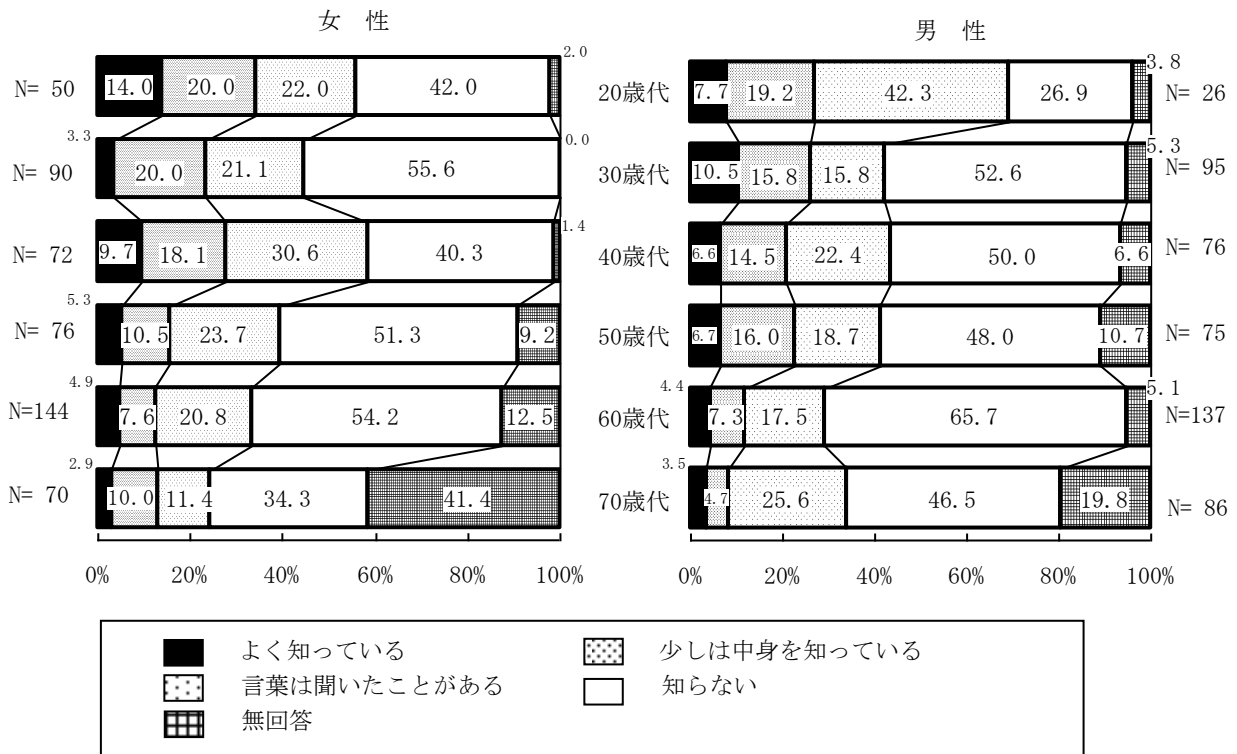
『知っている』の割合をみると、男女ともに若干ではあるが年齢層が高い層ほど割合が高くなっている。

図6-4 性別・年齢層別 法律や言葉などの認知度 《積極的改善措置(ポジティブ・アクション)》



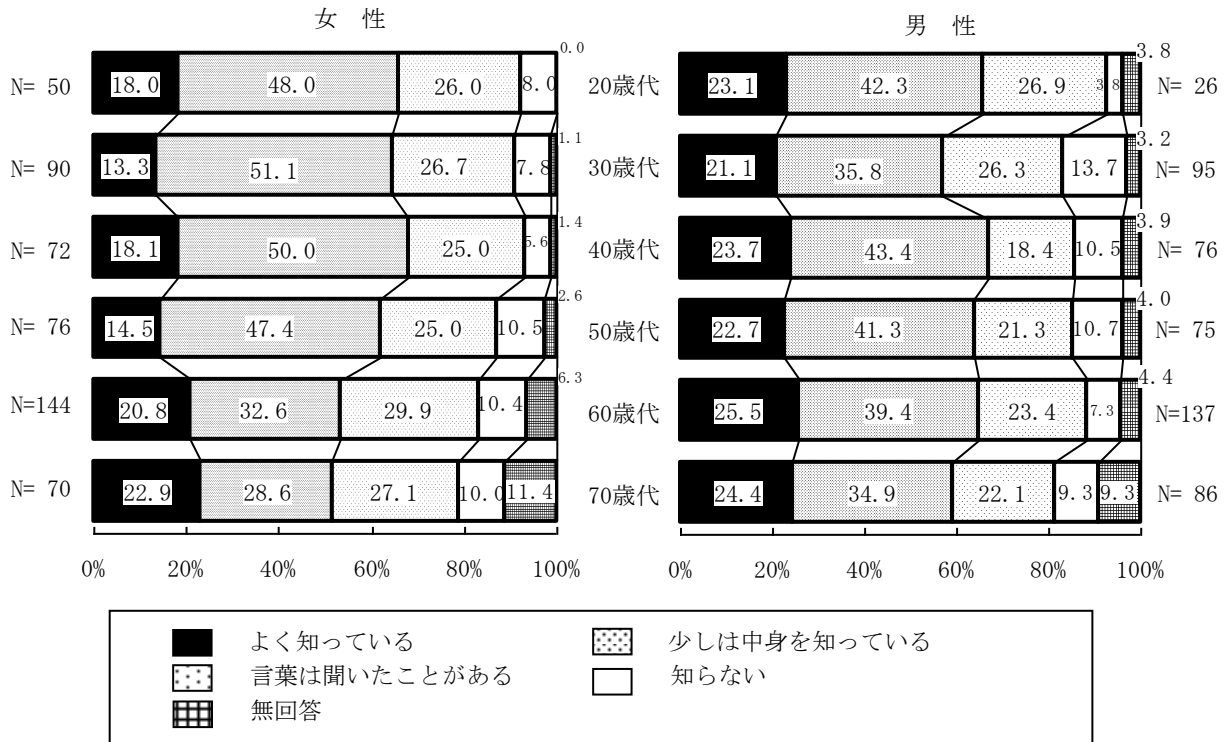
『知っている』の割合をみると、女性では40、50歳代が若干高くなっている。男性では、年齢層による差はほとんどない。

図6-5 性別・年齢層別 法律や言葉などの認知度 《ジェンダー》



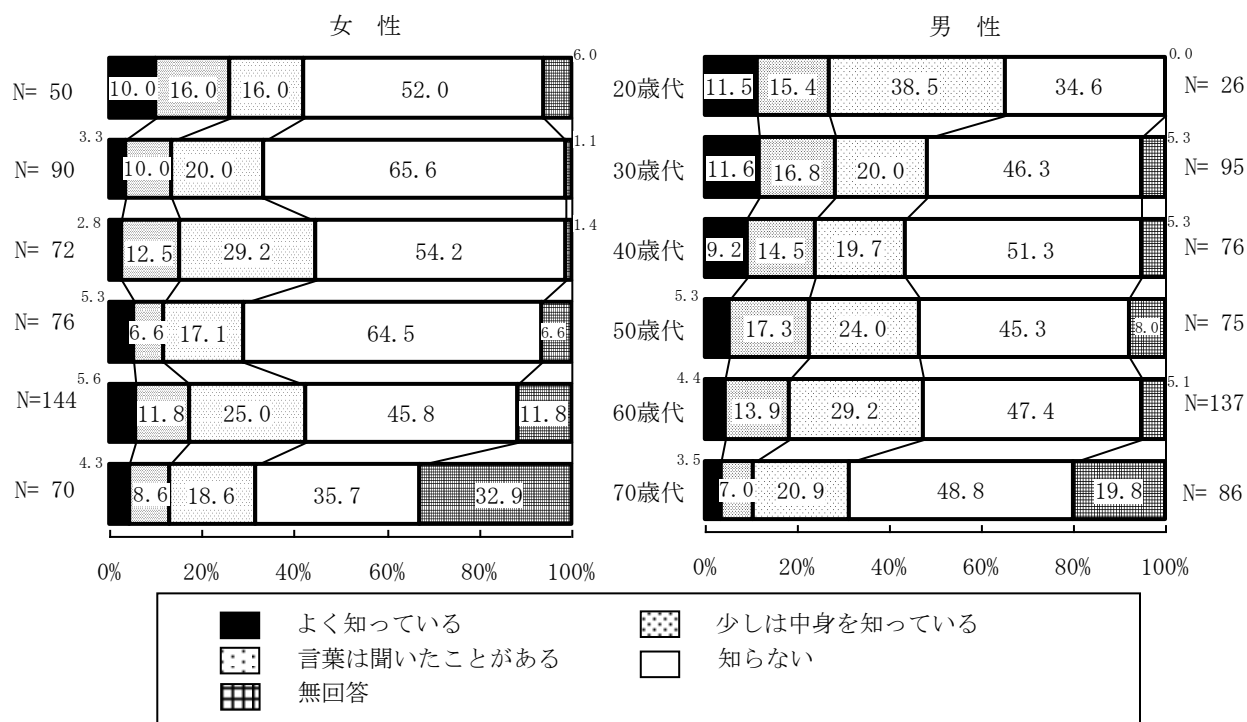
「ジェンダー（社会的性別）」という言葉については、女性の20歳代では「よく知っている」割合が男女合わせた中でも最も高く14.0%。男女ともに若年層の方が、認知度が高い傾向がある。『知っている』+「言葉は聞いたことがある」の割合では、男性の20歳代で69.2%と男女合わせた中でとびぬけて高い割合になっている。

図6-6 性別・年齢層別 法律や言葉などの認知度 《男女雇用機会均等法》



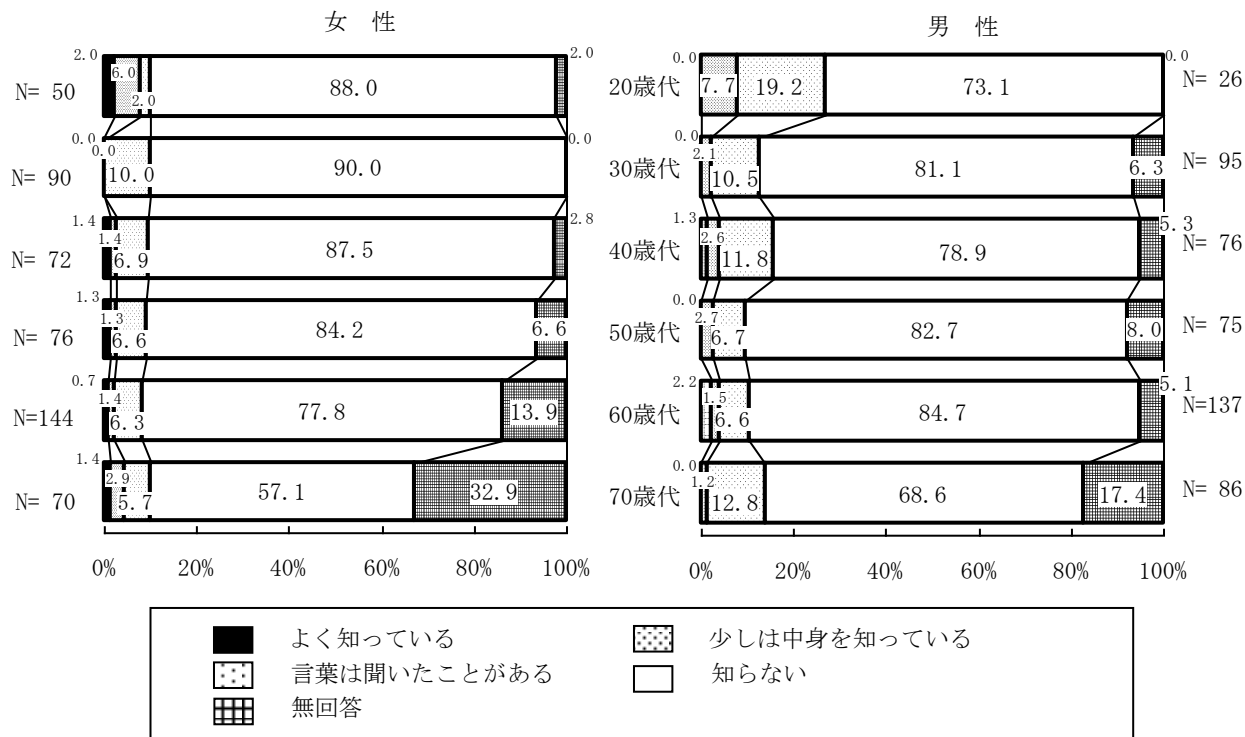
女性では、『知っている』の割合に50歳代を境に若干開きがある。男性では、30、70歳代で若干低くなっているものの年齢層間で大差はない。

図6-7 性別・年齢層別 法律や言葉などの認知度 《ワーク・ライフ・バランス》



女性で『知っている』の割合が最も高いのは20歳代で26.0%。その他の年齢層ではほとんど差はなく、10%台である。男性では、『知っている』の割合が最も高いのは30歳代で28.4%。年齢層が高いほど割合は低くなっている。『知っている』+「言葉は聞いたことがある」の割合が最も高いのは20歳代で65.4%となっている。

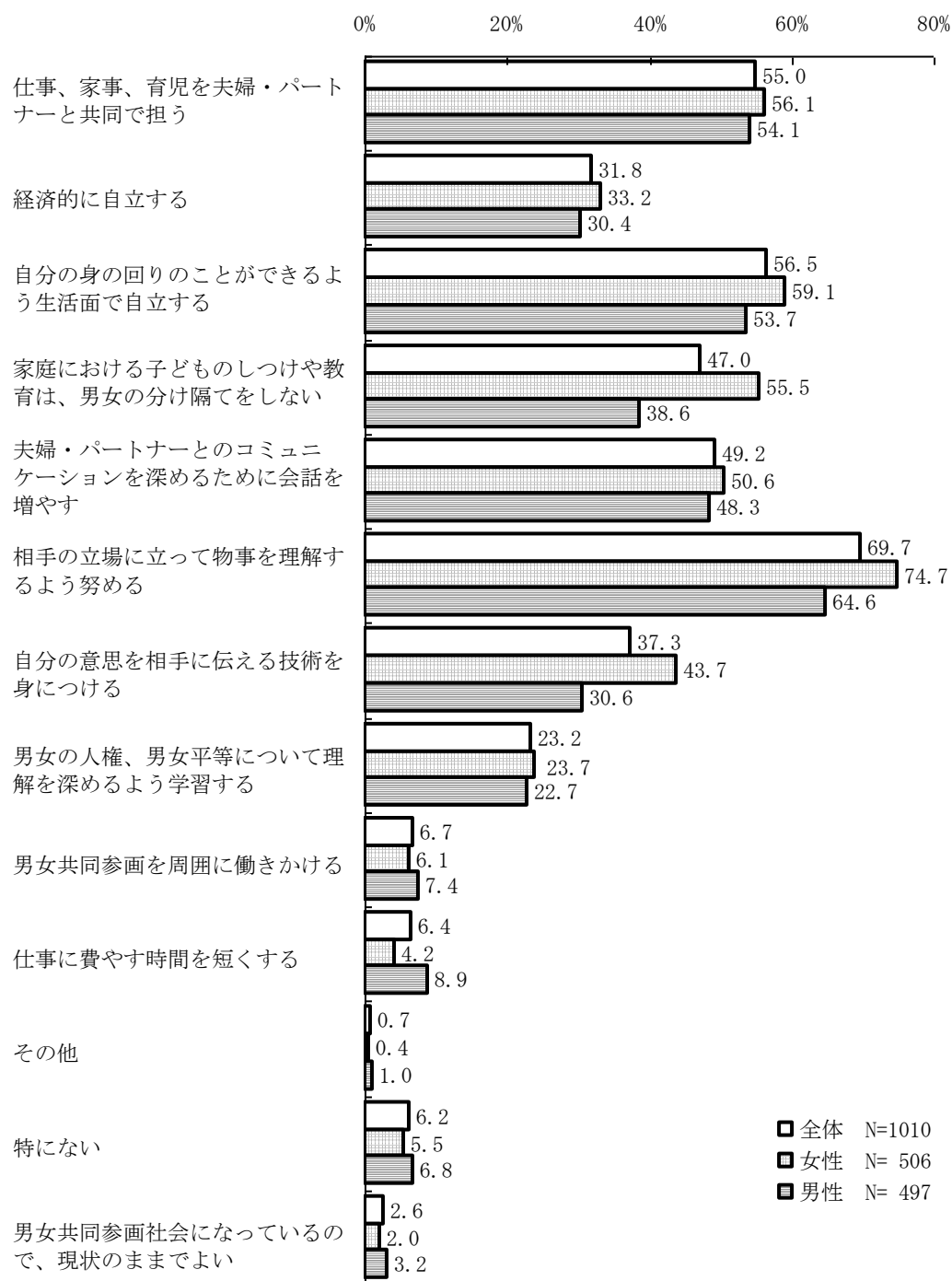
図6-8 性別・年齢層別 法律や言葉などの認知度 《リプロダクティブ・ヘルス/ライツ》



女性では、年齢層による違いはほとんどない。男性では、20歳代で「少しは中身を知っている」の割合は7.7%、「言葉は聞いたことがある」の割合は19.2%で、合わせた割合は、年齢層中最も高く26.9%である。

問 27 男女が共に社会における責任を分かち合う「男女共同参画社会」をつくるために、あなた自身には何ができると思いますか。（〇はいくつでも）

図6－9 男女共同参画社会をつくるために一人ひとりができること



■「相手の立場に立って物事を理解するよう努める」の選択率は、女性74.7%・男性64.6%

男女共同参画社会をつくるために一人ひとりができることとして最も割合の高かったのは、男女ともに「相手の立場に立って物事を理解するよう努める」（女性74.7%・男性64.6%）。この他に、女性で選択率が50%を超えているのは、「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」（59.1%）、「仕事、家事、育児を夫婦・パートナーと共同で担う」（56.1%）、「家庭における

子どものしつけや教育は、男女の分け隔てをしない」(55.5%)、「夫婦・パートナーとのコミュニケーションを深めるために会話を増やす」(50.6%)となっている。

男性の場合、選択率が50%を超えているのは、「仕事、家事、育児を夫婦・パートナーと共同で担う」(54.1%)、「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」(53.7%)である。

男女で選択率に開きがある項目は、「家庭における子どものしつけや教育は、男女の分け隔てをしない」(16.9ポイント男性の方が低くなっている)、「自分の意思を相手に伝える技術を身につける」(13.1ポイント男性の方が低くなっている)。

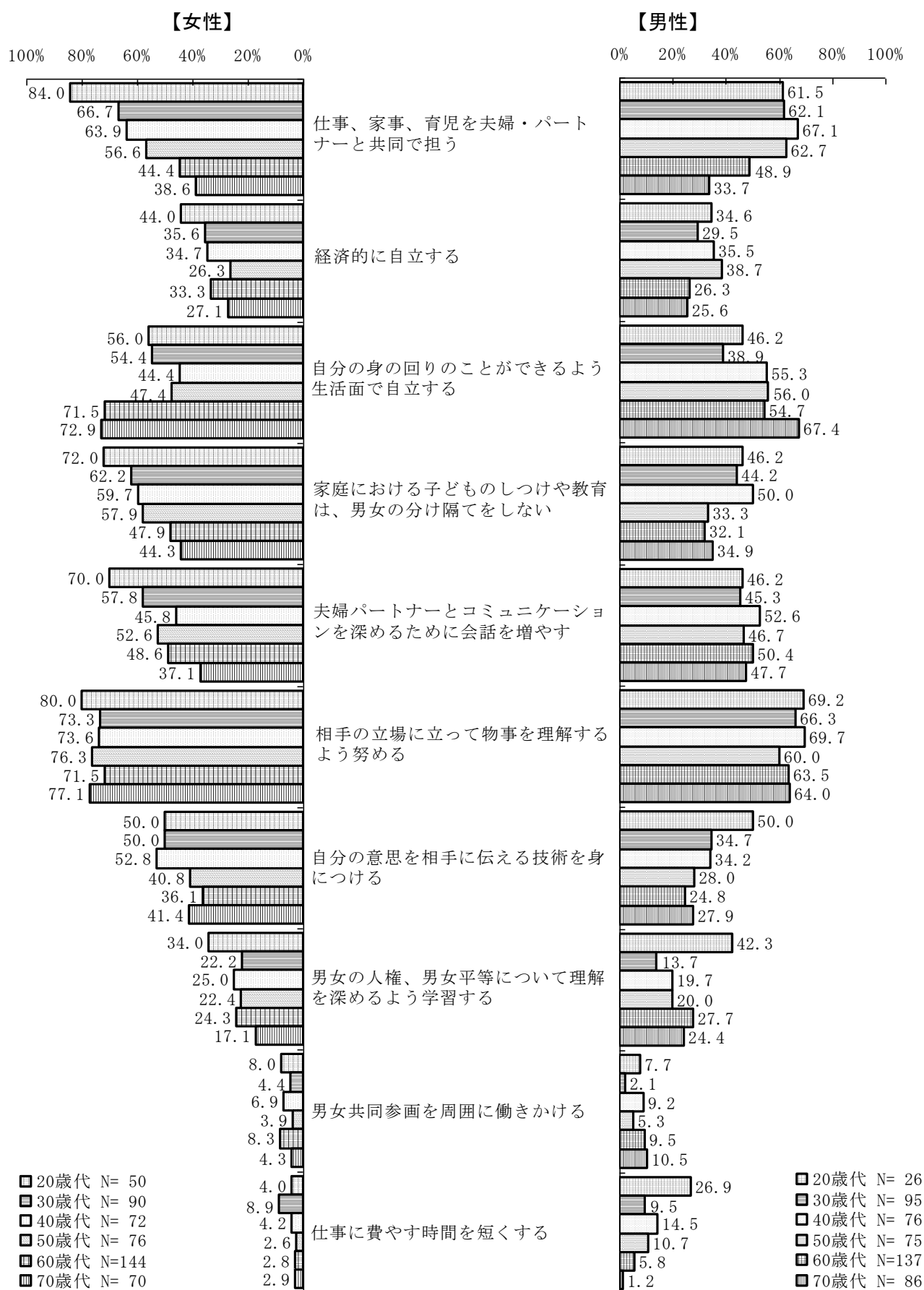
性別・年齢層別

女性の場合、「仕事、家事、育児を夫婦・パートナーと共同で担う」では、年齢層が低い層ほど選択率が高く、20歳代(84.0%)と70歳代(38.6%)では、45.4ポイントの開きがある。

「経済的に自立する」「家庭における子どものしつけや教育は、男女の分け隔てをしない」「夫婦・パートナーとのコミュニケーションを深めるために会話を増やす」「自分の意思を相手に伝える技術を身につける」「男女の人権、男女平等について理解を深めるよう学習する」においても同様の傾向が見られる。「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」においては、60、70歳代の選択率が高くなっている。

男性の場合は、女性ほどの年齢層による差はないものの、「自分の意思を相手に伝える技術を身につける」「男女の人権、男女平等について理解を深めるよう学習する」「仕事に費やす時間を短くする」では、20歳代が抜きん出て高くなっているほか、「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」においては若年層よりも中年以降の年齢層で高い傾向がみられる。

図6-10 性別・年齢層別 男女共同参画社会をつくるために一人ひとりができること



IV. 調査結果からみえてくるもの

調査結果を読んで

長岡京市男女共同参画懇話会 会長 細見三英子

「共同参画という言葉、この調査で初めて知りました」（女性 60 歳代）

「行政はもっと積極的に共同参画のPRをお願いします」（女性 20 歳代）

この調査報告書の巻末にある自由記述欄で、ふと見つけた意見です。実は最近、各地の自治体で行われる同種のアンケート調査の回答率は低下傾向にあり、30%台もみかけます。ところが本調査の回答率は 50.6%。男女共同参画施策に対して大きな期待が寄せられていることを感じました。以下、調査結果を読んで、特に印象に残ったことを書いてみました。

「どれだけ頑張っても、パートは評価されない…」

昭和 21（1946）年、日本国憲法 14 条に男女平等がうたわれ、同 60（1985）年、男女雇用機会均等法により雇用現場の性差別が禁止され、さらに平成 11（1999）年、あらゆる分野で共同参画を目指す男女共同参画社会基本法が施行されるなど、男女平等を広く着実に進めるための法律や制度は整備されてきました。しかし、意識や慣行を変えることはなかなか進まず、現実には依然として女性差別は存在しており、近年は世界的な不況や格差社会の広がり、むしろ深く潜行しているように思えます。特に、就労の場での状況は深刻です。

「どれだけ仕事を頑張っても、パートは評価されず、正職になれない。50 歳を越えた女性に職場は冷たい」（女性 50 歳代）

「不況になれば、本業だけに専念せよという企業論理がまかり通る。女性への支援は不十分だと感じる」（男性 50 歳代）

「長時間労働を何とかしないと、共同参画も結局、無理なのではないか」（男性 30 歳代）

標本数は少ないものの、労働の現場からは上記のようなひとときわ厳しい現状報告が寄せられています。職場での昇進や昇給において「男性が優遇されている」と回答した割合も、男女ともに 70%にのぼります。そして実際の支給額をみても、女性回答者の 56.1%が年収 200 万円未満であり、男性に比べて 200～300 万円低くなっています。

この格差の背景には、総務省の労働力調査（07 年）でも明らかなように、働く女性の 6 割近くがパート、アルバイト、派遣であり、その賃金格差が大きく影響していることを示しています。パートやアルバイトの時給引き上げという対策は、以前から言われていますが、改善されていないのが実情です。

いっぽう「働いていない」と回答した女性は 47.4%ありましたが、そのうち 20 歳代女性は 100%が、30 歳代でも 77.5%が「働きたい」と答えています。しかし実際の求職活動については、「時間や賃金など労働条件が合わない」（48.6%）「募集そのものが少ない」（41.7%）「自分にキャリアや資格がなくて自信がない」（37.5%）といった悩みや不安を抱えています。

遅々として進まない共同参画の現状を切り開くための、各人の努力。これを励まし、後

押ししてくれるのはパートナーや家族、職場や地域の協力ですが、この、あらゆる分野で共同参画を進めるための施策は未だ充分とはいえません。調査からは、家族が孤立している現状がうかがえます。

「パートから帰って子守りをして心身ともに疲れている。夫に話しても”自分もしんどい”と言われる。もっとお互いに関心を持ち、認め合いたいのに」(女性 30 歳代)

「女性は家事をきちんとやらなければ、といつの間にか思っていることが多いので、家庭での共同参画は男女ともに考え方を改めていく必要があるのでは」(女性 40 歳代)

「営業職の夫は出張続きで、家事は私の仕事。子育てが終れば自立したいと思っています。ワークシェアというのかな、時給も 900 円じゃなく、福利厚生もついた働き方がいいけど」(女性 40 歳代)

家庭生活について、自由記述欄にあふれる、つぶやき。この調査がなければおそらく埋もれてしまっていたかもしれない。そう考えると、女性たちの今の S O S を知ることの大切さ、共同参画を実現するための啓発や教育の重要性を改めて認識させられました。

「女性しか妊娠・出産できないのに、平等は無理」って本当？

いっぽうで、「女性しか妊娠・出産できないのに、男女平等の社会は無理があるのでは」(男性 20 歳代)という意見もありました。他の自治体の調査でも、“女性＝妊娠・出産＝家事・育児”という昔からの性別役割分担の意識を、最近では若い世代が多く持つようになっているという結果が報告されています。そのような声に対し、ここでもう一度、考えてみたいと思います。

確かに妊娠・出産という機能は女性が担いますが、本来は夫婦の大切な共同作業です。しかも古今東西、女性は妊娠・出産による退職強要はもちろん、ある時は生命の危機に瀕しても、その機能を（喜んであるいは不安を抱きながらも）引き受けてきました。そうであるのに逆に、妊娠・出産ゆえに平等から排除され、評価を貶められてきた経緯がある。「そんなバカな…」というのが女性たちの本音ではないでしょうか。ですから、女性たちが目指す平等社会とは、妊娠・出産を理由に排除されず、自己実現が許される社会だといえます。

1975（昭和 50）年の国際婦人年以来（あるいはもっと古く連綿と続いてきた婦人運動）のこの熱い思いが、繰り返してよみがえり、未来の世代に受け継がれていってほしいものです。

その意味では、学校や家庭での教育が担う役割は大切です。調査では、共同参画意識を育てる地道な実践の成果がうかがえます。たとえば小中学校における平等教育については、「進路指導は性別に偏ることなく、個人の能力や希望を大事にしてほしい」(女性 70.0%、男性 58.1%)、「男女が平等に家庭責任を果たすことの大切さを教える」(女性 63.0%、男性 46.7%)、「平等の意識を育てる授業をする」(女性 39.7%、男性 46.7%)といった項目が、男女差はあるものの上位を占めています。家庭でも、女子・男子に区別なく、忍耐力や自立心、家事能力、職業能力、協調性、やさしさ、など様々な能力を身につけて欲しいと願う回答が 7 割から 9 割となっています。

学校や幼稚園、保育所など、教育関係者の、共同参画についての深い理解が期待されて

います。

「男は仕事、女は家庭」に「賛成」は、20 歳代と 70 歳代に多い…

ところで、今回の調査で前回（平成 17 年）とは数値が大きく動いた項目があります。「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という固定的な性別役割分担意識について、「賛成＋どちらかといえば賛成」（女性 44.0%、男性 52.5%）が、「反対＋どちらかといえば反対」（女性 42.7%、男性 35.4%）を上回りました。女性は「賛成」「反対」がほぼ拮抗しているのですが、男性では「賛成」が 17 ポイント上回ります。

前回の結果は逆で、固定的性別役割分担意識に「反対」（女性 64.2%、男性 48.7%）が、「賛成」（女性 29.9%、男性 46.4%）を大きく上回っていました。

この変化をどう考えればいいのでしょうか。共同参画の意識は後退したのでしょうか。少し細かく年代別に見ますと、「男性は仕事、女性家庭」に「賛成」は 20 歳代と 70 歳代に多く、「反対」との差がそれぞれ 12 ポイント、17 ポイントあります。いっぽう、30 歳代から 50 歳代では逆に「反対」の割合が高くなっています。なぜ、若い世代に従来の性別役割分担意識が強いのでしょうか。私は、男女共同参画の理念や実際の成果が、世代を超えて充分には継承されていないことを示唆していると思います。

女らしさ、男らしさといった言葉を受け止める時、人それぞれに抱くイメージは異なります。時代や社会が変われば、そのイメージも変わります。もちろん、メディアやその時代の社会常識、親など周囲の影響も受けます。このように社会的、文化的に形成される性別意識のことを、英語ではジェンダー（Gender）と言います（政府は、社会的性別と訳しています）。

「男は仕事、女は家庭」という性別観は、18 世紀の産業革命以降、男性労働者が工場に働きに出ることから始まり、大工場生産が広がるとともに性別の役割分担意識として固定化しました。なるほど、この役割分担は効率的ではありましたが、いっぽうで女性の人生を家庭に縛り、男性を企業戦士に仕立て上げました。効率一辺倒で仕事と家庭が分断される人生が、果たして、人間らしい求めるものだったのかという近代社会の反省が、「仕事も家庭も」という現代の男女共同参画の理念に生かされているのです。

ところで、ジェンダー（社会的性別）観は、「自分とは何者か」という自我意識とともに育ち、青年期までは比較的自由（？）に形成されたとしても、実際の社会では大きな壁に直面します。女性なら、職場で初めて味わう厳しい女性差別、恋人のジェンダー観とふとぶつかる時、あるいは結婚生活で積み重なる小さな違和感などなど、一人で立ち向かうには辛すぎる事態の出現です。そんな現実遭遇して初めて、お互いの人権を認め合い助け合う共同参画社会の温かさが頭をよぎる一。これが、多くの人たちの今までの体験ではないでしょうか。この体験の継承が、最近どうも、疎かになっているのではないのでしょうか。

男女共同参画基本法が出来て 10 年が過ぎた、もはや男女共同参画の動きは高揚期を過ぎた、とばかりに、社会やメディアの関心が、男女間や世代間の交流ではなく、もっぱら分断や差異の強調に移っているのも気がかりなことです。

高齢期こそ、男女共同参画の実践が生きるはず…

もう一つは、本格的な高齢社会の到来という状況が微妙に影を落としているのではないのでしょうか。これからおよそ 50 年間で、日本では 40%以上の人々が 65 歳以上（2042 年）という成熟社会を迎えます。実際に団塊世代のリタイアも加速しており、この調査でも 60 歳代の回答者がもっとも多くて 27.8%。そして彼らの関心は、共同参画というよりも、もっぱら新しい人生に向かっていくようにも感じます。

自治会・町内会の活動については、「参加した、参加したい」（女性 78.5%、男性 77.3%）と答えており、地域における趣味・スポーツ・学習活動にも「参加した、参加したい」（女性 68.8%、男性 67.9%）、「NPOやボランティアに「参加した、参加したい」（58.4%、男性 63.6%）と、いずれも他の年代よりも高い割合を示しています。

また、高齢期を生き生きと過ごすためにやってみたいこととしては、男女ともに世代を超えて、「趣味の活動」（64.0%）、「旅行」（57.6%）、「家族との団らん」（39.0%）、「夫婦の団らん」（36.1%）となっています。

高齢期を楽しみたいという意欲は頼もしい限りですが、実際は健康や、夫婦のあり方などが大きく影響してきます。若いときに共同参画の実践を疎かにしてきて、いざ共同参画をと妻を見れば、妻は“おひとり様”を謳歌していて家に居なかった、というのは、よく聞く話です。団塊世代や高齢世代が、どのように共同参画を実践して行くのかも期待したいところですし、行政がそのような機会を多く提供するのも大切なことではないでしょうか。

自由記述欄には、高齢者からの声も寄せられていました。

「長い歴史や伝統があるので、この問題を改善するには学校、行政、職場、家庭などで根気よく活動が続けて欲しい」（男性 70 歳代）

「貴重な調査に関わらせていただき有難うございます。今の時代について行くのに必死です。でも市民として何かに参画できる事はうれしいです」（女性 70 歳代）

好奇心を失わない、前向きに生きる、思いやりを大切にする。男女共同参画社会で育てたい価値観に接したようで、感激しました。

現代は、ジョージ・オーウェル『1984 年』の世界、かも

さて、現在の高度情報社会において、メディア、とくにマス・メディアの占める影響は甚大ですが、女性軽視や女性表現のワンパターン化は依然として改善されていません。また、その影響を大きく受ける教育現場では、先生たちが過重勤務に疲れ果てており、子どもたちは携帯やネット社会に引き寄せられている一。

調査でも、「女性の人権が侵害されていると思うこと」として、「DVやデートDV」（51.1%）、「セクハラ」（43.8%）、「ストーカー行為」（39.9%）などに次いで、「メディアでのわいせつな性情報の氾濫」（37.5%）、「児童ポルノを含むアダルト向けのビデオやゲーム」（31.3%）が上げられ、後の二項は女性と男性の認識に 15 ポイント以上の差があります。メディアや携帯など、高度情報社会の“主役”に、女性の方が懐疑的なことがわかります。

情報社会と聞けば、私は英国の作家ジョージ・オーウェルの『1984 年』の一節を思い出

してしまうのです（作品は1947年に発表）。

あらすじは、こうです。Big・Brother が支配する1984年の社会では、連日各戸に「戦争は平和である」「無知は力である」というフレーズが流され、日記をつけると死刑の法律が（罪状は、過去や未来を考えるとという反逆罪！）。主人公はひそかに日記を買ったことを密告され、拷問を受け、自尊心を破壊され、崩壊します。

作品の最後に、作者はこう書きます。「世界中どこでも、自分達と同じような人間がお互いの存在さえ知らずに、憎悪を虚構の壁に隔てられ、それでいてお互いにひどく似通っている」

男女間、女女間、世代間、あるいは民族や国家においても、高度情報社会といわれ情報が一杯であるはずなのに、実際は必要とされる情報が与えられず、虚偽の情報が作り出され、結果として、分断と閉塞感が強まっている現状を見ると、つい、ジョージ・オーウェルの言葉を思い出してしまうのです。

「身の危険を感じるくらいの暴行を受ける」（1.2%）を、ゼロに

男女共同参画社会基本法は、前文で、「21世紀の活力ある日本のためには男女共同参画社会の実現が最重要課題」と書いています。21世紀も10年が経過して、世界の参画度は進んでいますが、日本の共同参画度は依然としてはかばかしくありません。

欧米の家庭では、男性の家事・育児参加は日本（1日1時間）の3倍。政治や企業などの政策決定への女性参画（ジェンダー・エンパワーメント）は、日本は108か国中58位。最近会った英国女性の友人に「日本の女性は可哀想」と言われて、返答に困りました。

しかし、この調査結果を見ると、共同参画への市民の理解度は着実に広がっており、行政への期待も高いことがわかりました。広く公募するなど市民参画の制度や、効果的な広報体制の充実なども課題として挙げられています。

最後に一つ。多くの回答の中で、家庭におけるセクシュアル・ハラスメントなどの被害の経験を問われて、＜家庭の中で＞「身の危険を感じるくらいの暴行を受ける」（女性1.2%）、「性的な行為を強要される」（女性1.6%）、「携帯電話を勝手にチェックされたり、すぐに返信しなければどなったりされる」（女性0.8%、男性1.4%）という答えがありました。

統計上の数値は小さくても、現実苦しんでいる人がいる。数値の背後にある現実を見過ぎさないで、この数値をゼロにするにはどうしたらいいのか。人権擁護のいっそうの広がりや深化が求められると思います。

V. 自由意見のまとめ

1. 自由意見の要約

男女共同参画社会実現のための意見、要望について寄せられた自由記述の意見内容を要約・分類したものと、主な意見を掲載する。

(1) 仕事について

女性が働きやすい環境づくりや支援が必要である	4
男女平等といえども子育てや介護の負担は女性が担うことが多い。女性が働き続けながら育児や介護ができる仕組みを早急に確立する必要があると思う	2
男性が育児休業を取得しやすい職場環境づくりが必要である	2
労働基準法に違反している企業に改善指導を行うべきである	1
子育て中の母親が働かなくても済むよう、父親が安心して働ける雇用環境の充実が優先されるべきである	1
社会全体の意識が「中流」と感じられるような雇用環境の整備が望まれる	1
子育てが終わって働きたいが、働く場所がない	1
男女平等が性文化の否定につながる人が多いように、女性の社会進出が女性文化の否定とほぼ同義になってしまっている。長時間労働を何とかしない限り、男女共同参画社会の実現は無理だと思う	1
雇用における格差・差別を解消し、“すべての人”に自立した生活を保障することが男女共同参画社会である	1
パート・アルバイトはどんなにがんばっても正当に評価してもらえない現状がある	1
不況とあいまって企業の女性の社会進出に対する制度、支援が不十分である	1
子どもが小さいので思うように働けず、経済的に自立していけるか不安である。ワークシェアリングや福利厚生などを充実してほしい	1
女性が働き続けられるための環境整備や正規・非正規雇用の労働条件を平等にすることが重要である	1
男性社会が根強い企業に地域主体で様々なPRやイベントを企画してほしい	1
求人や仕事内容の男女差別といった目に見える部分から変えていくことが男女共同参画社会の実現にもつながる	1
今はいろんなネットワークを使いながら自宅で仕事をこなすこともできるので、在宅勤務が増えれば、子育て中の母親をはじめ、高齢者、子どもにもいい影響を及ぼすと思う	1
年齢や子どもの有無によって求人内容に差がみられる	1
仕事を続ける環境が整備されているにもかかわらず、女性は結婚したら家庭に入るものだという意識が企業側にあり、男女平等には程遠いと感じる	1
男女がもてる能力を生かせる場の保証を行政・企業共に望む	1
育児や家事を夫婦で共同で担うには、男性の育児休暇取得、定時帰りの励行などを進める必要がある	1

(2) 教育について

子どもが小さい頃から男女平等教育をしていくことが大切である	2
学校教育現場での過剰なジェンダーフリー教育には疑問を感じる。男女が互いに尊重し合い、認め合うこと、「女性らしく」「男性らしく」を家庭・教育現場・社会において次の世代へと伝えていくことが大切だと思う	2
学校教育において真に男女平等はない事を伝え、互いに無い部分を補う事が大切だと教えるべきである	1

男女共同参画社会実現を学校教育に導入したらいいと思う	1
子どもたちが先人の様々な努力の上に現在の権利や制度が作られてきた歴史や男女の意味を学べる機会があるとよい	1
男性や子どもに対する男女平等教育を重視すべきである	1
男女共同参画実現には経済的自立が必要なので、小学校のころからお金に関する教育を十分にすべきである	1
女性向けビジネスセミナーや男性向け教育など隔たりや偏見が無くなるイベントを企画し休日に開催してほしい	1
男女共同参画について理解を深めるための学習機会の提供が重要だと思う	1
高校生くらいになると、一人一人が自らを客観視し、将来のことも含め個性を出せるようになるので、義務教育の間は男女区別なく教育したほうが良いと思う	1
男女関係なく教科（例えば、家庭科、技術）が自由に選べるといい	1
学校現場の職員や市職員に対する男女平等教育の研修が必要である	1
考え方の基礎となる自由、平等、基本的人権について、もっと深く正しく理解することを子どもの頃から教育していく必要がある	1
生物としての男女の差が有ることは相互に理解させる必要がある	1
互いの人権を守り尊重していくための情報発信・教育・指導を行うとともに、人権は自己責任であることを認識させる必要もあると思う	1

（３）男女の意識について

男女が互いに尊重し合い、認め合うことが男女共同参画社会実現の一步だと思う	12
男は男らしく、女は女らしくを基本にすれば問題はない	2
本来女性としてやるべきことを放棄し自覚しない行動は、男女平等をはき違えていると思う	2
女性が働くのはいい事だと思うが、子どもは親が育てることが基本であることは忘れてはいけない	2
女性の立場が少しでも向上する事を期待する	1
現実はまだまだ男社会である	1
近い将来、男女の立場が逆転していくような気がする	1
女性の社会参加の増大、非婚化・少子化は女性が自分の身は自分で守る意識が向上しているからである	1
女性の社会進出を目的にするのではなく、男と女は基本的に違うのだから女性の特性をいかすべきである	1
女性は男性に依存せず、仕事を持ち、経済力を持つべきである	1
仕事が正當に評価されないのは男女差別であるが、家庭においては男女の違いがあるのだから役割分担が必要だと思う	1
男女差別の問題を改善するには学校、行政、職場、家庭などで根気良く活動が続けるしかない	1
女性（妻・母親）が働かないことを夫婦共に望まない家庭もある	1
特に高齢者の固定観念を除去することが男女共同参画社会実現の早道だが、難しいと思う	1
老若男女を問わず自立の精神で夢や希望を持って生きることが大切である	1
女性は家事をすべきといつのまにか思っていることが多いので、男女共に考え方を変えていく必要がある	1
高齢者には男女共同参画社会の考えは受け入れられにくいので、若い人達がよい社会を作してほしい	1

京都は性別役割分担意識が根強いので、住みやすい町にしてほしい	1
家庭内の男性の役割や意識を変えない限り、男女共同参画の推進は女性に負担がかかるだけだと思う	1
わが子を育てられない、殺す母親がいる今の現状では、男女共同参画は時期尚早だと思う	1
高齢女性の中には男性優位の考え方が根強い人がある	1
少子高齢化社会においては結婚をして子どもを育てながらの社会参加が望ましい	1
世帯主を中心とした表現は不快な表現である。個人を尊重したシステムにしてほしいが、それ以上に自分自身の中にある「男のくせに」「女なんだから」という心のあり方を改めていく必要があると思っている	1
子どもを持ってみて仕事より育児のほうが大切だと感じるようになったが、それは自立のために自分が努力してきた結果であり、子どもたちもそういうふう to 育ててほしいと思う	1
「男なのに」「女なのに」は差別だが、「男らしさ」「女らしさ」は生きていく上で必要なことだと思う	1
女性よりも男性が男女共同参画についてもっと学習し、性別役割分担意識を変える必要がある	1
男女は生物学的に違うのだから完璧に平等(対等)になることは無理である。各々の性と得意分野を生かしたらよいと思う	1
「家事・育児は女性の仕事」という概念を変えるのは難しいが、若い世代が実践し変えていきたい	1
男性の既得権を手放さないための建て前の平等ではなく、男性の意見(本音)の発信をもっと積極的に行い、相互理解を深めていくべきである	1
人はみな違うので平等は難しいが、相手を労る心をもっていたら自然と行動がともなうものである。そんな社会になるよう願っている	1

(4) 生活や健康について

仕事優先の生活を見直し、家族と一緒に過ごす時間が多い環境で子育てすることが大切である	1
老若男女が参加できる企画や情報が少ない	1
妊娠、出産は女性特有のものであり、男女平等の社会は無理があると思う	1
父子家庭は経済的にも大変(仕事と子育て)で母子家庭のほうが補助があり恵まれていると思う	1
低所得者やひとり暮らし高齢者が地域で安心して生活ができるよう、行政はもっと目配りしてほしい	1
家庭と仕事の両立はたいへんなので、互いの生活に関心を持ち、気持ちを言い合い、認めあうことが必要である	1
長岡京市は子育て環境が整備されていないので、二人目を産むのが不安である	1
夫が仕事で家にほとんどいないので家事の分担も教育の相談もしたくても出来ない	1
男女共同参画社会実現のためには、女性の出産・育児を支援し、子育て家庭をもっと支援することが必要である	1
自分自身の楽しみや頭を少し使うことで若さを保ち、他人に迷惑をかけない生活を続けられるよう心がけている	1
乳幼児期は直接母親が育てることが大切なので、経済的支援を厚くするなど保育園に預けなくても豊かに子育ての出来る社会を作ることが肝要である	1

(5) 人権の尊重について

人を差別するようなエコの取り組みはやめたほうがよい	1
セクハラ定義は曖昧であり、敏感になり過ぎている	1
男女共同参画に関する機関や窓口を統一し、利用しやすくしてほしい	1
自分中心の人が多すぎる。誰もが差別のない暮らしを望む	1
一人の人間としてどう生きていくべきか、又、相手の事を考えられる人になっていくことが大切である	1
「男女共同参画社会実現」という言葉だけが先行し、互いの思いやりの精神が失われているように思う	1
障がい者が地域で生活していくためには周りの理解が大切であることから、男女共同参画社会の推進においても障がい者に対する理解を含めて考えてほしい	1
差別や人権侵害の問題としてもっと扱うべきである	1
女性向け雑誌の性情報の氾濫も規制するべきである	1

(6) 男女共同参画社会について

男女共同参画社会について勉強し、実現のために協力していきたい	5
用語や相談窓口など、男女共同参画についてもっとPRする必要がある	2
男女共同参画社会の実現は現在の社会制度では理想だが、行政が積極的に取り組んでいくことが重要である	2
男女共同参画の制度や取り組みはカタカナ語や理解しにくい用語が多くわかりにくい	2
トップが男女共同参画の意識を持たない人ばかりなので、いくら取り組んでも空回りになるだけである	1
何にでも男女平等を声高に言う今の風潮に疑問を感じる	1
外国の真似をするのではなく、日本の伝統の良い点は残しつつ新しいものを取り入れるべきである	1
男女共同参画社会は当たり前のことであり、男女がそれぞれ良い部分を出し合う事が一番大切だと思う	1
男女共同参画が課題になる背景について考えることが必要である	1
権利の主張が強い現代社会においては男女共同参画社会は理想論である	1
男女共同参画計画第4次計画の具体的内容を知りたい	1
広報紙等で男女共同参画の情報を毎回取り上げるとよい	1
イデオロギーで動く人の考え方は一般市民の意識とかけ離れており、逆に問題の解決を難しくしていると思う	1
社会、行政、家庭が協力して、考えていくことが大事だと思う	1
男女共同参画を意識したこともないし、困ってもいない	1
男女共同参画計画推進をうたいながら一向に進まないのは、根本に弱者(女性)意識があるからだと思う。役所感覚を破るリーダーシップある新しい発想と決断の出来る首長が待たれる	1
男女共同参画社会の必要性を周知し、行政の役割、各年齢層別の市民の果たすべき役割を明確にすることが必要である	1
男女雇用機会均等化が少子化の要因と言われており、日本の未来を見つめて熟考する必要があると思う	1
地道な努力の積み重ね以外に理想の(男女共同参画)社会は実現しないと思うので、思うように結果が得られなくても実現のためにこれからも努力してほしい	1

ジェンダーフリーなどという言葉がでてくる背後には反社会派の人たちが行政に入りこんでいる。早急に手を打たないとゆとり教育の失敗を繰り返すことになる	1
男女共同参画社会は一部においては実現していると思うので、格差社会の改善と平行して実現していくことが肝要だと思う	1
男女が互いに認め合い思いやる意識を高めるために市としてどうすればよいかを考えるべきである	1
法・制度はある程度整ってきたが、国政の姿勢は真の男女平等には程遠い現実がある	1
よりよい社会をめざして行動する人間でありたい。長岡京市の推進条例などで一步を踏み込んでほしい	1

(7) その他

アンケートの趣旨が明確でなく内容にも偏りがあり、男女共同参画施策推進の参考になるとは思えない	9
アンケートの質問内容がわかりにくい・答えにくい、カタカナ語が多い	7
アンケート依頼の宛名に夫婦間で「～様方」が使われているのに違和感を感じる	1
アンケートの事前予告はがきは不要だと思う	1
このようなアンケートに税金を使わないでほしい	1
思いを書きとめたものをアンケートに同封するので、参考にしていきたい	1
ジェンダーの言語解説は性同一性障害にはあてはまらない。社会的性差別生育の観点で使われていることが多く、このアンケートでもそのような意味で使われていると思う	1
“男女平等を”と言いながら、アンケートで男女で違う質問をするのは矛盾している	1
アンケート結果を公表してほしい	1
行政改革に取り組み、浮いた財源を教育、福祉などにまわしてほしい	3
長岡京市のさらなる発展を期待している	2
子どもが安心して過ごせる町にしてほしい	1
経済的な不安をなくしてほしい	1

2. 主な自由意見

(1) 仕事について

- ◆子どもを持つ人も働きやすいように、企業等にも協力を呼びかけてほしい。子どもがいると思ったように働かせてくれない！！（女性 20 歳代）
- ◆市や地域が男女平等とPRしても、一般の企業に浸透しない限り、社会全体での男女共同参画社会実現にはならないと思います。まだまだ男性社会が根強い企業に地域主体で様々なPRやイベントを企画してほしい。（女性 20 歳代）
- ◆育児など、夫婦で共同で担うには、企業内で男性の育児休暇取得、定時帰りの励行などが必要と感じます。「家事・育児は女性の仕事」という概念は、長い歳月をかけないとなかなか変わらないと思います。若い世代が実践し変えていきたいという思いはあります。（女性 30 歳代）
- ◆男女平等といえども、収入の差や社会通念によって、いまだに子育て、介護の負担は女性が負う割合が多い。男女共同参画の実現には、女性が働き続けながら育児や介護ができる仕組みを早急に確立する必要があると思う。（女性 40 歳代）
- ◆会社に行かなければ仕事をしているとはみなされないというのはおかしいというか古い考えだと思う。いろんなネットワーク、機器を使いながら、自宅で仕事をこなすこともできると思う。若い方

から中高年の方が平日居られたら満員電車になることもなく、渋滞もおこらず、小さいお子さんをお持ちの母親は助かるし、防犯上もいいと思う。そして女性、高齢者の不安が少しでもなくなれば、子どもにもいい影響を及ぼすと思う。（女性 40 歳代）

- ◆どれだけ仕事を頑張っても、上司（男）はパート、アルバイトには評価しない。50 才をこえた女性には冷たく若い人を大事にするような職場では無理です。正職になれるチャンスもない。仕事量は多いのに…。（女性 50 歳代）
- ◆子育てで長く家庭に入っていて、いざ働こうと思ってもなかなか雇用されない。（女性 50 歳代）
- ◆女性が働き続けられるための条件作りが第一だと思います。保育所の充実と子どもを持っている人を優先的に企業が採用するような手立てをとるべきでしょう。そして正規雇用の人と非正規の人の労働条件を同じにすることも大切だと思います。（女性 60 歳代）
- ◆バイトの求人案内を見ていると、雇用条件の部分で“女性の方はちょっと…”というニュアンスの表現が入っていたり、この仕事は男性オンリーだという暗黙の了解みたいなものがあり、会社での仕事内容に差があるなどの不平等さを感じる。いきなり不平等をなくせなどとは言いにくいですが上記の男女共同参画社会をと言うのなら目に見える部分から少しずつ変えていけばいいと思う。（男性 20 歳代）
- ◆長時間労働を何とかしないと、結局無理なのではないか。（男性 30 歳代）
- ◆職場に育児休暇を取得した男性職員がいた。同僚のなかに表立って異論を唱える者はいなかった。しかし、欠員分が補充されるわけではなく現場のやりくりで穴を埋めるしかなかった。本人もこのことを気にしていた。気兼ねなく制度を利用できる裏付けが必要だと思う。（男性 50 歳代）
- ◆企業の取り組みも大切だと思う。不況になれば本業だけに専念せよという企業論理がまかり通ってしまう。女性の社会進出に対する制度、支援が不十分である。（男性 50 歳代）
- ◆雇用における格差・差別を解消し、“すべての人”に自立した生活を保障することであろう。（男性 70 歳代）

（2）教育について

- ◆先人の様々な努力の上に現在の権利や制度などがあると思います。感謝して恩恵を受けたいと思います。子ども達には、その歴史を学んで欲しいと思います。その上で男女の意味を学べる機会があったら良いと思います。権利の上での平等と生活の中の平等、精神的な平等、いろいろあるので、とてもむずかしいアンケートでした。（女性 30 歳代）
- ◆言葉を今のアンケートで初めて知りました。長岡京市としてのPRが少ないのでは。問 25 の相談窓口についても、あまり知らなかった様に思います。（女性 60 歳代）
- ◆20 才から 7 年間会社勤めをしましたが幸いにも仕事の面でも人間関係でも男女差別を受けることなくやってこれました。定年退職した主人は家事を分担してくれます。息子達には社会も家庭も男女協力して作っていくものと教えたつもりです。でも現実の社会は決してそうではありません。新聞では目にしますが現実にはふれる機会がありません。情報を提供してもらい学習の機会を作り皆で学ぶことが大切だと思います。（女性 60 歳代）
- ◆男女共同参画のためには、まず、経済的自立が必要であるので、小学校のころから、お金についての教育を十分にすべきである（→金融まで）（男性 20 歳代）
- ◆男女平等が、性文化の否定につながるケースが多いように感じる。文化の変革には、それなりの時

間をかける必要があろう。同様のことは、女性の社会進出についても言える。女性の社会進出が女性文化の否定になってはならない筈だが、現状ではほぼ同義になってしまっている。（男性 30 歳代）

- ◆長い歴史や伝統があるのでこの問題を改善するには学校、行政、職場、家庭などで根気良く活動を続けざるを得ないと思います。（男性 70 歳代）

（3）男女の意識について

- ◆地域のイベントやセミナーは平日に行っていることが多いので、普通に働いていると、行きたくても行けません。休日にイベントをもうけて欲しいです。（女性 20 歳代）
- ◆男と女は違うのだから平等でなくてはいけないとは思わない。男と女というよりも その人その人の個性が大切だと思う。（女性 30 歳代）
- ◆努力がなかなかむくわれない閉そく状況にありますが、地道な努力の積み重ね以外に理想の（男女共同参画）社会は実現しないと思うので、思うように結果が得られなくても実現のためよろしく願いします。テーマが大きいので多岐にわたることでしょうが目のさめるようなよいアイデアが浮かびません。（女性 40 歳代）
- ◆老若男女、各々が尊重し合い、認め合うことが基本だと思います。大人、子ども、男女、各々の人権を尊び、各々の働きを尊び合うことが実現の一步だと思います。（女性 50 歳代）
- ◆過去の事です、子どもの就学通知が祖父（世帯主）の名前でしたので、他の家庭は父親の名前が書かれていて子どもの心はとても傷つきました。母子手帳の申請も祖父（世帯主）の名前で出しました。何か気持ちがスッキリしませんでした。公の機関が世帯主を中心とした表現を使う事に不快な思いをしてきました。「子の妻」「子の子」etc 三世同居ゆえの問題なのでしょうが、とても不快な表現です。これからの社会は個人を尊重したシステムをキチっとつくって欲しいと思います。それ以上に問題なのは「男のくせに」「女なんだから」・・・となにげに口にしてしまう私達自身の心のあり方を改めていく必要があると思います。（女性 60 歳代）
- ◆女性しか妊娠、出産出来ないのに、男女平等の社会は無理があるのでは…。（男性 20 歳代）
- ◆女性の社会進出（主に仕事への）は十分進んだと思うので、今度は、男性の家事・子どもの教育への進出を重視していくべきである。言葉にカタカナ語、難しい漢字語が多過ぎ、本当に理解してもらいたいのか疑問な制度、取り組みばかり。（男性 20 歳代）
- ◆京都はまだまだ女性だから母だからという考えが根強いと思うが住みやすい町にして下さい。（男性 40 歳代）
- ◆老若男女が参加できる企画が少ない。自治会等、情報が少ない。（男性 60 歳代）

（4）生活や健康について

- ◆日本全体の事になると思いますが、やはり日本人は仕事への優先順位が高すぎる（働きすぎ）。家庭、家族と一緒に過ごす時間がもっと長くなれば、夫婦がもっと歩みよることができるだろうし、その中で育つ子どもが将来大人になった時、男性、女性それぞれを尊重した生き方ができていくようになるのではと思っています。（女性 20 歳代）
- ◆パートに出て、こちらも収入を得ようと努力して、帰ってから子守りもして結構体力も、精神的にも、つらい時があるのですが、夫に話しても「自分もしんどい」と言われ、子守りをたのみづらいで

す。女性が働くと、家事や子育てがおろそかになることもあり疲れた姿を見せることもあります。お互いの生活に関心を持ち、気持ちを言い合い、認めあうことが必要だと思います。（女性 30 歳代）

- ◆夫が仕事で出張に出てしまい、家にほとんどいないので家事の分担も教育の相談もしたくても出来ない。私も経済的に自立出来る程の仕事をしたいと考えてはいても家庭をほっておくわけにもいかず子どものいない時間だけの仕事をしています。子どもが大きくなってから今とは違う仕事で自立する事が出来るものだろうか…と不安です。子どもを持った以上、夫婦のどちらかは家庭のことを考えたり子どもの世話をするのは必要だと思います。ワークシェアリングというのかな？時間も半分だけど時給 900 円ではなく福利厚生などをつけてくれたらいいかなと思います。（女性 40 歳代）
- ◆女性は家のことをきちんとしなければならないと、いつのまにか思っていることが多いので、家事においては男女共に考え方を変えていく必要があると思います。男女関係なく、その人それぞれにあう仕事が続けられる社会であってほしいと思います。（女性 40 歳代）
- ◆社会がいくら男女共同参画社会をとんでも、家庭内における男性の役割や意識を変えない事には、この実現のために余計に女性に負担がかかるのでは？（女性 50 歳代）

（５）人権の尊重について

- ◆子どもたちが性や暴力を扱ったゲーム情報などに触れるより前の時期に、「人の尊厳」や「生殖の大事さ」を実感できるような機会をつくるのが大切だと思います。（女性 50 歳代）
- ◆私自身が身体障がい者だが、地域とのつき合いで障がい者に対する理解をえられ普通に暮らしている。男女共同参画社会実現のために、身体障がい者も含めてほしい。やっぱり理解がないと実現はありえないと思う。（女性 50 歳代）

（６）男女共同参画社会について

- ◆相談窓口、標語、制度などの数が多すぎて、覚えきれない。１つの窓口、２、３の標語・目標、２、３の制度に統一し、利用者が利用しやすいものにするべきである。（男性 20 歳代）
- ◆社会、行政、家庭が一つとなり、考えていく事が大事だと思います。（男性 30 歳代）
- ◆男女共同参画社会で出来ていない事は？ 私の周りではほぼ出来ている気がしています。何故男女共同参画社会が課題になったのか等、背景について教えて頂ける機会があればと思います。（男性 30 歳代）
- ◆この質問に対して「男女共同参画社会実現」に対してまず固定概念がありすぎる設問が多い。（男性 50 歳代）
- ◆男女共同参画計画第４次計画の具体的内容を知りたい。（広報活動の拡大）（男性 60 歳代）
- ◆とくに女性が、社会にでて働けるようにするため、支援制度の充実が必要。新型インフルエンザ流行時に小学校・幼稚園・保育所が、一時閉館になったような場合、仕事を休まずに安心して会社に出勤可能となる必要がある。男女共同参画社会の必要性を広く理解されるための PR、特に行政の役割、各年齢層別の市民の果たすべき役割を明確にすることが必要ではないでしょうか。（男性 70 歳代）

(7) その他

- ◆選択肢として挙げられているものを選んでいますが、私自身の考えや実感とは少しズレのあるものもありました。今もって差別を実感することの多い社会の中の一女性として、男女共同参画は行政に積極的に取り組んでもらいたい課題です。（女性 20 歳代）
- ◆今回のアンケート依頼の葉書や封書に～様方・・・様の宛名になっているのに違和感を感じました。夫婦間で～様方が使われるのは、結局は世帯主が主ということでしょうか。（女性 40 歳代）
- ◆今回の貴重な市民アンケート調査にかかわらせていただき有難うございます。私は 74 才になりますが現代の若者達とは考え方や捉え方が違い、今の時代に付いて行くのに必至状態です。でも市民として何かに参画できる事はうれしいです。（女性 70 歳代）

VI. 調査票

一人ひとりが輝く地域をめざして
～男女共同参画社会についての市民アンケート調査～

2009(平成 21)年 7 月 長岡京市

ご協力のお願い

市民のみなさまには、日頃から市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本市では「男女共同参画計画」を策定し、性別にかかわらず一人ひとりが個性と能力を発揮し、あらゆる分野に参画していく、男女共同参画社会の実現をめざしてさまざまな施策を進めています。

近年では、市民のみなさまの性別観も大きく変化しています。アンケート調査は、その変化を的確に把握し、本市の男女共同参画施策をさらに進めるために実施するものです。市内にお住まいで 20 歳以上の市民 2,000 人を無作為に選ばせていただきました。お答えいただいた内容は、今後の行政に役立てていくもので、みなさまにご迷惑をおかけすることは、一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださるようお願い申し上げます。

* 男女共同参画社会とは…(基本法第2条より抜粋)

男女が、社会の対等な構成員として、

- ①社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、
- ②政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、
- ③共に責任を担うべき社会



ご記入にあたってのお願い

- 1 性別や年代等を考慮して送付していますので、あて名のご本人が回答してください。もし、ご本人による記入が困難な場合は代筆をお願いします。
- 2 回答は、該当する数字を○で囲んでください。
「その他」を選んだ場合は、() に具体的な内容を記入してください。
- 3 記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて、
8月10日(月)までに 投函してください (切手不要)。

<お問い合わせ>

長岡京市 企画部 政策推進課 男女共同参画担当

〒617-8501 長岡京市開田 1 丁目 1 番 1 号

TEL 955-3162 (直通) FAX 951-5410

メール seisaku@city.nagaokakyo.kyoto.jp

あなたについて

問1 あなたの性別は。(○は1つ)

1. 女性 2. 男性 3. 答えない

問2 あなたの年齢は。(○は1つ)

1. 20~29 歳 3. 40~49 歳 5. 60~69 歳
2. 30~39 歳 4. 50~59 歳 6. 70~79 歳

問3 あなたは結婚していますか。(○は1つ)

1. 結婚していない
2. 結婚していないがパートナーと暮らしている
3. 結婚している
4. 離別した
5. 死別した

問4 あなたの世帯構成は、どれですか。(○は1つ)

1. 一人暮らし
2. 夫婦（事実婚を含む）のみ
3. 両親と子ども（二世帯）
4. ひとり親と子ども（二世帯）
5. 祖父母と親と子ども（三世帯）
6. その他（具体的に ）

問5 あなたのお子さんの年代は。(同居・別居は問いません)(○はいくつでも)

1. 0歳～就学前
2. 小学生
3. 中学生
4. 高校生
5. 大学生・大学院生・専門学校生
6. 社会人
7. 子どもはいない

問6 現在のあなたの職業はどれにあたりますか。(○は1つ)

自営・自由業の方	お勤めの方	無職・学生の方
1. 農林漁業者 2. 商業・工業・サービス業などの自営業主 3. 自由業（開業医、芸術家、宗教家、弁護士など） 4. 上記1～3の家族従事者	5. 会社・団体役員 6. 正社員・正職員 7. パート・アルバイト 8. 派遣社員 9. 内職・在宅就業 10. その他（具体的に ）	11. 専業主婦・専業主夫（収入を得る仕事をしていない） 12. 学生（専門学校生、大学生など） 13. その他の無職（年金生活者、失業中など）

問7 あなたの配偶者またはパートナーは、収入を得る仕事をしていますか。(○は1つ)

1. している
2. していない
3. 配偶者またはパートナーはいない

仕事について

問8 あなたは、現在収入を得る仕事をしていますか。(○は1つ)

1. 仕事をしている

2. 仕事はしていない



P4 問10へ



「1. 仕事をしている」と答えられた方におたずねします。

問8-1 あなたは、いまの仕事にどんな不満や悩みがありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 収入が少ない | 9. 職場の人間関係がむずかしい |
| 2. 労働時間が長い | 10. 女性が働き続けることに理解がない |
| 3. 休暇がとりにくい | 11. 将来が不安（リストラ・倒産）である |
| 4. 能力が正當に評価されていない | 12. 仕事と自分の時間の区別がつかない |
| 5. 労働条件がはっきりしない | 13. 育児休業がとりにくい |
| 6. セクシュアル・ハラスメントがある | 14. 介護休業がとりにくい |
| 7. パワー・ハラスメントがある | 15. その他（具体的に |
| 8. 昇進や昇給などの待遇が男女で違う | 16. 特にない |



「8. 昇進や昇給などの待遇が男女で違う」と答えられた方におたずねします。

問8-2 それはどんなことですか。(○はいくつでも)

	る優遇「男性」 されて方が	る優遇「女性」 されて方が
① 採用・募集	1	2
② 仕事の内容、仕事の分担	1	2
③ 給与・賃金	1	2
④ 昇進・昇給	1	2
⑤ 能力・成果の評価	1	2
⑥ 研修・訓練の機会	1	2
⑦ 勤務時間	1	2
⑧ 定年・退職・解雇	1	2
⑨ お茶くみや雑用	1	2
⑩ その他（具体的に	1	2

問9 あなたの昨年1年間の収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。（○は1つ）

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 1 0 3万円未満 | 5. 4 0 0万円～5 0 0万円未満 |
| 2. 1 0 3万円～2 0 0万円未満 | 6. 5 0 0万円～7 0 0万円未満 |
| 3. 2 0 0万円～3 0 0万円未満 | 7. 7 0 0万円～1, 0 0 0万円未満 |
| 4. 3 0 0万円～4 0 0万円未満 | 8. 1, 0 0 0万円以上 |

問8で「2. 仕事はしていない」と答えられた方におたずねします。

問10 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○は1つ)

1. ぜひ、仕事につきたい 3. 仕事につきたいと思わない
2. できれば、仕事につきたい 4. わからない

問 10－1 あなたは、仕事につきたいと思う上で何か困ったことや不安がありますか。
(○はいくつでも)

1. 仕事の募集が少ない
2. 勤務時間や雇用形態、賃金などの労働条件が自分の希望と合わない
3. 自分の能力や適性にあった仕事が少ない（ない）
4. 就職に関する情報が得にくい
5. これといったキャリアや資格がない
6. 仕事のブランクが長い
7. 乳幼児の子どもがいる
8. 介護や看護の必要な家族がいる
9. その他（具体的に ）
10. 特にない

教育について

全員におたずねします。

問 11 男女平等を進めるために、小学校・中学校でどのような取り組みが重要だと思いますか。
(○はいくつでも)

1. 男女平等の意識を育てる授業をする
2. 進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする
3. 小学校の低学年から、「性」は人間の尊厳に関わるものであることを教える
4. 教職員に、男女平等教育に関する研修を充実する
5. 校長や教頭に女性を増やしていく
6. 家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える
7. 情報を読解し、活用する教育を進める
8. 保護者会などを通じて保護者に男女共同参画の啓発をする
9. その他（具体的に
10. 特にな

問 12 次の項目について、子どもにどの段階から教えるのがよいと思いますか。また、その場所はどこがよいと思いますか。（○は各項目にそれぞれ1つ）



	いつから					どこで		
	小学校就学前から	小学校低学年から	小学校高学年から	中学校から	高等学校以上から	学校で	家庭で	学校と家庭両方で
①からだ（性器を含む）の名前、男女のからだのちがい	1	2	3	4	5	1	2	3
②妊娠・出産のしくみ	1	2	3	4	5	1	2	3
③セックス、避妊に関する知識	1	2	3	4	5	1	2	3
④性感染症に関する知識	1	2	3	4	5	1	2	3

問 13 あなたは、子どもにどのような能力を身につけてほしいですか（ほしかったですか）。
※子どものいない方もお答えください。（○は各項目にそれぞれ1つ）

	両方に	主に女子に	主に男子に	特別なほいし身につけ
① 家事能力	1	2	3	4
② 職業能力	1	2	3	4
③ リーダーシップ	1	2	3	4
④ 協調性	1	2	3	4
⑤ やさしさ	1	2	3	4
⑥ たくましさ	1	2	3	4
⑦ 忍耐力	1	2	3	4
⑧ 自立心	1	2	3	4
⑨ 実行力	1	2	3	4
⑩ その他（具体的に ）	1	2	3	4

男女の意識について

問 14 あなたは、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考えをどう思いますか。
(○は1つ)

- | | |
|---------------|----------|
| 1. 賛成 | 4. 反対 |
| 2. どちらかといえば賛成 | 5. わからない |
| 3. どちらかといえば反対 | |

問 15 あなたは、女性、男性それぞれにとって望ましい「仕事とその他の生活のあり方」をどう思いますか。枠内（1～6）からそれぞれ1つ選んで、（ ）内に番号を記入してください。

①女性にとって望ましいもの （ ）

②男性にとって望ましいもの （ ）

- | |
|-------------------------------|
| 1. 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する |
| 2. 家庭生活または地域活動にも携わるが、仕事を優先させる |
| 3. 家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる |
| 4. 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる |
| 5. 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する |
| 6. わからない |

問 16 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。
(○は各項目にそれぞれ1つ)

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている
① 家庭生活では	1	2	3	4	5
② 職場では	1	2	3	4	5
③ 地域では	1	2	3	4	5
④ 社会通念・慣習・しきたりでは	1	2	3	4	5
⑤ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5
⑥ 政治・行政の場では	1	2	3	4	5
⑦ 学校教育の場では	1	2	3	4	5
⑧ 社会全般として	1	2	3	4	5

生活や健康について

問 17 あなたは、平日の 24 時間をどのように過ごしていますか。アンケート記載日に近い日について、①～⑨の各項目に費やした時間をご記入ください。

① 睡眠	時間	分
② 食事、入浴等生理的に必要な時間	時間	分
③ 仕事あるいは学業	時間	分
④ 通勤あるいは通学	時間	分
⑤ 家事	時間	分
⑥ 子どもの世話	時間	分
⑦ 高齢者の世話	時間	分
⑧ 余暇、自由時間	時間	分
⑨ その他（具体的に	時間	分
合 計	2 4 時間	0 0 分

問 18 次の地域活動について、あなたの参加状況に近いものに○印をつけてください。
(○は各項目にそれぞれ 1 つ)



	今 参 後 加 も し 参 た 加 し し たい たい	今 参 後 加 は し 参 た 加 し た くない くない	今 参 後 加 は し 参 た 加 し た くない くない	今 参 後 加 も し 参 た 加 し た くない くない
① 自治会・町内会の活動	1	2	3	4
② PTAや子ども会の活動	1	2	3	4
③ 地域における趣味・スポーツ・学習の活動	1	2	3	4
④ NPO（非営利団体）やボランティアの活動	1	2	3	4
⑤ 民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動	1	2	3	4

「今後は（も）参加したくない」と答えられた方におたずねします。

問 18-1 それはどうしてですか。(○はいくつでも)

1. 仕事が忙しいから
2. 家事・育児・介護で忙しいから
3. 健康状態がおもわしくないから
4. 活動に魅力がないから
5. 人間関係がわずらわしいから
6. 活動の情報が得られないから
7. 参加するきっかけがないから
8. あまり関心がないから
9. その他（具体的に

1. 生きがいをみつけれれるか
2. 健康で過ごせるか
3. 一人になったときの孤独感
4. 一人になったときの身の回りのこと
5. 経済的にやっていけるか
6. 病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか
7. 終のすみかをどこに決めるか
8. その他（具体的に
9. 特にない

1. 働くこと
2. 学習や教養を高めるための活動
3. スポーツ
4. 趣味の活動
5. ボランティア活動
6. 老人クラブ活動
7. 自治会・町内会の活動
8. 旅行
9. 家族との団らん
10. 夫婦の団らん
11. その他（具体的に ）
12. 特にない

1. 男だから頑張れと言われる
2. 妻子を養うのは男の責任だと言われる
3. 男なのに酒が飲めないのかとからかわれる
4. 力が弱い、運動が苦手だとバカにされる
5. 仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前だと言われる
6. 自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある
7. 衣食住のことが十分に満たされず、生活が不便である
8. 家族とのコミュニケーションがうまくいかない
9. その他（具体的に



女性の方におたずねします。

問 22 女性の心とからだの健康を保つために、長岡京市はどのような取り組みをする必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 食生活や健康づくりに関する情報を提供する
2. 安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する
3. 女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する
4. 悩みや不安をカウンセラーなどに相談できる体制を充実する
5. 暴力の被害者に対するケア体制を充実する
6. リフレッシュできるような場を提供する
7. 生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会をつくる
8. その他（具体的に)
9. 特にない

人権の尊重について

問 23 あなたが、女性の人権が侵害されていると思うことはどれですか。(〇はいくつでも)

1. ドメスティック・バイオレンス（夫婦・パートナー間の暴力、DV）やデートDV（恋人からの暴力）
2. セクシュアル・ハラスメント
3. テレビ、雑誌、インターネット（携帯電話を含む）などのわいせつな性情報の氾濫
4. 電車内などでのわいせつな性情報の氾濫（つり広告や乗客の読むスポーツ新聞・コミックなど）
5. ストーカー行為
6. アダルト向けのビデオやゲーム（児童ポルノを含む）
7. 売買春（援助交際を含む）
8. 職場における男女の待遇の違い
9. 男女の役割分担を固定化する考え方
10. 女性の社会進出のための支援制度の不備
11. その他（具体的に)
12. 特にない

問 24 あなたは、職場や学校、地域、家庭などにおいて次のような行為をされたことがありますか。
(○は項目ごとにいくつでも)

	職場	学校	地域	家庭	その他
① 年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる	1	1	1	1	1
② 卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる	2	2	2	2	2
③ 身体をじろじろ見られたり、触られたりする	3	3	3	3	3
④ 宴会などでお酌やデュエットを強要される	4	4	4	4	4
⑤ 性的なうわさを流される	5	5	5	5	5
⑥ しつこくつきまとわれる (ストーカー行為)	6	6	6	6	6
⑦ 性的な行為を強要される	7	7	7	7	7
⑧ 命の危険を感じるくらいの暴行をうける	8	8	8	8	8
⑨ 携帯電話を勝手にチェックされたり、すぐに返信しなければどなったりされる	9	9	9	9	9
⑩ 上記のような経験はない	10	10	10	10	10

問 25 次の相談機関や相談窓口のうち、知っているものはどれですか。(○はいくつでも)

長岡京市

1. 女性の総合相談、女性のための法律相談 (女性交流支援センター) ☎050-7105-8502
2. 市民法律相談、人権相談 (情報管理課) ☎955-9501
3. 心身障がい者相談、精神保健福祉相談 (障がい福祉課) ☎955-9710
4. 教育相談、就学相談 (教育支援センター) ☎050-7105-8516
5. 発達相談・ことばの相談、親と子の健康相談 (健康推進課) ☎955-9704
6. 乳幼児育児相談 (地域子育て支援センター) エンゼル☎953-7711 たんぽぽ☎955-6262
7. 家庭児童相談 (家庭児童相談室) ☎953-7710
8. 母子家庭のための相談 (児童福祉課) ☎955-9558
9. 高齢者の虐待などに関する相談 (地域包括支援センター) ☎050-7105-8508

京都府

10. 婦人相談所、配偶者暴力相談支援センター ☎441-7590
11. 男女共同参画センター ☎692-3437



京都府警

12. 警察安全相談 (警察総合相談所) ☎414-0110、#9110、緊急時は 110 番
13. 犯罪被害者相談 (犯罪被害者対策室) ☎451-9111

男女共同参画社会について

問 26 あなたは、次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。

(○は各項目にそれぞれ1つ)

	よく知っている	少しは中身を知っている	言葉は聞いたことがある	知らない
① 男女共同参画社会	1	2	3	4
② 長岡京市男女共同参画計画第4次計画 (平成18年度～平成22年度)	1	2	3	4
③ 積極的改善措置 (ポジティブ・アクション)	1	2	3	4
④ ジェンダー (社会的性別)	1	2	3	4
⑤ 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
⑥ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3	4
⑦ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康/権利)	1	2	3	4

問 27 男女が共に社会における責任を分かち合う「男女共同参画社会」をつくるために、あなた自身には何ができると思いますか。(○はいくつでも)

1. 仕事、家事、育児を夫婦・パートナーと共同で担う
2. 経済的に自立する
3. 自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する
4. 家庭における子どものしつけや教育は、男女の分け隔てをしない
5. 夫婦・パートナーとのコミュニケーションを深めるために会話を増やす
6. 相手の立場に立って物事を理解するよう努める
7. 自分の意思を相手に伝える技術を身につける
8. 男女の人権、男女平等について理解を深めるよう学習する
9. 男女共同参画を周囲に働きかける
10. 仕事に費やす時間を短くする
11. その他 (具体的に)
12. 特にない
13. 男女共同参画社会になっているので、現状のままでよい

問 28 男女共同参画社会実現のためのご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。



質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご多忙の中、誠に恐縮ですが、調査票を同封の返信用封筒に入れ、**8月10日(月)**までにお近くの郵便ポストにご投函ください。(切手を貼る必要はありません。)

言葉の解説

- 女子差別撤廃条約／女性も男性と平等な権利、機会、責任を享受できる男女平等の実現をめざした条約。
- 積極的改善措置(ポジティブ・アクション)／さまざまな分野への活動に参画する機会の男女間における格差を改善するために、個々の状況に応じて行う措置。
- ジェンダー(社会的性別)／社会通念や慣習の中で社会によって作られた「男性像」「女性像」をいう。「社会的性別」は、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われている。
- 男女雇用機会均等法／雇用の分野で男女が均等な機会を得て、その意欲・能力に応じて均等な待遇を受けられるよう定めている。
- ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)／老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、さまざまな活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態であること。
- リプロダクティブ・ヘルス／ライツ(性と生殖に関する健康／権利)／1994 年にカイロの国際人口・開発会議において提唱された概念で、いつ何人子どもを産むか産まないかを選ぶ自由、安全で満足のいく性生活、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つことなどが含まれており、また、思春期や更年期における健康上の問題等生涯を通じての性と生殖に関する課題が幅広く議論されている。

長岡京市では、男女共同参画社会実現のための大きな一歩にしたいと、「男女共同参画に関する推進条例」の制定に向けて進行中です。今後、「広報ながおかきょう」やホームページなどで随時進捗状況をお伝えします。

長岡京市男女共同参画社会についての市民意識調査報告書

発 行 長岡京市企画部政策推進課
〒617-8501
京都府長岡京市開田一丁目1番1号
電話 075-955-3162
発行年月 平成22年3月